

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

**平成26年度～平成30年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 工学院大学 2 大学名 工学院大学

3 研究組織名 生体分子システムセンター

4 プロジェクト所在地 東京都八王子市中野町 2665-1

5 研究プロジェクト名 生体分子システムを標的とした天然物由来新規生理活性物質の開発

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
今村 保忠	先進工学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 14 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
南雲 紳史	先進工学部・教授	多剤耐性を克服するマクロライドの合成および構造活性相関研究 <テーマ 1.1>	多剤耐性因子阻害剤の開発
松野 研司	先進工学部・教授	がん免疫寛容解除物質の探索と作用機序解明 <テーマ 1.8>	生理活性物質／作用機序の医薬応用
油井 信弘	先進工学部・准教授	気生微細藻類由来生理活性物質の探索、機能解析、および効率的生産 <テーマ 2.1>	微生物由来の新規有用物質の探索
山田 昌治	先進工学部・教授	天然物由来デンプンのアミノ酸との複合化による有用化 <テーマ 2.2>	新規有用物質の食品への展開
小山 文隆	先進工学部・教授	キチン分解酵素の遺伝子発現解析とキチンオリゴ糖生産への展開 <テーマ 2.3>	バイオマス由来の有用物質の探索
坂口 政吉	先進工学部・准教授	細菌キチン分解酵素の取得と性質解析、およびキチンオリゴ糖の生産への酵素改良 <テーマ 2.4>	バイオマス由来の有用物質の開発

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

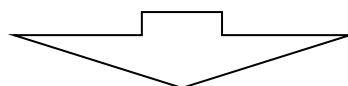
大野 修	先進工学部・准教授	ヒト培養細胞を活用した病態スクリーニングの実施による微生物・海洋生物からの新規医薬シード化合物の探索 <テーマ 2.5>	微生物由来の新規有用物質の探索
今村 保忠	先進工学部・教授	培養基質となる細胞外マトリックスの開発とそれを用いた細胞培養系の構築 <テーマ 1.2> <テーマ 3.1>	培養細胞を用いた生理活性評価
辛 英哲	先進工学部・准教授	血管管腔モデルおよびIV型コラーゲン会合体をいた多機能性人工血管の開発 <テーマ 1.3> <テーマ 3.2>	生理活性測定法の開発
安井 英子	先進工学部・准教授	NF- κ B 阻害活性を指向したDHMEQ 類縁体の合成 <テーマ 1.4> <テーマ 3.3>	生理活性物質の精密合成法を基盤とした類縁体の合成
南雲 紳史	先進工学部・教授	抗腫瘍活性を有する海産天然物の精密合成および構造活性相関研究 <テーマ 3.4>	生理活性物質の精密合成法を基盤とした類縁体の合成
小林 元康	先進工学部・教授	接着タンパク模倣アミノ酸含有ポリマーの合成とその表面の接着剤測定 <テーマ 4.1>	生体分子間相互作用の作用機作解析法の開発
伊藤 雄三	先進工学部・教授	生体分子間の相互作用の共鳴ラマン散乱による振動分光学的検討 <テーマ 1.5> <テーマ 4.2>	新規生理活性測定法の開発
(共同研究機関等) 闔 闔 孝介	理化学研究所研究員	生理活性化合物の結合分子同定 <テーマ 1.6> <テーマ 4.3>	分子間相互作用解析法の開発
長澤 和夫	東京農工大・工学部・教授	生理活性天然物をリードとするグアニン四重鎖を標的とした抗がん剤の創製 <テーマ 1.7>	がん細胞選択的な薬剤の創製

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
気生微細藻類由来生理活性物質の探索, 機能解析, および効率的生産 <テーマ 2.1>	先進工学部・准教授	阿部 克也	微生物由来の新規有用物質の探索

(変更の時期:平成30年 4月 1日)



法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
先進工学部・准教授	先進工学部・准教授	油井 信弘	微生物由来の新規有用物質の探索

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本プロジェクトでは、微生物・植物・バイオマス等の天然物由来の有用物質の開発を効率よく行う研究拠点の形成を目的とする。有用物質の生理活性を、生体分子システムを標的として分子や細胞レベルで明らかにする。本学では、化学と生命科学およびその周辺の多様な分野の研究者が八王子キャンパスに集中しており、種々の天然物由来の有用物質の探索や、その精密合成法を新規に開発するなどの研究成果の蓄積がある。これらの研究者と外部のケミカルバイオロジーの研究者からなる研究拠点を形成し、有用物質開発の効率化を図る。ケミカルバイオロジーは、有機化合物を基礎として生命科学研究を行うことから臨床治療薬など有用な化合物開発に直結する。本研究では、医薬品のほか機能性素材・食品等のシーズとなる有用物質が広く産業界に提示される。その過程で開発される技術・知見は各研究者の専門分野に反映される。また、大学院学生が参加することで有効な研究教育の場となると期待できる。

本学に所属する研究者と、学外の研究者2名から構成される。研究課題は、1つの重点研究テーマと3つの研究テーマからなる。重点研究テーマでは、がん治療薬のリード化合物の開発を行う。さらにケミカルバイオロジーを中心とした手法でそれらが作用する生体分子システムを特定し、化合物の高活性化を狙う。3つの研究テーマでは、これまでの研究成果の蓄積をもとに、医薬品・機能性素材・機能性食品等のシーズを開発する。また、分光学を含め種々の分析法の開発も行う。重点研究テーマをモデルとして、有用物質の開発の効率化を図ることになる。

(2) 研究組織

当該プロジェクトを遂行するための研究組織である「生体分子システムセンター(BMSC)」は、化学系を中心に学内 12 名、学外 2 名の研究者により構成されている。学外からは理化学研究所及び東京農工大学工学部の研究者が参加している。研究代表者はプロジェクト全体を統括し、年3回程度の運営委員会、研究会の開催、年度末の成果報告会と報告書の取りまとめ、共通の研究設備の管理運営等を行っている。各研究者はそれぞれのテーマの研究を推進し、定期的で開催している研究会において情報交換を行い、情報共有、研究材料の提供等によりテーマ間の連携を図っている。

平成 27 年度は研究補助者1名を雇用した。RAについては、28 年度 3 名、29 年度 2 名、30 年度 2 名を雇用した。RAの学生は、各テーマの研究推進、研究会での発表、論文作成等の他、報告会の運営に参加した。研究補助者は、細胞培養の実験補助を行なった。

(3) 研究施設・設備等

平成26年度には、研究装置として FT-NMR 装置を整備した。化合物の構造解析に必要不可欠の装置である。使用頻度は 27～30 年の 4 年間で 10,626 時間と常時稼働している。また、26年度に研究設備としてマルチプレートリーダー、分取用高速液体クロマトグラフ設備、高速液体クロマトグラフ設備、バイオイメージング設備、ラピッドビスコアナライザー設備を整備した。これらも、27～30 年でそれぞれ 1,300、230、800、3,200、2,290 時間であつ

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

た。また、27 年度に細胞培養関連設備としてタイムラプス蛍光顕微鏡を整備した。以降、1,250 時間程度の使用実績がある。

研究施設は既存のものを利用している。FT-NMR 装置は、既存施設の空きスペースへ設置した。その他の設備については、日常的に利用するために、プロジェクト研究員の研究室に配置し、相互に利用し合う体制とした。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

課題1 この重点研究テーマでは、がん治療薬のリード化合物の開発を行うことを目標とした。

テーマ 1.1 では、3.4 と一緒に多剤耐性を獲得したがん細胞に対して細胞毒性を示す天然物、セコスリキンドを含むマクロリド系天然物に焦点を当てた。セコスリキンドの全合成に世界で初めて成功した(*8,9,#42,43,)。また、その改良法である第二世代合成法も完成(*2,#10,24,28,31,40,)した。これにより物質供給とケミカルバイオロジー研究を展開した。〈テーマ 1.2〉および〈テーマ 1.8〉との連携により、生物活性にかかわるデータを蓄積し、多剤耐性克服活性の本体の同定活と性発現に必要な構造単位の発見に寄与した。

テーマ 1.2、1.3、および 1.4 は課題3と 1.5 および 1.6 は課題4との共通課題である。テーマ 1.2 から 1.5 については、課題3および4に記載する。

テーマ 1.6 は、生理活性物質の標的分子を同定する新しい手法の開発を行なった。テーマ 4.3 として新規の方法論の開発も見据えたものである。分子標的の同定に向けて、Ortho-nitrobenzoxadiazole (O-NBD) ユニットを用いたアフィニティーラベル化法を開発した。これは結合することで初めて蛍光を発光する Turn-on 型蛍光物質を用いたアフィニティー標識法である(*1,7,22, #1,5,8,10,12,15,16)。試薬の合成に成功し、さらにモデル分子へ適用し、その有効性を実証した。さらに、アルキンタグと表面増強ラマン分光を組み合わせた新しい解析手法を開拓した(*3,10,15,16,18,21, #3,6,7,9)。特に、生細胞中でのアルキン標識化合物の可視化、ならびに、アルキンタグ標識化したペプチドフラグメントの微量構造解析法を確立するに至っている。当初掲げた目的を達成し、今後に応用が大いに期待できる成果となった。

テーマ 1.7 では、テロメアーゼの阻害に基づく抗がん剤の開発を目的とし、グアニン四重鎖を標的とした抗がん剤の創製を目指した。天然物テロメスタチンの構造活性相関研究に基づいて、より強力な抗腫瘍活性を示す化合物を創製した。テロメスタチンの母核を有する化合物 6OTD とその誘導体を合成(*1,3,5,7,8,10,11,13,17,20,21,27,29,30,44,45, 48,50,53,54,55,58,62)し、腫瘍細胞への作用と構造との相関を明らかにした(*61)。また、がんモデルマウスにおいて顕著な活性を示すことを明らかにした。

テーマ 1.8 では、がん免疫寛容解除物質としてキヌレニン産生抑制剤を天然物由来化合物ライブラリーから探索し、ヒット化合物として9種類のケモタイプを同定(#3,4,6-15)した。作用機序の解明検討から、MF-20 は転写因子 STAT1 発現抑制による IDO 発現低下に基づく作用であることを突き止めた(*7)。また KP-148 と KMF-114 は、新規作用機序である可能性が示された(#1)。IDO 阻害活性を有する天然物 brassinin 誘導体の合成により、強力な IDO 阻害活性を有する化合物を見出した。本化合物は経口投与により有意な in vivo 抗腫瘍活性を示したことから、がん治療薬のリード化合物の創製に成功した。

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

課題2 この課題では、さまざまな天然物由来の生理活性物質および有用物質を収集し、また、その合成・構造研究を行なっている。

テーマ 2.1 では陸上に生存するユニークな微生物である気生微細藻類 (*Coelastrella* sp) に着目した。独自に単離に成功した KGU-Y002 株は、塩(疑乾燥)ストレス培養において総カロテノイド含有量が増加し、塩の種類により合成されたカロテノイドの組成が変化することを発見した(*4-7,9,10, #1,2,9,17,19,21,23,29,32-34,37,40-42,44-47,49,52-54,56,58,59,61-64,68,70,74)。得られたエステル型カロテノイドの生理活性評価(*2)を行う。また、この株の脂質から新規クロロフィルの抗菌活性物質を単離した(#3,5,8,12,13,21,26,32,40,43,69)。

テーマ 2.2 では、天然物由来のデンプンを材料としている。120°C程度の飽和水蒸気下でアミノ化合物と複合化したデンプンを創製し、糊化特性を変化させることに成功した。糊化温度は、グルタミン酸やアスパラギン酸との複合化において高くなった(*2, 6)。複合化のメカニズムを探るため、X 線回折、およびデンプン粒子断面の顕微鏡観察を行い、粒子断面の観察した結果、微細構造はみられなかったが、同心円状の層状構造がみられ、湿熱処理に伴って層間距離に変化が起こることが分かった(#4)。また、アミノ酸とともに湿熱処理を行うと難消化性が数倍程度上昇することが分かった。とりわけ、プロリンとの複合化は有効であった。糊化温度変化と難消化性は必ずしも関係があるわけではなかった。

テーマ 2.3 および 2.4 は、バイオマスであるキチンの有用化を目指した研究である。2.3 では、哺乳類由来のキチン分解酵素を遺伝子工学およびタンパク質化学的に研究してきた。これまでの研究で、マウスとヒトにおけるキチナーゼ遺伝子発現解析を終了し、キチナーゼが高く発現する組織を明らかにした(*12,14, #12,28,33,34,40,66,69,79,80)。さらに、大腸菌でのマウス *AMCase* と *Chit1* の発現に成功し、組換えほ乳類キチナーゼが収得できた(*3,11,13, #52,54,56-58,62-68,71,72,74,78-79,81-83)。そして、キチンオリゴマーの蛍光標識の改良法の確立を行い、ほ乳類キチナーゼによって生産されたキチン分解産物の中性領域での解析を開始した(*6, #35)。以上の点を踏まえ、発展研究として、*AMCase* はマウスの消化器系で働く糖質分解酵素であることを証明した(*4,5,7,8,10, #1,8,9,14,16,19,21,24,25)。さらに、アミノ酸置換を伴う塩基置換によるヒト酸性ほ乳類キチナーゼの活性の喪失の原因解明と復活にも成功した(*9, #40-83)。キチン分解酵素の機能解析研究を行い、キチンオリゴ糖の産生方法を確立することを目指した。ほ乳類や鳥類におけるキチナーゼの発現レベルの探索(*1,2, #31-37)、組み換え酵素を改変等により機能の詳細を明らかにした。成果は多数の投稿論文に報告され、キチナーゼ研究に大きく貢献した。

2.4 では細菌由来のキチン分解酵素に着目した。得られた新規キチナーゼの酵素化学的性質、キチン分解活性および多糖への結合活性を解析した(*1,3-7, #2,40,46,50,58,65,73,79,88)。これら酵素は固有の特性を示すことがわかった。今回、見出したキチナーゼ *LinChi35* の触媒部位の改変により、糖転移活性を付与されることを発見し、キチンオリゴマーの生産の可能性を示した。また、糖質分解酵素であるトレハラーゼを発見した(*2, #18,29,68)。逆反応によるトレハロース類似体合成へ向けて酵素の利用を試みる。

テーマ 2.5 では、微生物および海洋生物を対象としている。新規医薬シード探索のための評価系として、①栄養飢餓選択的細胞死誘導物質の探索(#4,8,23,31,36,38,41,43,44-48)、②キヌレニン産生阻害物質の探索(*4, #1,6,10,13,16,20,24,27,29,32,37,39)、③LPS が誘導する炎症を阻害する化合物の探索(#9,12,14,18,21,40)、④小胞体ストレス阻害物質の

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

探索(#17,22,35)、⑤新規免疫賦活剤の探索(#42)、⑥がん細胞特有のアミノ酸代謝阻害剤の探索のスクリーニング系を構築した。それぞれの評価系で海洋生物由来サンプルに活性を見出し、活性物質の単離に至った。特に栄養飢餓選択的細胞死誘導物質としてシアノバクテリアから kalkipyronone、panaxcerol B を単離し、それらの化合物がグルコース飢餓条件選択的な細胞死誘導活性を示すことを明らかにした。また、キヌレニン産生阻害物質としてシアノバクテリアから新規ペプチド系化合物を単離し、IDO の発現を阻害する活性を見出した。LPS 機能阻害物質として、biseokeaniamide A を単離し、本化合物が LPS のシグナル伝達を阻害することを見出した。さらに、小胞体ストレス誘導性細胞死阻害物質として methyl-3-hydroxyoctadecatrienoate を単離した。以上のように、活性を見出したそれぞれの化合物に新たな医薬リード化合物としての可能性が期待される成果が得られた。

課題3 生理活性物質のアッセイ法の開発と、活性物質の改変・有効化を図る。

テーマ 3.1 と 3.2 は、新規細胞培養系を開発することに重点をおいている。

テーマ 3.1 では、重点課題テーマ 1.2 としてがん治療薬の開発研究のためのアッセイ系の構築を目指すとともに、アッセイ法として利用可能な細胞外マトリクスを用いた細胞培養法を開発した(*9,12,13, #3,7,8,18,23,25)。がん治療薬の開発に向けた取り組みでは、テーマ 1.1 で合成されたマクロリド系化合物の多剤耐性因子阻害効果を調べるアッセイ系を構築した。その結果、セコスリキンドは P 糖タンパクを阻害すること、IC50 を決定し、環状構造が活性発現に重要なことを見出した。細胞培養系の構築においては、VI 型コラーゲン会合体や fascia (筋膜) を培養基質として新たに開発した(*2,4, #6,15,26,30,35)。

テーマ 3.2 は、重点課題での利用も見据えた小課題として血管新生モデル系の開発を目的とした。血管新生を阻害する薬剤は抗がん剤として有望視されており、有効な細胞培養技術は新規抗がん剤の開発に展開できる。血管内皮細胞と線維芽細胞の共培養による血管新生モデル系を用い、血管形成に影響を及ぼす因子として、ローズヒップ抽出液とヘスピリジンを得た。また、GFP を血管内皮細胞に導入することで、血管形成を動的に観察できる系を構築した。さらに、血管内皮細胞と線維芽細胞のスフェロイドを形成させることで、血管の伸長を観察できる系を構築した(#2,4,7)。この系で作成された構造は生体中の新生血管によく類似していることを明らかにした。

テーマ 3.3 および 3.4 では、生理活性物質の改変・有効化を目指した研究を展開した。3.3 では、DHMEQ 類縁体の構造活性相関を調べた(*4,5, #2,6,)。また、アミノ酸エステルから導いた α -ジアゾエステルを利用した複素環合成をおこなって(#3,10-12,17,19,23)、一定の成果を挙げている。その過程で、7 員環化合物の新規合成法を見出した(#4,22,25,28)。

3.4 では、ミトコンドリアの F_1F_0 -ATP 合成酵素の阻害剤であるベンツリシジン X の新しい全合成法(#15,17,27,37)を開発した。マクロリド系天然物の全合成研究(#1,4,7,8,14,19,20,23,33,41)を行なった。

課題 4 活性物質の分子間相互作用の分析法の開発を目指した。

テーマ 4.1 では、分子間相互作用の力学強度を物理化学的手法により測定し、生理活性分子、不活性分子の違いを評価する手法の確立を目指している。具体的には生理活性に関与する官能基、原子団を有するモデル化合物を合成し、このモデル化合物と標的とする生体分子や生体膜と間にはたらく相互作用を走査プローブ顕微鏡により実測することを試

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

みる。これにより細胞組織やコラーゲン繊維などの局所表面の形態や相互作用を分析し、生理活性作用との関係を明らかにすることが研究の目的である。これまでに、分子間相互作用を示すモデル分子および高分子の合成し、走査プローブ顕微鏡を用いたフォースカーブ測定法を確立した(*1,3, #2,22,24,27)。また、これを利用して、フジツボ幼生の吸着機構の一端を解明した(*2, #1,3,10,12,16,19,20,23,25)。

テーマ 4.2 では、生体分子の分子間相互作用を直接測定しうる方法論として、共鳴ラマン散乱による分光学的手法を取り上げた。V型コラーゲンとヘパリンの相互作用を分光学的解析により測定し、理論計算で定量的に評価した(#1)。本研究課題は、テーマ 3.1 との共同研究であり、共鳴ラマン散乱法についてはテーマ 1.6、テーマ 4.3 と共通するものであった。

本プロジェクトでは、研究基盤を形成するために、研究者間の交流を促進することにも重点を置いた。これまでの期間に、試料や方法の提供、アッセイの受託、共同研究などの交流が行われた。テーマ 1.2 では、1.1 で合成した試薬のアッセイ系を開発する共同研究が行われ、1.4 で合成された試薬のアッセイを実施した。また、1.4 は 3.2 へ試薬を提供する一方、2.5 にアッセイを依頼した。1.8 では、2.5 より新規医薬シード化合物の提供を受けた。3.1 は、4.2 にコラーゲンを提供し、共同研究に進んでいる。3.1 からは 4.1 にも試料が提供された。3.2 は、1.4 および 2.1 から試料の提供を受けている。

<優れた成果が上がった点>

- ・セコスリキンドを含むマクロリド系天然物の全合成による物質供給とケミカルバイオロジー研究を展開した。また、類縁体合成を達成した。
- ・セコスリキンドが多剤耐性因子阻害能を持つことを明らかにした。環状構造が活性発現に重要なこと見出した。
- ・分子標的の同定方法として、Ortho-nitrobenzoxadiazole ユニットを用いたアフィニティーラベル化法、および、アルキンタグと表面増強ラマン分光を組み合わせた新しい解析手法を開拓した。
- ・テロメアーゼの阻害に基づく抗がん剤開発のリード化合物を創製した。
- ・がん免疫寛容解除物質としてキヌレニン合成阻害剤を見出した。
- ・経口投与で有意な in vivo 抗腫瘍活性を示す化合物の創製に成功した。
- ・気生微細藻類から有用化合物を単離した。
- ・難消化性デンプンを開発し、血糖値向上抑制などの付加価値を付与した食品素材を創製した。
- ・ほ乳類、鳥類におけるキチナーゼ遺伝子発現解析した。
- ・大腸菌での組換えキチナーゼの発現系の確立と天然キチナーゼの精製法を確立した。
- ・キチンオリゴマーの蛍光標識の改良法の確立し、キチナーゼ分解産物を解析した。
- ・Chia は消化器系で働く糖質分解酵素であることを証明した。
- ・アミノ酸置換を伴う一塩基置換によるヒト Chia の活性の喪失と復活を示した。
- ・Chia は、キトサンからキトオリゴ糖を生成することを示し、キトオリゴ糖産生方法への可能性を示した。
- ・細菌由来のキチン分解酵素の同定し、遺伝子改変により、新規活性の付与が可能なことを示した。
- ・海洋生物等の天然物から、疾患の治療に役立つ新規医薬シード化合物を複数見出した。

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

- ・アッセイ法として利用可能な細胞外マトリクスを用いた細胞培養法を開発した。
- ・血管内皮細胞と線維芽細胞の共培養スフェロイド形成を用い、より生体に近い血管新生培養系を開発した。
- ・生体分子間相互作用の測定方法を新たに開発した。

<課題となった点>

当初の計画を概ね実施できたと考えている。実用化、特許化などは、今後の課題と考えている。

<自己評価の実施結果と対応状況>

プロジェクト全体を通して多くの研究成果が得られ、外部発表も積極的に行った。RA を雇用し、将来の研究者の育成に力を注いだ。研究室に所属する学生による論文や学会発表など多数あり、十分な業績を得られたものと判断している。また、得られたデータについては、日常的議論し、研究会等で定期的に意見交換を行なってきた。研究者間の各々の研究についての理解が深まったことで、研究基盤ができたと考えられる。具体的なテーマ間の連携は今後も進められる。その成果は、論文発表の活発化、技術の実用化として、公開や社会へ還元することになる。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

中間報告会において、著名な学外研究者でケミカルバイオロジー領域の専門家2名による外部評価を行なった。また、学内の化学系の研究者で当該分野以外を専門とする研究者2名に、報告書および中間報告会の映像による評価を行なっている。その結果は各研究者にフィードバックされるとともに、運営委員会および幹事会で分析され、研究計画の修正等の検討に用いた。

最終報告会においては、中間報告会と同じ学内外の評価者により、報告書と映像による評価を行った。ほとんどの研究テーマは、高い評価か、中間報告より評価の改善が見られた。

<研究期間終了後の展望>

研究者間の交流により、各々の研究課題の理解が進んでおり、研究基盤が形成されたと考えられる。本事業の最大の成果は達成されたと言えるが、研究成果の社会への還元に向けた活動は今後も続けて行う予定である。研究設備等の維持・発展には、一部で大学の支援が得られる予定であるが、本事業をベースに新たな研究プロジェクトを実施することで対応する予定である。その間には、各研究者は学術誌等での成果の公表、研究成果の実用化、特許化など、社会への還元を進めていく。

<研究成果の副次的効果>

特許:

環状ペプチド化合物、キヌレニン産生阻害剤及び医薬組成物(特願 2017-174800、2017 年 9 月 12 日出願) 松野研司、大野修(テーマ 1.8 および 2.6)

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

- (1) ケミカルバイオロジー (2) 生理活性 (3) 多剤耐性
 (4) 抗腫瘍 (5) 細胞培養 (6) アッセイ
 (7) バイオマス (8) 分子間相互作用

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

1-1 & 3-4					
1	Cascade Reaction Including a Formal [5 + 2] Cycloaddition by Use of Alkyne-Co ₂ (CO) ₆ Complex	2019 年	Tetrahedron Letters (60 巻)	Yuki Sakata, Eiko Yasui, Megumi Mizukami, <u>Shinji Nagumo</u>	755-759
*2	Total Synthesis of Sekothrixide Strategically Utilizing Regioselective Coupling of TMS-Protected Epoxy sec-Alcohol with Gilman Reagent	2019 年	J. Org. Chem. (84 巻)	Daisuke Katsumi, Kazuki Nakasone, Naoki Terayama, Eiko Yasui, Megumi Mizukami, Masaaki Miyashita, <u>Shinji Nagumo</u>	1553-1562
3	Syntheses of Polycyclic Tetrahydrofurans by Cascade Reactions Consisting of Five-membered Ring Selective Prins Cyclization and Friedel-Crafts Cyclization	2018 年	J. Org. Chem. (83 巻)	Yuki Sakata, Eiko Yasui, Kazuhiko Takatori, Yuji Suzuki, Megumi Mizukami, <u>Shinji Nagumo</u>	9103--9118
4	Unique ring expansion of a 6-3 bicyclic ring system forming a functionalized 7-membered ring accelerated by nitrogen functional groups	2017 年	Tetrahedron Letters (58 巻)	Eiko Yasui, Rio Ootsuki, Kan Takayama, <u>Shinji Nagumo</u>	3092-3095
5	Selective Mono-reduction of Pyrrole-2,5 and 2,4-Dicarboxylates	2016 年	Chem. Pharm. Bull. (64 巻)	Eiko Yasui, Junpei Tsuda, Satoshi Ohnuki, Shinji Nagumo	1262-1267
6	Synthetic study of arenicolide C: Stereoselective Synthesis of the C19-C36 Segment	2015 年	Tetrahedron Letters (56 巻)	Sho Sunagawa, Haruki Yamada, Minako Naito, Eiko Yasui, Megumi Mizukami, Masaaki Miyashita, Shinji Nagumo	6693-6695
7	Synthesis of 1-(4-Aminobutyl)-2-iminoimidazolidin-4-one Aimed at Preparation of a Creatinine-specific Antibody	2014 年	Chem. Pharm. Bull. (62 巻)	Shun-suke Moriya, Naoki Terayama, Kyoko Hiramatsu, Masao Kawakita, Tatsuya Kiryu,	350-353

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

				Takato Kawanishi, Eiko Yasui, Shinji Nagumo	
*8	Ring opening of disubstituted epoxides linked to a secondary oxygen group with an organocopper reagent	2014 年	Tetrahedron Letters (55 巻)	Naoki Terayama, Shodai Ushijima, Eiko Yasui, Masaaki Miyashita, Shinji Nagumo	6515-6519
*9	Total Synthesis and Structural Revision of Sekothrixide.	2014 年	Organic Letters (16 巻)	Naoki Terayama, Eiko Yasui, Megumi Mizukami, Masaaki Miyashita, Shinji Nagumo	2794-2797
1-6 & 4-3					
*1	Detection of esterase activity by chromogenic and fluorogenic probe based on an O-nitrobenzoxadiazole (O-NBD) unit	2019 年	Bioorg. Med. Chem. (27)	Okada K., Yamaguchi T., Dodo K., Sodeoka M., Obika S.	1444-1448
2	The Translation Inhibitor Rocaglamide Targets a Bimolecular Cavity between EIF4A and Polypurine RNA	2019 年	Mol. Cell (73)	Iwasaki S., Iwasaki W., Takahashi M., Sakamoto A., Watanabe C., Shichino Y., Floor S. N., Fujiwara K., Mito M., Dodo K., Sodeoka M., Imataka H., Honma T., Fukuzawa K., Ito T., Ingolia N. T.	738-748
*3	Visualizing Bioactive Small Molecules by Alkyne Tagging and Slit-Scanning Raman Microscopy	2019 年	Methods Mol. Biol. (1888)	Ando J., Dodo K., Fujita K., Sodeoka M.	99-114
4	Unveiling epidithiodiketopiperazine as a non-histone arginine methyltransferase inhibitor by chemical protein methylome analyses	2018 年	Chem. Commun. (54)	Sohtome Y., Shimazu T., Barjau J., Fujishiro S., Akakabe M., Terayama N., Dodo K., Ito A., Yoshida M., Shinkai Y., Sodeoka M.	9202-9205
5	Indolylmaleimide Derivative IM-17 Shows Cardioprotective Effects in Ischemia-Reperfusion Injury	2018 年	ACS Med. Chem. Lett. (9)	Dodo K., Shimizu T., Sasamori J., Aihara K., Terayama N., Nakao S., Iuchi K., Takahashi M., Sodeoka M.	182-187

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

6	Hyperoxidation of Ether-Linked Phospholipids Accelerates Neutrophil Extracellular Trap Formation	2017 年	Sci. Rep. (7)	Yotsumoto S., Muroi Y., Chiba T., Ohmura R., Yoneyama M., Magarisawa M., Dodo K., Terayama N., Sodeoka M., Aoyagi R., Arita M., Arakawa S., Shimizu S., Tanaka M.	16026
*7	Specific Fluorescence Labeling of Target Protein by Using Ligand-4-Azidophthalimide Conjugate	2017 年	Chem. Commun. (53)	Chiba K., Asanuma M., Ishikawa M., Hashimoto Y., Dodo K., Sodeoka M., Yamaguchi T.	8751-8754
8	Crystal structural characterization reveals novel oligomeric interactions of human voltage-dependent anion channel 1	2017 年	Protein Science (26)	Hosaka T., Okazaki M., Kimura-Someya T., Ishizuka-Katsura Y., Ito K., Yokoyama S., Dodo K., Sodeoka M., Shirouzu M.	1749-1758
9	Phenanthridin-6-one derivatives as the first class of non-steroidal pharmacological chaperones for Niemann-Pick disease type C1 protein	2017 年	Bioorg. Med. Chem. Lett. (27)	Fukuda H., Karaki F., Dodo K., Noguchi-Yachide T., Ishikawa M., Hashimoto Y., Ohgane K.	2781-2787
*10	Alkyne-Tag SERS Screening and Identification of Small-Molecule-Binding Sites in Protein	2016 年	J. Am. Chem. Soc. (138)	Ando J., Asanuma M., Dodo K., Yamakoshi H., Kawata S., Fujita K., Sodeoka M.	13901-13910
11	Structure-activity relationship study of 3-amino-2-indolylactam derivatives: Development of inhibitors of oxidative stress-induced necrosis	2016 年	Chem. Pharm. Bull. (64)	Dodo K., Hayamizu K., Shimizu T., Sodeoka M.	886-898
12	A Platinum-Catalyzed Friedel-Crafts-Type C-H Coupling-Allylic Amination Cascade to Synthesize 3,4-Fused Tricyclic Indoles	2016 年	Chem. Eur. J. (22)	Suzuki Y., Tanaka Y., Nakano S., Dodo K., Yoda N., Shinohara K., Kita K., Kaneda A., Sodeoka M., Hamada Y., Nemoto T.	4418-4421
13	VDAC3 gating is activated by suppression of disulfide-bond formation between the N-terminal region and the bottom of the pore	2015 年	Biochim. Biophys. Acta (1848)	Okazaki M., Kurabayashi K., Asanuma M., Saito Y., Dodo K., Sodeoka M.	3188-3196
14	Unique features of chiral palladium enolates derived from β -ketoamide: Structure and	2015 年	Tetrahedron (71)	Hayamizu K., Terayama N., Hashizume D., Dodo K., Sodeoka M.	6594-6601

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

	catalytic asymmetric Michael and fluorination reactions				
*15	Novel Raman-tagged sphingomyelin that closely mimics original raft-forming behavior	2015 年	Bioorg. Med. Chem. (23)	Cui J., Matsuoka S., Kinoshita M., Matsumori N., Sato F., Murata M., Ando J., Yamakoshi H., Dodo K., Sodeoka M.	2989-2994
*16	Sphingomyelin distribution in lipid rafts of artificial monolayer membranes visualized by Raman microscopy	2015 年	Proc. Nat. Acad. Sci. (112)	Ando J., Kinoshita M., Cui J., Yamakoshi H., Dodo K., Fujita K., Murata M., Sodeoka M.	4558-4563
17	Structure–activity relationships of benzhydryl derivatives based on 10-acetoxychavicol acetate (ACA) and their inhibitory activities on multiple myeloma cell growth via inactivation of the NF-kappaB pathway	2015 年	Bioorg. Med. Chem. (23)	Misawa T., Dodo K., Ishikawa M., Hashimoto Y., Sagawa M., Kizaki M., Aoyama H.	2241-2246
*18	A sensitive and specific Raman probe based on bisarylbutediyne for live cell imaging of mitochondria	2015 年	Bioorg. Med. Chem. Lett. (25)	Yamakoshi H., Palonpon A., Dodo K., Ando J., Kawata S., Fujita K., Sodeoka M.	664-667
19	Structure-activity relationships of oxysterol-derived pharmacological chaperones for Niemann-Pick type C1 protein	2014 年	Bioorg. Med. Chem. Lett. (24)	Ohgane K., Karaki F., Noguchi-Yachide T., Dodo K., Hashimoto Y.	3480-3485
20	Structure-activity relationship study of non-steroidal NPC1L1 ligands identified through cell-based assay using pharmacological chaperone effect as a readout	2014 年	Bioorg. Med. Chem. (22)	Karaki F., Ohgane, K., Fukuda H., Nakamura M., Dodo K., Hashimoto Y.	3587-3609
*21	A “Catch-and-Release” Protocol for Alkyne-Tagged Molecules Based on a Resin-Bound Cobalt Complex for Peptide Enrichment in Aqueous Media	2014 年	Chem. Eur. J. (20)	Miyazaki A., Asanuma M., <u>Dodo K.</u> , Egami H., Sodeoka M.	8116-8128
*22	Turn-ON fluorescent affinity labeling using a small bifunctional O-nitrobenzoxadiazole unit	2014 年	Chem. Sci. (5)	Yamaguchi T., Asanuma M., Nakanishi S., Saito Y., Okazaki M., <u>Dodo K.</u> , Sodeoka M.	1021-1029

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

1 - 7					
*1	Synthesis and Telomeric G-quadruplex-stabilizing Ability of Macrocyclic Hexaoxazoles bearing Three Side Chains	2019 年	Molecules (24 巻)	Yue Ma, Keisuke Iida, Shogo Sasaki, Takatsugu Hirokawa, Heddi Brahim, Anh Tuân Phan, <u>Kazuo Nagasawa</u>	Article number:263
2	Synthesis of All Stereoisomers of RK460 and Evaluation of Activity and Selectivity as Abscisic Acid Receptor Antagonists	2019 年	Chem. Eur. J. , in press	Yu Mikame, Kazuko Yoshida, Daisuke Hashizume, Go Hirai, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Hiroyuki Osada, Mikiko Sodeoka	
*3	Binding of a Telomestatin Derivative Changes Mechanical Anisotropy of Human Telomeric G-quadruplex	2019 年	Angew. Chem., Int. Ed. (58 巻)	Sagun Jonchhe, Chiran Ghimire, Yunxi Cui, Soyoun Park, Keisuke Iida, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Hiroshi Sugiyama, Hambin Mao	877-881
4	Identificatin of Target Protein for Batzelladines as CD4	2019 年	Heterocycles, in press	Jun Shimokawa, <u>Kazuo Nagasawa</u>	
*5	Molecular architecture of G-quadruplex structures generated on duplex Rif1 binding sequences	2018 年	J. Biol. Chem. (293 巻)	Hisao Masai, Naoko Kakusho, Rino Fukatsu, Yue Ma, Keisuke Iida, Yutaka Kanoh, <u>Kazuo Nagasawa</u>	17033-17049
6	A Force Sensor that Converts Fluorescence Signal into Force Measurement Utilizing Short Looped DNA	2018 年	Biosens. Bioelectron. (121 巻)	Golam Mustafa, Cho-Ying Chuang, William A. Roy, Mohamed M. Farhath, Nilisha Pokhrel, Yue Ma, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Edwin Antony, Matthew J. Comstock, Soumitra Basu, Hamza Balci	34-40
*7	Analysis of interaction between telomeric i - motif DNA and a cyclic tetraoxazole compound	2018 年	ChemBioChem (19 巻)	Shadi Sedghi Masoud, Yudai Yamaoki, Yue Ma, Asrien Marchand, Fernaldo Richtia Winnerdy, Val?rie Gabelica, Anh Tuan Phan, Masato Katahira, <u>Kazuo Nagasawa</u>	2268-2272
*8	Development of G-quadruplex ligand for selective induction of parallel-type topology	2018 年	Org. Biomol. Chem. (16 巻)	Yue Ma, Yamato Tsushima, Mai Sakuma, Shogo Sasaki, Keisuke Iida, Sachiko Okabe, Hiroyuki Seimiya,	7375-7382

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

				Takatsugu Hirokawa, <u>Kazuo Nagasawa</u>	
9	Esterification of PQQ enhances blood-brain barrier permeability and inhibitory activity against amyloidogenic protein fibril formation	2018 年	ACS Chem. Neurosci. (9 巻)	Kaori Tsukakoshi, Wataru Yoshida, Masaki Kobayashi, Natsuki Kobayashi, Jihoon Kim, Toshisuke Kaku, Toshitsugu Iguchi, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Ryutarō Asano, Kazunori Ikebukuro, Koji Sode	2898-2903
*10	Asymmetric Epoxidation of 1,4-Naphthoquinones Catalyzed by Guanidine-Urea Bifunctional Organocatalyst	2018 年	Org. Lett. (20 巻)	Masaki Kawaguchi, Katsuhiko Nakano, Keisuke Hosoya, Tatsuya Orihara, Masahiro Yamanaka, Minami Odagi, <u>Kazuo Nagasawa</u>	2811-2815
*11	Synthesis of a Quaternary N,N'-Aminal-Containing A-E Ring System of Palau'amine via Enamide-type Overman Rearrangement Reaction	2018 年	Eur. J. Org. Chem. (2018)	Takuya Imaoka, Makoto Iwata and <u>Kazuo Nagasawa</u>	2572-2578
12	A synthesis of 2,6,7-trisubstituted prenylated indole	2018 年	J. Org. Chem. (83 巻)	Motoki Shiozawa, Keisuke Iida, Minami Odagi, Masahiro Yamanaka, <u>Kazuo Nagasawa</u>	7276-7280
*13	Identification of G-quadruplex clusters by high-throughput sequencing of whole-genome amplified products with a G-quadruplex ligand	2018 年	Sci. Rep. (8 巻)	Wataru Yoshida, Hiroki Saikyo, Kazuhiko Nakabayashi, Hitomi Yoshioka, Daniyah Habiballah Bay, Keisuke Iida, Tomoko Kawai, Kenichiro Hata, Kazunori Ikebukuro, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Isao Karube	Article number:3116
14	Total Synthesis of (+)-Gracilamine Based on Oxidative Phenolic Coupling Reaction and Determination of its Absolute Configuration	2018 年	Angew. Chem., Int. Ed. (57 巻)	Minami Odagi, Yoshiharu Yamamoto, <u>Kazuo Nagasawa</u>	2229-2232

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

15	Targeting STUB1-tissue factor axis normalizes hyperthrombotic uremic phenotype without increasing bleeding risk	2017 年	Sci. Transl. Med. (9 巻)	Moshe Shashar, Mostafa E. Belghasem, Shinobu Matsuura, Faisal Alousi, Keshab Rijal, Vijaya B. Kolachalama, Mercedes Balcells, Minami Odagi, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Joel M. Henderson, Amitabh Gautam, Jean Francis, Kumaran Kolandaivelu, David H. Sherr, Katya Ravid, Vipul C. Chitalia	eaam8475
16	FAN1 acts in concert with ubiquitylated PCNA to alleviate replication stress and preserve genome integrity	2017 年	Nature Commun. (8 巻)	Antonio Porro, Matteo Berti, Julia Pizzolato, Anja Saxer, Yue Ma, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Alessandro A. Sartori, Josef Jiricny	Article number:1073
*17	Identification of G-quadruplex structures that possess transcriptional regulating functions in the Dele and Cdc6 CpG islands	2017 年	BMC Mol. Biol. (18 巻)	Daniyah H. Bay, Annika Busch, Fred Lisdat, Keisuke Iida, Kazunori Ikebukuro, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Isao Karube, Wataru Yoshida	17
18	Guanidinium Hydroiodide/Cumene Hydroperoxide-Mediated Intermolecular Oxidative Coupling Reaction of β -Ketoamides with Oxindoles	2017 年	Adv. Synth. Catal. (359 巻)	Takanari Kato, Koji Yasui, Minami Odagi, <u>Kazuo Nagasawa</u>	2881-2889
19	Structure-dependent binding of hnRNP A1 to telomere RNA	2017 年	J. Am. Chem. Soc. (139 巻)	Xiao Liu, Takumi Ishizuka, Hong-Liang Bao, Kei Wada, Yuuma Takada, Keisuke Iida, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Danzhou Yang, and Yan Xu	7533-7539
*20	Adaptive and Specific Recognition of Telomeric G-quadruplexes via Polyvalency Induced Unstacking of Binding Units	2017 年	J. Am. Chem. Soc. (139 巻)	Jibin Abraham Punnoose, Yue Ma, Yuanyuan Li, Mai Sakuma, Shankar Mandal, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Hanbin Mao	7476-7484

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

*21	Targeting glioma stem cells in vivo by a G-quadruplex-stabilizing synthetic macrocyclic hexaoxazole	2017 年	Sci. Rep. (7 巻)	Takahiro Nakamura, Sachiko Okabe, Haruka Yoshida, Keisuke Iida, Yue Ma, Shogo Sasaki, Takao Yamori, Kazuo Shin-ya, Ichiro Nakano, <u>Kazuo Nagasawa</u> and Hiroyuki Seimiya	Article number:3605
22	Total Synthesis of Rishirilide B Based on Organocatalytic Oxidative Kinetic Resolution: Revision of Absolute Configuration of (+)-Rishirilide B	2017 年	Angew. Chem., Int. Ed. (56 巻)	Minami Odagi, Kota Furukori, Kan Takayama, Keiichi Noguchi, <u>Kazuo Nagasawa</u>	6609-6612
23	Synthesis and identification of key biosynthetic intermediates for formation of the tricyclic skeleton of saxitoxin	2017 年	Angew. Chem., Int. Ed. (56 巻)	Shigeki Tsuchiya, Yuko Cho, Renpei Yoshioka, Keiichi Konoki, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Yasukatsu Oshima, and Mari Yotsu-Yamashita	5327-5331
*24	A G-quadruplex structure at the 5' end of the H19 coding region regulates H19 transcription	2017 年	Sci. Rep. (7 巻)	Mitsuko Fukuhara, Yue Ma, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Fumiko Toyoshima	Article number: 45815
25	Oxidative kinetic resolution of cis-fused tricyclic 1-tetralone derivatives by guanidine-bisurea bifunctional organocatalyst	2017 年	Synlett (28 巻)	Minami Odagi, Keisuke Hosoya, Yoshiharu Yamamoto, <u>Kazuo Nagasawa</u>	1305-1309
26	Vitamin D Metabolite, 25-Hydroxyvitamin D, Regulates Lipid Metabolism by Inducing Degradation of SREBP/SCAP	2017 年	Cell Chem. Biol. (24 巻)	Lisa Asano, Mizuki Watanabe, Yuta Ryoden, Kousuke Usuda, Takuya Yamaguchi, Bilon Khambu, Megumi Takashima, Shin-ichi Sato, Juro Sakai, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Motonari Uesugi	207-217
*27	Total Synthesis of Pyrrole-Imidazole Alkaloid (+)-Cylindradine B	2017 年	Org. Lett. (19 巻)	Makoto Iwata, Yuko Kamijoh, Eri Yamamoto, Masahiro Yamanaka, and <u>Kazuo Nagasawa</u>	420-423
28	A-Ring Synthons of 19-Nor Type Vitamin D Derivatives	2017 年	J. Steroid. Biochem. Mol. Biol. (173 巻)	Yusuke Akagi, Koji Yasui, <u>Kazuo Nagasawa</u>	64-68

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

*29	A Single Molecule Study of a Fluorescently Labeled Telomestatin Derivative and G-Quadruplex Interactions	2016 年	Nucl. Acids Res. (45 巻)	Parastoo Maleki, Yue Ma, Keisuke Iida, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Hamza Balci	288-295
*30	Structural regulation by a G-quadruplex ligand increases binding abilities of G-quadruplex-forming aptamers	2016 年	Chem. Commun. (52 巻)	Kaori Tsukakoshi, Yuri Ikuta, Koichi Abe, Wataru Yoshida, Keisuke Iida, Yue Ma, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Koji Sode and Kazunori Ikebukuro	12646-12649
31	Regulation mechanism of the vitamin D receptor by vitamin D lactam derivatives	2016 年	FEBS Lett. (590 巻)	Lisa Asano, Tsuyoshi Waku, Rumi Abe, Naoyuki Kuwabara, Ichiaki Ito, Junn Yanagisawa, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Toshiyuki Shimizu	3270-3279
32	Total Synthesis of 11-Saxitoxinethanoic Acid and Evaluation of its Inhibitory Activity on Voltage-gated Sodium Channels	2016 年	Angew. Chem., Int. Ed. (55 巻)	Chao Wang, Mana Oki, Toru Nishikawa, Daisuke Harada, Mari Yotsu-Yamashita and <u>Kazuo Nagasawa</u>	11600-11603
33	Synthesis of 1 α - and 1 β -amino-25-hydroxyvitamin D3	2016 年	Asian. J. Org. Chem. (10 巻)	Yusuke Akagi, Kosuke Usuda, Tomoe Tanami, Koji Yasui, Lisa Asano, Motonari Uesugi, <u>Kazuo Nagasawa</u>	1247-1252
34	Guanidinium Iodide/Urea Hydrogen Peroxide-Catalyzed Azidation of β -Dicarbonyl Compounds with Trimethylsilyl Azide	2016 年	Tetrahedron (72 巻)	Koji Yasui, Kohei Kojima, Takanari Kato, Minami Odagi, Masaru Kato, and <u>Kazuo Nagasawa</u>	5350-5354
35	Detection of DNA methylation of G-quadruplex and i-motif-forming sequences by measuring the initial elongation efficiency of PCR	2016 年	Anal. Chem. (88 巻)	Wataru Yoshida, Hitomi Yoshioka, Daniyah Habiballah Bay, Keisuke Iida, Kazunori Ikebukuro, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Isao Karube	7101-7107
36	Synthesis of 24,24-difluoro-1,3-cis-25-dihydroxy-19-norvitamin D3 derivatives and evaluation of their vitamin D receptor-binding affinity	2016 年	Biol. Pharm. bull. (39 巻)	Tanima Biswas, Yusuke Akagi, Kosuke Usuda, Koji Yasui, Isao Shimizu, Mayumi Okamoto, Motonari Uesugi, Seiji	1387-1391

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

				Hosokawa, <u>Kazuo</u> <u>Nagasawa</u>	
37	Synthesis of diastereomers of 1,3-cis-25-dihydroxy-19-norvitamin D3	2016 年	Chem. Pharm. bull. (64 巻)	Kosuke Usuda, Tanima Biswas, Takuya Yamaguchi, Yusuke Akagi, Koji Yasui, Motonari Uesugi, Isao Shimizu, Seijiro Hosokawa, <u>Kazuo Nagasawa</u>	1190-1195
38	Design and synthesis of unsymmetric macrocyclic hexaoxazole compounds with ability to induce distinct G-quadruplex topologies in telomeric DNA	2016 年	Org. Biomol. Chem. (14 巻)	Mai Sakuma, Yue Ma, Yamato Tsushima, Keisuke Iida, Takatsugu Hirokawa, <u>Kazuo Nagasawa</u>	5109-5116
39	Asymmetric α -amination of β -keto esters using guanidine-bisurea bifunctional organocatalyst	2016 年	Beilstein J. Org. Chem. (12 巻)	Minami Odagi, Yoshiharu Yamamoto, <u>Kazuo Nagasawa</u>	198-203
40	Biosynthetic route towards saxitoxin and shunt pathway	2016 年	Sci. Rep. (6 巻)	Shigeki Tsuchiya, Yuko Cho, Keiichi Konoki, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Yasukatsu Oshima, Mari Yotsu-Yamashita	Article number: 20340
41	Synthesis of (+)-trans-dihydrolycoridine using organocatalytic enantioselective Friedel-Crafts reaction	2016 年	Asian J. Org. Chem. (5 巻)	Masaru Kato, Koji Yasui, Masahiro Yamanaka, <u>Kazuo Nagasawa</u>	380-388
42	Design, Synthesis and Evaluation of an L-Dopa-Derived Macrocyclic Hexaoxazole (6OTD) as a G-Quadruplex-Selective Ligand	2016 年	Heterocycles (92 巻)	Takahiro Nakamura, Yue Ma, Keisuke Iida, Terumi Ohtake, Hiroyuki Seimiya, <u>Kazuo Nagasawa</u>	305-315
43	Entropy-driven 1,2-Type Friedel-Crafts Reaction of Phenols with N-Boc Aldimines	2015 年	Chem. Eur. J. (21 巻)	Masaru Kato, Shogo Hirao, Katsuhiko Nakano, Makoto Sato, Masahiro Yamanaka, Yoshihiro Sohtome, <u>Kazuo Nagasawa</u>	18606-18612

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

*44	Rif1 binds to G-quadruplex and suppresses replication over a long distance	2015 年	Nat. Struct. Mol. Biol. (22 巻)	Yutaka Kanoh, Seiji Matsumoto, Rino Fukatsu, Naoko Kakusho, Nobuaki Kono, Claire Renard-Guilet, Koji Masuda, Keisuke Iida, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Katsuhiko Shirahige, Hisao Masai	889-897
*45	Development of Guanidine-Bisurea Bifunctional Organocatalyst with a Chiral Pyrrolidine Moiety and Application to α -Hydroxylation of Tetralone-Derived β -Keto Esters	2015 年	Molecules (20 巻)	Minami Odagi, Kan Takayama, Makoto Sato, Masahiro Yamanaka, <u>Kazuo Nagasawa</u>	12590-12598
46	Time-resolved crystal structures of the reaction intermediate of nitrile hydratase reveal a role for the cystein-sulfenic acid ligand as a catalyst nucleophile	2015 年	Angew. Chem., Int. Ed. (54 巻)	Yasuaki Yamanaka, Yuki Kato, Koichi Hashimoto, Keisuke Iida, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Hiroshi Nakayama, Naoshi Dohmae, Keiichi Noguchi, Takumi Noguchi, Masafumi Yohda, Masafumi Odaka	10763-10767
47	Synthesis of a tricyclic bisguanidine compound structurally related to saxitoxin and its identification in paralytic shellfish toxins-producing microorganisms	2015 年	Chem. Eur. J. (21 巻)	Shigeki Tsuchiya, Yuko Cho, Keiichi Konoki, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Yasukatsu Oshima, Mari Yotsu-Yamashita	7835-7840
*48	Development of Guanidine-Bisurea Bifunctional Organocatalyst Bearing Chirality at the Inner and Outer Sides of Urea Groups, and Application to Enantioselective α -Hydroxylation of Pyranoidolizine Intermediate for Camptothecin Synthesis	2015 年	Symmetry (7 巻)	Minami Odagi, Tatsuya Watanabe, <u>Kazuo Nagasawa</u>	43-52

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

49	Origin of stereocontrol in guanidine-bisurea bifunctional organocatalyst that promotes α -hydroxylation of tetralone-derived β -ketoesters: Asymmetric synthesis of β - or γ -substituted tetralone derivatives via organocatalytic oxidative kinetic resolution	2015 年	J. Am. Chem. Soc. (137 巻)	Minami Odagi, Kota Furukori, Yoshiharu Yamamoto, Makoto Sato, Keisuke Iida, Masahiro Yamanaka, <u>Kazuo Nagasawa</u>	1909-1915
*50	Guanidium Iodine-Catalyzed Oxidative α -Nitroalkylation of β -Ketoamides	2015 年	Chem. Commun. (51 巻)	Koji Yasui, Takanari Kato, Kohei Kojima, <u>Kazuo Nagasawa</u>	2290-2293
*51	Conformational changes and cation ejection upon ligand binding to human telomeric DNA G-quadruplexes	2015 年	J. Am. Chem. Soc. (137 巻)	Adrien Marchand, Anton Granzhan, Keisuke Iida, Yamato Tsushima, Yue Ma, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Marie-Paule Teulade-Fichou, Vale'rie Gabelica	750-756
52	2-(4-Hydroxy-3-methoxyphenyl)-benzothiazole suppresses tumor progression and metastatic potential of breast cancer cells by inducing ubiquitin ligase CHIP	2014 年	Sci. Rep. (4 巻)	Hiromi Hiyoshi, Natsuka Goto, Mai Tsuchiya, Keisuke Iida, Yuka Nakajima, Naoya Hirata, Yasunari Kanda, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Junn Yanagisawa	Article number:7095
*53	Direct Quantification of Loop Interaction and π - π Stacking for G-quadruplex Stability at the Sub-molecular Level	2014 年	J. Am. Chem. Soc. (136 巻)	Chiran Ghimire, Soyoung Park, Keisuke Iida, Philip Yangyuoru, Haruka Otomo, Zhongbo Yu, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Hiroshi Sugiyama, and Hanbin Mao	15537-15544
*54	Synthesis of an advance model of zetekitoxin AB focusing on N-acylisoxazolidine amide structure corresponding to C13~C17	2014 年	Asian j. Org. Chem. (3 巻)	Toru Nishikawa, Chao Wang, Takafumi Akimoto, Hiroyuki Koshino, <u>Kazuo Nagasawa</u>	1308-1311
*55	Synthesis of Macrocyclic Penta- and Tetraoxazoles as G-Quadruplex Ligands	2014 年	Heterocycles (90 巻)	Shadi Sedghi Masoud, Tsushima Yamato, Keisuke Iida, <u>Kazuo Nagasawa</u>	866-873
56	Synthesis of 19-nor-vitamin D A-ring synthons via ring-closing olefin metathesis (RCM) reaction	2014 年	Asian J. Org. Chem. (3 巻)	Yu Nagai, Tomoe Tanami, Junko Abe, Hazuki Nagai, Toru Hamamizu, Kaichiro Kominato, Keisuke Iida, <u>Kazuo Nagasawa</u>	994-999

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

57	Total synthesis of (+)-Cylindradine A	2014 年	Chem. Commun. (50 巻)	Makoto Iwata, Kyohei Kanoh, Takuya Imaoka, <u>Kazuo Nagasawa</u>	6991-6994
*58	Development of Novel Guanidine-Bisurea Bifunctional Organocatalysts and Their Application to Asymmetric α -Hydroxylation of Tetralone-Derived β -Keto Esters	2014 年	Aust. J. Chem. (67 巻)	Minami Odagi, Kan Takayama, Kota Furukori, Tatsuya Watanabe, <u>Kazuo Nagasawa</u>	1017-1020
59	Synthesis and identification of proposed biosynthetic intermediates of saxitoxin in the cyanobacterium <i>Anabaena circinalis</i> (TA04) and the binoflagellate <i>Alexandrium tamarense</i> (Axat-2)	2014 年	Org. Biomol. Chem. (12 巻)	Shigeki Tsuchiya, Yuko Cho, Keiichi Konoki, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Yasukatsu Oshima, Mari Yotsu-Yamashita	3016-3020
60	Asymmetric Michael Reaction of Nitroolefins with beta-Dicarbonyl Compounds Catalysed by 1,3-Diamine-Tethered Guanidine-Thiourea Bifunctional Organocatalysts	2014 年	Asian J. Org. Chem. (3 巻)	Natsuko Horitsugi, Kohei Kojima, Koji Yasui, Yoshihiro Sohtome, <u>Kazuo Nagasawa</u>	445-448
*61	Identification of a Novel Compound That Suppresses Breast Cancer Invasiveness by Inhibiting Transforming Growth Factor-beta Signaling via Estrogen Receptor α	2014 年	J. Cancer (5 巻)	Natsuka Goto, Hiromi Hiyoshi, Ichiaki Ito, Keisuke Iida, Yuka Nakajima, <u>Kazuo Nagasawa</u> , Junn Yanagisawa	336-343
*62	Asymmetric α -Hydroxylation of Lactone with Vinyllogous Pyridone using Guanidine-Urea Bifunctional Organocatalyst: Catalytic Enantioselective Synthesis of a Key Intermediate for (20S)-Camptothecin Analogues	2014 年	Chem. Eur. J. (20 巻)	Tatusya Watanabe, Minami Odagi, Kota Furukori, <u>Kazuo Nagasawa</u>	591-597
1 – 8					
*1	Cyclic analogue of S-benzylisothiourea that suppresses kynurenine production without inhibiting indoleamine 2,3-dioxygenase activity.	2018	Bioorg. Med. Chem. Lett. (28 巻)	Fukuda, M.; Sasaki, T.; Hashimoto, T.; Miyachi, H.; Waki, M.; Asai, A.; Takikawa, O.; Ohno, O.; <u>Matsuno, K.</u>	2846-2849

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

2	Acylative coupling of amine and indole using chloroform as a carbonyl group.	2018	Eur. J. Org. Chem. (29 巻)	Nishida, Y.; Takeda, N.; <u>Matsuno, K.</u> ; Miyata, O.; Ueda, M.	3928-3935
3	Crystal structure of LSD1 in complex with 4-[5-(piperidin-4-ylmethoxy)-2-(p-tolyl)pyridin-3-yl]benzotrile.	2018	Molecules (23 巻)	Niwa, H.; Sato, S.; Hashimoto, T.; <u>Matsuno, K.</u> ; Umehara, T.	1538-1546
4	Structural development of cell-penetrating peptides containing cationic proline derivatives.	2018	Chem. Pharm. Bull. (66 巻)	Kobayashi, H.; Misawa, T.; Oba, M.; Hirata, N.; Kanda, Y.; Tanaka, M.; <u>Matsuno, K.</u> ; Demizu, Y.	575-580
5	Preorganized cyclic α,α -disubstituted α -amino acids bearing functionalized side chains that act as peptide-helix inducers.	2017	J. Org. Chem. (82 巻)	Kobayashi, H.; Misawa, T.; <u>Matsuno, K.</u> ; Demizu, Y.	10722-10726
6	Fluorescent anticancer quinazolines as molecular probes for β -tubulin colchicine site competition assay and visualization of microtubules as intracellular targeting sites.	2017	Dyes Pigm. (145 巻)	Suzuki, Y.; Sawada, J-i.; Hibner, P.; Ishii, H.; <u>Matsuno, K.</u> ; Sato, M.; Witulski, B.; Asai, A.	233-238
*7	Inhibition of STAT3 by Anticancer Drug Bendamustine.	2017	PLOS ONE (12 巻)	Iwamoto, K.; Uehara, Y.; Inoue, Y.; Taguchi, K.; Muraoka, D.; Ogo, N.; <u>Matsuno, K.</u> ; A. Asai.	e0170709
8	Structure-guided design of novel L-cysteine derivatives as potent KSP inhibitors.	2015	ACS Med. Chem. Lett. (6 巻)	Ogo, N.; Ishikawa, Y.; Sawada, J-i.; <u>Matsuno, K.</u> ; Hashimoto, H.; Asai, A.	1004-1009
9	Structural basis of new allosteric inhibition in kinesin spindle protein Eg5.	2015	ACS Chem. Biol. (10 巻)	Yokoyama, H.; Sawada, J-i.; Katoh, S.; <u>Matsuno, K.</u> ; Ogo, N.; Ishikawa, Y.; Hashimoto, H.; Fujii, S.; Asai, A.	1128-1136
10	Synthesis and structure-activity relationship study of 1-phenyl-1-(quinazolin-4-yl)ethanols as anticancer agents.	2015	ACS Med. Chem. Lett. (6 巻)	Kuroiwa, K.; Ishii, H.; <u>Matsuno, K.</u> ; Asai, A.; Suzuki, Y.	287-291
11	Structural design and synthesis of arylalkynyl amide-type peroxisome proliferator-activated receptor γ (PPAR γ)-selective	2015	Eur. J. Med. Chem. (90 巻)	Ohashi, M.; Gamo, K.; Tanaka, Y.; Waki, M.; Beniyama, Y.; <u>Matsuno, K.</u> ; Wada, J.; Tenta, M.; Eguchi, J.; Makishima, M.;	53-67

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

antagonists based on the helix12-
folding inhibition hypothesis.

Matsuura, N.; Oyama, T.;
Miyachi, H.

2 - 1

1	Production of bioactive oligopeptide hydrolyzed by protease derived from aerial microalga <i>Vischeria helvetica</i>	2019 年	Journal of Biotechnology (294 巻)	<u>Aburai, N.</u> , Maruyama, S., Shimizu, K., Abe, K.	67-72
*2	Development of a whole-cell-based screening method for a carotenoid assay using aerial microalgae	2018 年	Journal of Biotechnology (268 巻)	<u>Aburai, N.</u> , Kazama, H., Tsuruoka, A., Goto, M., Abe, K.	6-11
3	CO ₂ fixation and lipid accumulation in biofilms of the aerial microalga <i>Coccomyxa</i> sp. KGU-D001 (Trebouxiophyceae)	2017 年	Journal of Applied Phycology (29 巻)	Ohkubo, K., <u>Aburai, N.</u> , Miyauchi, H., Tsuzuki, M., Abe, K.	1745-1753
*4	Salt-stress and plant hormone-like responses for selective reactions of esterified xanthophylls in aerial microalga <i>Coelastrrella</i> sp. KGU-Y002	2017 年	Journal of Applied Phycology (29 巻)	Saeki, K., <u>Aburai, N.</u> , Aratani, S., Miyashita, H., Abe, K.	115-122
*5	Metabolic switching: synergistic induction of carotenogenesis in the aerial microalga, <i>Vischeria helvetica</i> , under environmental stress conditions by inhibitors of fatty acid biosynthesis	2015 年	Biotechnology Letters (37 巻)	<u>Aburai, N.</u> , Abe, K.,	1073-1080
*6	Effect of light level and salinity on the composition and accumulation of free and ester-type carotenoids in the aerial microalga <i>Scenedesmus</i> sp. (Chlorophyceae)	2015 年	Algal Research (8 巻)	<u>Aburai, N.</u> , Sumida, D., Abe, K.,	30-36
*7	Fatty acid content and profile of the aerial microalga <i>Coccomyxa</i> sp. isolated from dry environments	2014 年	Applied Biochemistry and Biotechnology (174 巻)	Abe, K., Ishiwatari, T., Wakamatsu, M., <u>Aburai, N.</u> ,	1724-1735
8	Development of a novel enzyme-CdS nanoparticle hybrid system	2014 年	Materials Letters(134 巻)	Abe, K., Horiuchi, T., Nishibayashi, Y., Kobayashi, K., <u>Aburai, N.</u>	20-23

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

	for the oxidation of NADH to NAD ⁺				
9	A new approach to carotenogenesis up-regulated using inhibitors of fatty acid biosynthesis in aerial microalgae	2014 年	Carotenoid Science (18 巻 1 号)	<u>Aburai, N.</u> , Abe, K.	83
10	Composition and accumulation of free- and ester-carotenoids in the aerial microalga <i>Scenedesmus</i> sp. (Chlorophyceae) cultured under stress conditions	2014 年	Carotenoid Science (18 巻 1 号)	Abe, K., Sumida, D., <u>Aburai, N.</u>	82
2-2					
1	Cultivar Differences in Lipoygenase activity Affect Volatile Compound Formation in Dough from Wheat Mill Stream Flour	2019	<i>Journal of Cereal Science</i>	Narisawa T., Nakajima H., Umino M., Kojima T., Yamashita H., Kiribuchi-Otobe C., <u>Yamada M.</u> , Asakura T.	to be published
*2	粒体技術からみた小麦製粉	2017	食品と開発(52)	<u>山田昌治</u>	4-6
3	Volatile Compounds from Japanese Noodles, "Udon," and their Formation during Noodle-Making	2017	<i>Journal of Food Processing & Technology</i> (8)	Narisawa T., Nakajima H., Umino M., Kojima T., Asakura T. and <u>Yamada M.</u>	1-12
4	Functional Lycopene Cyclase (CruA) in Cyanobacterium, <i>Arthrospira platensis</i> NIES-39, and its Role in Carotenoid Synthesis	2017	<i>Plant Cell Physiology</i> (58)	Sugiyama K., Ebisawa M., <u>Yamada M.</u> , Nagashima Y., Suzuki H., Maoka T., Takaichi S	831-838
5	フレーバー評価技術の確立による製品の付加価値化と品質管理への応用 (第 2 報) - 埼玉県産小麦粉について -	2016	埼玉県産業技術総合センター研究報告(14)	成澤朋之, 仲島日出男, 樋口誠一, 横堀正敏, 高橋広子, 小島登貴子, <u>山田昌治</u>	27-31
*6	粉粒体の単位操作と食品との関わり	2016	粉体技術(8)	<u>山田昌治</u>	194-201
7	不思議な小麦粉の世界	2016	FFI ジャーナル (221)	<u>山田昌治</u>	188-195
8	フレーバー評価技術の確立による製品の付加価値化と品質管理への応用 - 清酒について -	2015	埼玉県産業技術総合センター研究報告(13)	横堀正敏, 成澤朋之, 小島登貴子, 鈴木康修, 樋口誠一, 仲島日出男, <u>山田昌治</u>	33-36

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

9	フレーバー評価技術の確立による製品の付加価値化と品質管理への応用－埼玉県産小麦粉について－	2015	埼玉県産業技術総合センター研究報告(13)	成澤朋之, 小島登貴子, 横堀正敏, 樋口誠一, 鈴木康修, 仲島日出男, 山田昌治	28-32
10	Development of a Quantification Method of the Gluten Matrix in Bread Dough by Fluorescence Microscopy and Image Analysis	2015	<i>Food and Bioprocess Technology</i> (8)	Maeda T., Kokawa M., Nango N., Miura M., Araki T., Yamada M., Takeya K. and Sagara Y.	1349-1354
2-3					
*1	High expression of acidic chitinase and chitin digestibility in the stomach of common marmoset (<i>Callithrix jacchus</i>), an insectivorous nonhuman primate	2019 年	Sci Rep. (9)	Tabata, E., Kashimura, A., Uehara, M., Wakita, S., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Yurimoto, T., Sasaki, E., Matoska, V., Bauer, P. O. & Oyama, F.	159
*2	Chitinase mRNA Levels Determined by QPCR in Crab-Eating Monkey (<i>Macaca fascicularis</i>) Tissues: Species-Specific Expression of Acidic Mammalian Chitinase and Chitotriosidase	2018 年	Genes (Basel) (9)	Uehara, M., Tabata, E., Ishii, K., Sawa, A., Ohno, M., Sakaguchi, M., Matoska, V., Bauer, P. O. & Oyama, F.	244
*3	Acidic chitinase-chitin complex is dissociated in a competitive manner by acetic acid: purification of natural enzyme for supplementation purpose	2018 年	Int J Mol Sci. (19)	Tabata, E., Kashimura, A., Wakita, S., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Imamura, Y., Shimizu, H., Matoska, V., Bauer, P. O. & Oyama, F.	362
*4	Chitin digestibility is dependent on feeding behaviors, which determine acidic chitinase mRNA levels in mammalian and poultry stomachs	2018 年	Sci Rep. (8)	Tabata, E., Kashimura, A., Kikuchi, A., Masuda, H., Miyahara, R., Hiruma, Y., Wakita, S., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Matoska, V., Bauer, P. O. & Oyama, F.	1461
*5	Mouse acidic mammalian chitinase exhibits transglycosylation activity at somatic tissue pH	2017 年	FEBS Lett. (591)	Wakita, S., Kobayashi, S., Kimura, M., Kashimura, A., Honda, S., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Kamaya, M., Matoska, V., Bauer, P. O. & Oyama, F.	3310-3318

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

*6	Improved fluorescent labeling of chitin oligomers: Chitinolytic properties of acidic mammalian chitinase under somatic tissue pH conditions	2017 年	Carbohydr Polym. (164)	Wakita, S., Kimura, M., Kato, N., Kashimura, A., Kobayashi, S., Kanayama, N., Ohno, M., Honda, S., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Bauer, P. O. & <u>Oyama, F.</u>	145-153
*7	Protease resistance of porcine acidic mammalian chitinase under gastrointestinal conditions implies that chitin-containing organisms can be sustainable dietary resources	2017 年	Sci Rep. (7)	Tabata, E., Kashimura, A., Wakita, S., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Imamura, Y., Seki, S., Ueda, H., Matoska, V., Bauer, P. O. & <u>Oyama, F.</u>	12963
*8	Gastric and intestinal proteases resistance of chicken acidic chitinase nominates chitin-containing organisms for alternative whole edible diets for poultry, Sci Rep. 7, 6662.	2017 年	Sci Rep. (7)	Tabata, E., Kashimura, A., Wakita, S., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Kino, Y., Matoska, V., Bauer, P. O. & <u>Oyama, F.</u>	6662
*9	Loss and gain of human acidic mammalian chitinase activity by nonsynonymous SNPs	2016 年	Mol Biol Evol. (33)	Okawa, K., Ohno, M., Kashimura, A., Kimura, M., Kobayashi, Y., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Kamaya, M., Kino, Y., Bauer, P. O. & <u>Oyama, F.</u>	3183-3193
*10	Acidic mammalian chitinase is a proteases-resistant glycosidase in mouse digestive system	2016 年	Sci Rep. (6)	Ohno, M., Kimura, M., Miyazaki, H., Okawa, K., Onuki, R., Nemoto, C., Tabata, E., Wakita, S., Kashimura, A., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Nukina, N., Bauer, P. O. & <u>Oyama, F.</u>	37756
*11	Functional properties of mouse chitotriosidase expressed in the periplasmic space of Escherichia coli	2016 年	PLoS One. (11)	Kimura, M., Wakita, S., Ishikawa, K., Sekine, K., Yoshikawa, S., Sato, A., Okawa, K., Kashimura, A., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Yamanaka, D., Ohno, N., Bauer, P. O. & <u>Oyama, F.</u>	e0164367

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

*12	Quantitative Real-Time PCR Analysis of YKL-40 and Its Comparison with Mammalian Chitinase mRNAs in Normal Human Tissues Using a Single Standard DNA	2015 年	Int J Mol Sci. (16)	Ohno, M., Bauer, P. O., Kida, Y., Sakaguchi, M., Sugahara, Y. & Oyama, F.	9922-9935
*13	Functional properties of the catalytic domain of mouse acidic mammalian chitinase expressed in Escherichia coli	2015 年	Int J Mol Sci. (16)	Kashimura, A., Kimura, M., Okawa, K., Suzuki, H., Ukita, A., Wakita, S., Okazaki, K., Ohno, M., Bauer, P. O., Sakaguchi, M., Sugahara, Y. & Oyama, F.	4028-4042.
*14	Establishment of a quantitative PCR system for discriminating chitinase-like proteins: catalytically inactive breast regression protein-39 and Ym1 are constitutive genes in mouse lung	2014 年	BMC Mol Biol. (15)	Ohno, M., Kida, Y., Sakaguchi, M., Sugahara, Y. & Oyama, F.	23
2 - 4					
*1	The <i>Listeria innocua</i> chitinase LinChi78 has a unique region that is necessary for hydrolytic activity	2019 年	Applied Microbiology and Biotechnology (103 巻)	Honda S, Kimura M, Wakita S, Oka Y, Kawakita M, Oyama F, <u>Sakaguchi, M.</u> *	1777-1787
*2	Two trehalose-hydrolyzing enzymes from <i>Crenarchaeon Sulfolobus acidocaldarius</i> exhibit distinct activities and affinities toward trehalose	2018 年	Applied Microbiology and Biotechnology (102 巻)	Yuasa, M., Okamura, T., Kimura, M., Honda, S., Shin, Y., Kawakita, M., Oyama, F., <u>Sakaguchi, M.</u> *	4445-4455
*3	Characterization of a <i>Bacillus thuringiensis</i> chitinase that binds to cellulose and chitin	2017 年	AMB Express (7 巻)	Honda, S., Kunii, T., Nohara, K., Wakita, S., Sugahara, Y., Kawakita, M., Oyama, F., <u>Sakaguchi, M.</u> *	51
*4	Functional dissection of the N-terminal sequence of <i>Clostridium</i> sp. G0005 glucoamylase: identification of components critical for folding the catalytic domain and for constructing the active site structure	2017 年	Applied Microbiology and Biotechnology (101 巻)	<u>Sakaguchi, M.</u> *, Matsushima, Y., Nagamine, Y., Matsuhashi, T., Honda, S., Okuda, S., Ohno, M., Sugahara, Y., Shin, Y., Oyama, F., Kawakita, M.	2415-2425

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

*5	Characterization of two <i>Listeria innocua</i> chitinases of different sizes that were expressed in <i>Escherichia coli</i>	2016 年	Applied Microbiology and Biotechnology (100 巻)	Honda, S., Wakita, S., Sugahara, Y., Kawakita, M., Oyama, F., <u>Sakaguchi, M.</u> *	8031-8041
*6	A simple procedure for preparing chitin oligomers through acetone precipitation after hydrolysis in concentrated hydrochloric acid	2015 年	Carbohydrate Polymers (132 巻)	Kazami, N., <u>Sakaguchi, M.</u> (joint first author), Mizutani, D., Masuda, T., Wakita, S., Oyama, F., Kawakita, M., Sugahara, Y. *	304-310
*7	Identification of GH15 family thermophilic archaeal trehalases that function within a narrow acidic-pH range	2015 年	Applied and Environmental Microbiology (81 巻)	<u>Sakaguchi, M.</u> *, Shimodaira, S., Ishida, S., Amemiya, M., Honda, S., Sugahara, Y., Oyama, F., Kawakita, M.	4920-4931
8	Highly conserved salt bridge stabilizes a proteinase K subfamily enzyme, Aqualysin I, from <i>Thermus aquaticus</i> YT-1	2014 年	AMB Express (4 巻)	<u>Sakaguchi, M.</u> *, Osaku, K., Maejima, S., Ohno, N., Sugahara, Y., Oyama, F., Kawakita, M.	59
2 – 5					
1	PFG acted as an inducer of premature senescence in TIG-1 normal diploid fibroblast and an inhibitor of mitosis in the HeLa cells.	2019 年	<i>Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry</i> (83 号)	Ying Huang, <u>Osamu Ohno</u> , Kenji Miyamoto	1-10
2	Minnamide A, a Linear Lipopeptide from the Marine Cyanobacterium <i>Okeania hirsuta</i> .	2019 年	<i>Organic Letters</i> (21 号)	Shimpei Sumimoto, Masayuki Kobayashi, Rio Sato, Seiichi Shinomiya, Arihiro Iwasaki, Shoichiro Suda, Toshiaki Teruya, Toshiyasu Inuzuka, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga	1187–1190
3	Croissamide, a proline-rich cyclic peptide with an <i>N</i> -prenylated tryptophan from a marine cyanobacterium <i>Symploca</i> sp.	2018 年	<i>Tetrahedron Letters</i> (59 号)	Keitaro Iwasaki, Arihiro Iwasaki, Shimpei Sumimoto, Takuya Sano, Yuki Hitomi, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga	3806-3809
*4	Cyclic analogue of S-benzylisothioureia that suppresses kynurenine production without inhibiting indoleamine 2,3-dioxygenase activity.	2018 年	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters</i> (28 号)	Miwa Fukuda, Tomomi Sasaki, Tomoko Hashimoto, Hiroyuki Miyachi, Minoru Waki, Akira Asai, Osamu	2846-2849

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

				Takikawa, <u>Osamu Ohno</u> , Kenji Matsuno	
5	Apoptosis-inducing activity and antiproliferative effect of Paeoniflorigenone from moutan cortex.	2017 年	<i>Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry</i> (81 号)	Ying Huang, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga, Kenji Miyamoto	1106-1113
6	Kanamienamide, an Enamide with an Enol Ether from the Marine Cyanobacterium <i>Moorea bouillonii</i> .	2016 年	<i>Organic Letters</i> (18 号)	Shimpei Sumimoto, Arihiro Iwasaki, <u>Osamu Ohno</u> , Kosuke Sueyoshi, Toshiaki Teruya, Kiyotake Suenaga	4884-4887
7	Janadolide, a Cyclic Polyketide–Peptide Hybrid Possessing a tert-Butyl Group from an <i>Okeania</i> sp. Marine Cyanobacterium.	2016 年	<i>Journal of Natural Products</i> (79 号)	Hidetoshi Ogawa, Arihiro Iwasaki, Shinpei Sumimoto, Yuki Kanamori, <u>Osamu Ohno</u> , Masato Iwatsuki, Aki Ishiyama, Rei Hokari, Kazuhiko Ootoguro, Satoshi Ōmura, Kiyotake Suenaga	1862–1866
8	A Potent Phytotoxic Substance in <i>Aglaia odorata</i> Lour.	2016	<i>Chemistry & Biodiversity</i> (13 号)	Hisashi Kato-Noguchi, Masahiko Suzuki, Kazutaka Noguchi, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga, Chamroon Laosinwattana	549-554
9	Anti-obesity activities of the yoshinone A and the related marine γ -pyrone compounds.	2016	<i>Journal of Antibiotics</i> (69 号)	Tomoyuki Koyama, Yoshinori Kawazoe, Arihiro Iwasaki, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga, Daisuke Uemura	348-351
10	Isolation and Functional Analysis of Novel Compounds with Selective Cytotoxicity under Glucose-restricted Conditions.	2015	<i>The 14th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-Special)</i>	<u>Osamu Ohno</u> , Ami Ito, Shuntaro Obata, Arihiro Iwasaki, Kiyotake Suenaga, Kenji Matsuno	51-52
2 – 5					
1	PFG acted as an inducer of premature senescence in TIG-1 normal diploid fibroblast and an	2019 年	<i>Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry</i> (83 号)	Ying Huang, <u>Osamu Ohno</u> , Kenji Miyamoto	1-10

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

	inhibitor of mitosis in the HeLa cells.				
2	Minnamide A, a Linear Lipopeptide from the Marine Cyanobacterium <i>Okeania hirsuta</i> .	2019 年	<i>Organic Letters</i> (21 号)	Shimpei Sumimoto, Masayuki Kobayashi, Rio Sato, Seiichi Shinomiya, Arihiro Iwasaki, Shoichiro Suda, Toshiaki Teruya, Toshiyasu Inuzuka, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga	1187-1190
3	Croissamide, a proline-rich cyclic peptide with an <i>N</i> -prenylated tryptophan from a marine cyanobacterium <i>Symploca</i> sp.	2018 年	<i>Tetrahedron Letters</i> (59 号)	Keitaro Iwasaki, Arihiro Iwasaki, Shimpei Sumimoto, Takuya Sano, Yuki Hitomi, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga	3806-3809
4	Cyclic analogue of <i>S</i> -benzylisothioureia that suppresses kynurenine production without inhibiting indoleamine 2,3-dioxygenase activity.	2018 年	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters</i> (28 号)	Miwa Fukuda, Tomomi Sasaki, Tomoko Hashimoto, Hiroyuki Miyachi, Minoru Waki, Akira Asai, Osamu Takikawa, <u>Osamu Ohno</u> , Kenji Matsuno	2846-2849
5	Apoptosis-inducing activity and antiproliferative effect of Paconiflorigenone from moutan cortex.	2017 年	<i>Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry</i> (81 号)	Ying Huang, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga, Kenji Miyamoto	1106-1113
6	Kanamienamide, an Enamide with an Enol Ether from the Marine Cyanobacterium <i>Moorea bouillonii</i> .	2016 年	<i>Organic Letters</i> (18 号)	Shimpei Sumimoto, Arihiro Iwasaki, <u>Osamu Ohno</u> , Kosuke Sueyoshi, Toshiaki Teruya, Kiyotake Suenaga	4884-4887
7	Janadolide, a Cyclic Polyketide-Peptide Hybrid Possessing a tert-Butyl Group from an <i>Okeania</i> sp. Marine Cyanobacterium.	2016 年	<i>Journal of Natural Products</i> (79 号)	Hidetoshi Ogawa, Arihiro Iwasaki, Shinpei Sumimoto, Yuki Kanamori, <u>Osamu Ohno</u> , Masato Iwatsuki, Aki Ishiyama, Rei Hokari, Kazuhiko Otoguro, Satoshi Ōmura, Kiyotake Suenaga	1862-1866
8	PFG acted as an inducer of premature senescence in TIG-2 normal diploid fibroblast and an inhibitor of mitosis in the HeLa cells.	2015 年	<i>Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry</i> (84 号)	Ying Huang, <u>Osamu Ohno</u> , Kenji Miyamoto	549-554

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

9	Minnamide A, a Linear Lipopeptide from the Marine Cyanobacterium <i>Okeania hirsuta</i> .	2014 年	<i>Organic Letters</i> (22 号)	Shimpei Sumimoto, Masayuki Kobayashi, Rio Sato, Seiichi Shinomiya, Arihiro Iwasaki, Shoichiro Suda, Toshiaki Teruya, Toshiyasu Inuzuka, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga	348-351
10	Croissamide, a proline-rich cyclic peptide with an <i>N</i> -prenylated tryptophan from a marine cyanobacterium <i>Symploca</i> sp.	2014 年	<i>Tetrahedron Letters</i> (60 号)	Keitaro Iwasaki, Arihiro Iwasaki, Shimpei Sumimoto, Takuya Sano, Yuki Hitomi, <u>Osamu Ohno</u> , Kiyotake Suenaga	51-52
1-2 & 3-1					
1	Silibinin's regulation of proliferation and collagen gene expressions of rat pancreatic β -cells cultured on types I and V collagen involves β -catenin nuclear translocation	2019 年	Connective Tissue Research (in press)	Yang, Jing, Sun, Yue, Liu, Xiaoling, Xu, Fanxing, Liu, Weiwei, Hayashi, Toshihiko, <u>Imamura</u> , <u>Yasutada</u> , Mizuno, Kazunori, Hattori, Shunji, Tanaka, Keisuke, Fujisaki, Hitomi, Tashiro, Shin-ichi, Onodera, Satoshi, Ikejima, Takashi	
*2	Identification of a common epitope in the sequences of COL4A1 and COL6A1 recognised by monoclonal antibody #141	2019 年	The Journal of Biochemistry (165 巻)	Takamichi Sato, Ryo Takano, Naoko Takahara, Kazuhiro Tokunaka, Kan Saiga, Arihiro Tomura, Hidemitsu Sugihara, Toshihiko Hayashi, <u>Yasutada Imamura</u> , Makoto Morita	85-95
3	Proteolytic inactivation of ADAMTS13 by plasmin in human plasma: risk of thrombotic thrombocytopenic purpura	2018 年	The Journal of Biochemistry (163 巻)	Yongchol Shin, Haruki Miyake, Kenshi Togashi, Ryuichi Hiratsuka, Kana Endou-Ohnishi, <u>Yasutada Imamura</u>	381-389
*4	Type VI collagen α 1 chain polypeptide in non-triple helical form is an alternative gene product of COL6A1	2018 年	The Journal of Biochemistry (164 巻)	Takamichi Sato, Ryo Takano, Kazuhiro Tokunaka, Kan Saiga, Arihiro Tomura, Hidemitsu Sugihara, Toshihiko	173-181

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

				Hayashi, <u>Yasutada</u> <u>Imamura</u> , Makoto Morita	
5	Peptide Nucleic Acid Possessing PreQI as a Cationic Analogue of Guanine	2018 年	Peptide Science	Toru Sugiyama, Misaki Hohara, Keiko Kuwata, <u>Yasutada Imamura</u> , Yosuke Demise, Masaaki Kurihara, Atsushi Kittaka	192-193
6	Acidic Chitinase-Chitin Complex Is Dissociated in a Competitive Manner by Acetic Acid: Purification of Natural Enzyme for Supplementation Purposes	2018 年	International Journal of Molecular Sciences (19 巻)	Eri Tabata, Akinori Kashimura, Satoshi Wakita, Masayoshi Sakaguchi, Yasusato Sugahara, <u>Yasutada Imamura</u> , Hideaki Shimizu, Vaclav Matoska, Peter O. Bauer and Fumitaka Oyama	
7	Protease resistance of porcine acidic mammalian chitinase under gastrointestinal conditions implies that chitin-containing organisms can be sustainable dietary resources	2017 年	SCIENTIFIC REPORTS (7 巻)	Eri Tabata, Akinori Kashimura, Satoshi Wakita, Misa Ohno, Masayoshi Sakaguchi, Yasusato Sugahara, <u>Yasutada Imamura</u> , Shiro Seki, Hitoshi Ueda, Vaclav Matoska, Peter O. Bauer & Fumitaka Oyama	
8	PNA monomers fully compatible with standard Fmoc-based solid-phase synthesis of pseudocomplementary PNA	2017 年	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters (27 巻)	Toru Sugiyama, Genki Hasegawa, Chie Niikura, Keiko Kuwata, <u>Yasutada Imamura</u> , Yosuke Demizu, Masaaki Kurihara, Atsushi Kittaka	3337-3341
*9	Preparation and partial characterization of monoclonal antibodies specific for the nascent non-triple helical form of the type IV collagen alpha 1 chain	2016 年	Biochemistry and Biophysics Reports (9 巻)	Makoto Morita, Hidemitsu Sugihara, Kazuhiro Tokunaka, Arihiro Tomura, Kan Saiga, Takamichi Sato, <u>Yasutada Imamura</u> , Toshihiko Hayashi	128-132

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

10	Ring-Mesh Model of Proteoglycan Glycosaminoglycan Chains in Tendon based on Three-Dimensional Reconstruction by Focused Ion Beam Scanning Electron Microscopy	2016 年	The Journal of Biological Chemistry (291 巻)	Takafumi Watanabe, Kiyokazu Kametani, Yoh-ichi Koyama, Daisuke Suzuki, <u>Yasutada Imamura</u> , Kazushige Takehana, and Kohzy Hiramatsu	23704-23708
11	Peptide Nucleic Acid with a Lysine Side Chain at the β -Position: Synthesis and Application for DNA Cleavage	2016 年	Chem. Pharm. Bull. (64 巻)	Toru Sugiyama, Keiko Kuwata, <u>Yasutada Imamura</u> , Yosuke Demizu, Masaaki Kurihara, Masashi Takano, and Atsushi Kittaka	817-823
*12	Non-Triple Helical Form of Type IV Collagen $\alpha 1$ Chain	2015 年	Heliyon (1 巻)	Hiroaki Sugiyama, Kazuhiro Tokunaka, Toshihiko Hayashi, <u>Yasutada Imamura</u> , Makoto Morita, Masayuki Yamato	e00051, 1
*13	A peptide nucleic acid to reduce Type I collagen production by fibroblast cells	2015 年	Open Journal of Medicinal Chemistry(5 巻)	<u>Imamura, Y.</u> , Tsuboi, S., Sugiyama, T., Kittaka, A., Shin, Y.	1-8
1-3 & 3-2					
1	Two trehalose-hydrolyzing enzymes from Crenarchaeon <i>Sulfolobus acidocaldarius</i> exhibit distinct activities and affinities toward trehalose	2018 年	Applied Microbiology and Biotechnology(102 巻)	Yuasa, M., Okamura, T., Kimura, K., Honda, S., <u>Shin, Y.</u> , Kawakita, M., Oyama, F., Sakaguchi, M.	4445-4455
2	Proteolytic inactivation of ADAMTS13 by plasmin in human plasma: risk of thrombotic thrombocytopenic purpura	2018 年	Journal of Biochemistry(163 巻)	<u>Shin, Y.</u> , Miyake, H., Togashi, K., Hiratsuka, R., Endou-Ohnishi, K., and Imamura, Y.	381-389
3	Functional dissection of the N-terminal sequence of <i>Clostridium</i> sp. G0005 glucoamylase: identification of components critical for folding the catalytic domain and for constructing the active site structure	2017 年	Applied Microbiology and Biotechnology(101 巻)	Sakaguchi, M., Matsushima, Y., Nagamine, Y., Matsuhashi, T., Honda, S., Okuda, S., Ohno, M., Sugahara, Y., <u>Shin, Y.</u> Oyama, F., Kawakita, M	2415-2425

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

4	A peptide nucleic acid to reduce Type I collagen production by fibroblast cells	2015 年	Open Journal of Medicinal Chemistry(5 巻)	Imamura, Y., Tsuboi, S., Sugiyama, T., Kittaka, A., <u>Shin, Y.</u>	1-8
1-4 & 3-3					
1	Cascade Reaction Including a Formal [5 + 2] Cycloaddition by Use of Alkyne-Co ₂ (CO) ₆ Complex	2019 年	Tetrahedron Letters (60 巻)	Yuki Sakata, <u>Eiko Yasui</u> , Megumi Mizukami, Shinji Nagumo	755-759
2	Total Synthesis of Sekothrixide Strategically Utilizing Regioselective Coupling of TMS-Protected Epoxy sec-Alcohol with Gilman Reagent	2019 年	J. Org. Chem. (84 巻)	Daisuke Katsumi, Kazuki Nakasone, Naoki Terayama, <u>Eiko Yasui</u> , Megumi Mizukami, Masaaki Miyashita, Shinji Nagumo	1553-1562
3	Syntheses of Polycyclic Tetrahydrofurans by Cascade Reactions Consisting of Five-membered Ring Selective Prins Cyclization and Friedel-Crafts Cyclization	2018 年	J. Org. Chem. (83 巻)	Yuki Sakata, <u>Eiko Yasui</u> , Kazuhiko Takatori, Yuji Suzuki, Megumi Mizukami, Shinji Nagumo	9103--9118
*4	Unique ring expansion of a 6-3 bicyclic ring system forming a functionalized 7-membered ring accelerated by nitrogen functional groups	2017 年	Tetrahedron Letters (58 巻)	<u>Eiko Yasui</u> , Rio Ootsuki, Kan Takayama, Shinji Nagumo	3092-3095
*5	Selective Mono-reduction of Pyrrole-2,5 and 2,4-Dicarboxylates	2016 年	Chem. Pharm. Bull. (64 巻)	<u>Eiko Yasui</u> , Junpei Tsuda, Satoshi Ohnuki, Shinji Nagumo	1262-1267
6	Synthetic study of arenicolide C: Stereoselective Synthesis of the C19-C36 Segment	2015 年	Tetrahedron Letters (56 巻)	Sho Sunagawa, Haruki Yamada, Minako Naito, <u>Eiko Yasui</u> , Megumi Mizukami, Masaaki Miyashita, Shinji Nagumo	6693-6695
7	Synthesis of 1-(4-Aminobutyl)-2-iminoimidazolidin-4-one Aimed at Preparation of a Creatinine-specific Antibody	2014 年	Chem. Pharm. Bull. (62 巻)	Shun-suke Moriya, Naoki Terayama, Kyoko Hiramatsu, Masao Kawakita, Tatsuya Kiryu, Takato Kawanishi, <u>Eiko Yasui</u> , Shinji Nagumo	350-353
8	Ring opening of disubstituted epoxides linked to a secondary	2014 年	Tetrahedron Letters (55 巻)	Naoki Terayama, Shodai Ushijima, <u>Eiko Yasui</u> ,	6515-6519

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

	oxygen group with an organocopper reagent			Masaaki Miyashita, Shinji Nagumo	
9	Total Synthesis and Structural Revision of Sekothrixide.	2014 年	Organic Letters (16 巻)	Naoki Terayama, <u>Eiko Yasui</u> , Megumi Mizukami, Masaaki Miyashita, Shinji Nagumo	2794-2797
4-1					
*1	Intermolecular Interaction of Polymer Brushes Containign Phosphorylcholine and Inverse-Phosphorylcholine	2019	Langmuir, 35	Mihara, S.; Yamaguchi, K.; Kobayashi, M.	1172-1180.
*2	Adhesion force measurement of live cypris tentacles by scanning probe microscopy in seawater	2019	Polym. J., 51	Shiomoto, S.; Yamaguchi, Y.; Yamaguchi, K.; Nogata, Y.; Kobayashi, M.	51-59
*3	Deviant polymerization behavior of 4-acetoxystyrene found through a detailed study on the ATRP of para-substituted styrenes	2019	Polym. J., 51	Yoshioka, H.; Yamaguchi, K.; Kobayashi, M.	in-press
4	Time Evolution of Precursor Thin Film of Water on Polyelectrolyte Brush	2018	Langmuir, 34	Shiomoto, S.; Yamaguchi, K.; Kobayashi, M.	10276-10286.
5	Repeatable adhesion by proton donor-acceptor interaction of polymer brushes	2017	Polymer, 119	Yoshioka, H.; Izumi, C.; Shida, M.; Yamaguchi, K.; Kobayashi, M.	167-175.
6	Direct Surface Modification of Poly(VDF-co-TrFE) Films by Surface-initiated ATRP without Pretreatment	2016 年	RSC Advances(6 巻)	<u>M. Kobayashi</u> , Y. Higaki, T. Kimura, F. Boschet, A. Takahara, B. Ameduri	86373-86384
7	ポリマーブラシによる水中超はつ油性表面の創製	2016 年	表面技術(67 巻 9 号)	<u>小林元康</u>	473-476
8	中性子反射率測定によるポリマーブラシの界面構造解析	2016 年	日本接着学会誌 (52 巻 8 号)	<u>小林元康</u>	249-254

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

9	Swollen Structure and Electrostatic Interactions of Polyelectrolyte Brush in Aqueous Solution	2016 年	Polymer(98 巻)	D. Murakami, <u>M. Kobayashi</u> , Y. Higaki, H. Jinnai, A. Takahara	464-469
10	Tribological Properties of Cross-linked Oleophilic Polymer Brushes on Diamond-Like Carbon Films	2016 年	Polymer(89 巻)	<u>M. Kobayashi</u> , M. Kaido, A. Suzuki, A. Takahara	128-134
12	Anti-fouling Behavior of Polymer Brush Immobilized Surface	2016 年	Polym. J. (48 巻 2 号)	Y. Higaki, <u>M. Kobayashi</u> , D. Murakami, A. Takahara	325-331
13	Development of Sample Environments for the SOFIA Reflectometer for Seconds-Order Time-Slicing Measurements	2015 年	JPS Conf. Proc. (8 巻)	N. L. Yamada, K. Mitamura, H. Sagehashi, N. Torikai, S. Sato, H. Seto, M. Furusaka, T. Oda, M. Hino, T. Fujiwara, <u>M. Kobayashi</u> , A. Takahara	36003
14	Salt Dependence of the Chain Stiffness and Excluded-Volume Strength for the Polymethacrylate-Type Sulfopropylbetaine in Aqueous NaCl Solutions	2015 年	Macromolecules (48 巻 19 号)	M. Kikuchi, Y. Terayama, T. Ishikawa, T. Hoshino, <u>M. Kobayashi</u> , N. Ohta, H. Jinnai, A. Takahara	7194-7204
15	Versatile Inhibition of Marine Organism Settlement by Zwitterionic Polymer Brushes	2015 年	Polym. J. (47 巻)	Y. Higaki, J. Nishida, A. Takenaka, R. Yoshimatsu, <u>M. Kobayashi</u> , A. Takahara	811-818
16	生物模倣によるトライボロジー技術	2015 年	機能材料(35 巻 7 号)	<u>小林元康</u>	34-38
17	Interferometry Study of Aqueous Lubrication on the Surface of Polyelectrolyte Brushes	2014 年	ACS Applied Materials & Interfaces (6 巻)	<u>M. Kobayashi</u> , H. Tanaka, M. Minn, J. Sugimura, A. Takahara	20365-20371
18	魚の体表に学ぶ防汚性: 高分子電解質ブラシによるアプローチの動向	2014 年	PEN (5 巻 8 号)	<u>小林元康</u>	24-28
19	Neutron Reflectivity Study of the Swollen Structure of Zwitterionic Polymer Brushes in Aqueous Solution Compared with Polycation Brush	2014 年	J. Biomat. Sci.: Polym. Ed. (25 巻 14-15 号)	<u>M. Kobayashi</u> , K. Ishihara, A. Takahara	1673-1686

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

20	Structural Analysis of Nano Interface of Functional Soft Matter Using Neutron Reflectometer at BL16 in J- PARC/MLF	2014 年	KENS Report XIX 2012 (19 巻)	<u>M.Kobayashi</u> , N.L.Yamada, N.Torikai, H.Sagehashi, S.Sato, H.Seto, T.Sugita, M.Furusaka, M.Hino, T.Fujiwara, H.Takahashi, H.Arita, H.Jinnai, K.Matsui, H.Ogawa, R.Inoue, T.Kanaya, K.Nishida, M.Inutsuka, K.Ito, H.Yokoyama, D.Kawaguchi, D.Shibata, S.S.Abdul Rahman, Y.Matsushita, A.Horinouchi, K.Hori, T.Hirata, Y.Fujii, K.Tanaka, N.Hariyama, Y.Kamata, A.Takahara	35-45
21	Scaffold for Growing Dense Polymer Brushes from Various Substrates	2014 年	ACS Appl. Mater. Int.(6 巻 5 号)	M. Watanabe, J. Nishida, <u>M. Kobayashi</u> , A. Fujimoto, R. Yamamoto, A. Takahara	3648-3653
22	バイオミメティック表面の分子トラ イボロジー	2014 年	日本機械学会誌 (117 巻 1143 号)	<u>小林元康</u> , 高原淳	86-89
23	Effect of water swelling on the tribological properties of PMMA spin-cast film and brush in aqueous environment	2014 年	Tribology Lett.(55 巻)	M. Minn, <u>M. Kobayashi</u> , H. Jinnai, H. Watanabe, A. Takahara	121-129
24	イオン性ポリマーブラシを用いた 低環境負荷な接着と剥離制御	2014 年	日本接着学会誌 (50 巻 1 号)	<u>小林元康</u>	23-28
4-2					
1	高圧水素曝露によるゴム材料の 高次構造変化の振動分光的 検討	2016 年	日本ゴム協会誌 (89 巻 10 号)	伊藤雄三	313-316

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

<図書>

<u>1. 2&3. 1</u>						
1	組織工学ライブラリー3 マイクロボ ティクスとバイオの融合 細胞社会学 大和雅之編	2016年 9月	コロナ社	今村保忠		2-20
<u>4. 1</u>						
1	The Handbook of Polymer Tribology	2017年 3月	Imperial College Press	Y. Higaki, <u>M. Kobayashi</u> , A. Takahara		
2	表面・界面技術ハンドブック	2016年 4月	エヌティーエス	<u>小林元康</u>		390-396
3	トコトンやさしい バイオミメティクスの 本	2016年 3月	日刊工業新聞 社	<u>小林元康</u>		58-59
4	Encyclopedia of Polymeric Nanomaterials	2015年 8月	Springer	<u>M. Kobayashi</u>		870-877
5	高分子トライボロジーの制御と応用	2015年 5月	シーエムシー 出版	<u>小林元康</u> , 高原淳		148-156
6	Surfactant in Tribology vol.4	2014年 10月	CRC Press, Boca Raton	Y. Higaki, <u>M. Kobayashi</u> , A. Takahara		51-61
7	バイオマテリアル研究の最前線	2014年 10月	日本金属学会	<u>小林元康</u>		159-160
8	生物模倣技術と新材料・新製品開発 への応用	2014年 7月	技術情報協会	<u>小林元康</u> , 高原淳		510-515
9	高分子ナノテクノロジーハンドブック	2014年 3月	エヌティーエス	<u>小林元康</u>		257-261
10	高分子ナノテクノロジーハンドブック	2014年 3月	エヌティーエス	高原淳, <u>小林元康</u>		465-473
<u>1.5 & 4.2</u>						
1	放熱・耐熱材料	2017年 1月	技術情報教会	<u>伊藤雄三</u>		3-11
2	高熱伝導樹脂の設計・開発	2016年 12月	シーエムシー 出版	<u>伊藤雄三</u>		3-15

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

<学会発表>

1-1&3-4				
#1	torrubiellutin 誘導体の合成研究	2019年3月	日本薬学会第139年会	室川 俊介、安井 英子、 <u>南雲紳史</u>
2	チオフェン環の特性を利用した複素環合成法の検討	2019年3月	日本化学会第99春季年会	大竹薫、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
3	ヒドラゾノエステル α -ジアゾエステルの酸化による合成	2019年3月	日本化学会第99春季年会	安井英子、似内蒼太、 <u>南雲紳史</u>
#4	アレニコライド A の合成研究	2019年3月	日本化学会第99春季年会	川野嘉矩、 <u>南雲紳史</u> 、安井英子
5	混合炭酸エステルの閉環メタセシスを利用したアレニコライド A の合成研究	2018年12月	第76回有機合成化学協会関東支部シンポジウム	上條陽平、岩田大昌、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
6	カチオン環化反応の研究における幾つかのセレンディピティ	2018年10月	有機合成化学協会関東支部ミニシンポジウム	<u>南雲紳史</u>
#7	ボランによるエポキシジエノエステルの還元的 SN2' 反応を用いた torrubiellutin 誘導体の合成研究	2018年10月	第62回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会	室川俊介、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
#8	マクロライド天然物の全合成研究～独自の鎖状立体制御法、Z-アルケン構築法を基盤として～	2018年9月	第62回日本薬学会関東支部大会	<u>南雲紳史</u>
9	新規 7 員環合成法の検討	2018年9月	第62回日本薬学会関東支部大会	二瓶丘、大月理央、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
#10	Sekothrixide 及びその類縁体の合成研究	2018年9月	第62回日本薬学会関東支部大会	辻本和生、勝見大介、中曾根和樹、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
11	各種アリールエチルヒドロアゼピン誘導体の Friedel-Crafts 反応～立体選択性に対するアセチレンコバルト錯体の影響～	2018年5月	第75回有機合成化学協会関東支部シンポジウム	山中奎哉、坂田優希、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
12	環状アセチレンコバルト錯体の脱コバルトを伴う Friedel-Crafts 反応	2018年3月	日本化学会第98春季年会	山中奎哉、坂田優希、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
13	ベンゾジアゼピン誘導体の合成研究	2018年3月	日本化学会第98春季年会	安井 英子、津田隼平、 <u>南雲紳史</u>
#14	アレニコライド A の C19-C36 セグメントの合成	2018年3月	日本化学会第98春季年会	上條陽平、岩田大昌、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
#15	venturicidin C の C15-C27 segment の合成	2018年3月	日本化学会第98春季年会	小澤暢熙、安井英子、 <u>南雲紳史</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

16	1,2-ベンゾジアゼピン誘導体の合成	2017年11月	74回有機合成化学協会関東支部シンポジウム	津田 隼平、安井 英子、 <u>南雲紳史</u>
#17	エポキシ不飽和エステルの還元的SN2'反応と独自の鎖状立体制御法を利用した Venturicin X の全合成	2017年9月	第59回天然有機化合物討論会	鈴木 裕治、木村 直城、室川 俊介、古川 晃規、宮下 正昭、 <u>南雲紳史</u>
18	アセチレンコバルト錯体を利用した新規タンデム環化反応における立体制御機構	2017年9月	第61回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会	坂田優希、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
#19	Arenicolide A の中に存在する26員環ラクトン構造の合成	2017年5月	第73回有機合成化学協会関東支部シンポジウム	岩田大昌、内藤美菜子、砂川晶、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
#20	Arenicolide A の中に存在する26員環ラクトン構造の合成	2017年3月	日本薬学会第137年会	岩田大昌、内藤美菜子、砂川晶、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
21	アセチレンコバルト錯体を利用した新規タンデム環化反応における立体化学的考察	2017年3月	日本化学会第97春季年会	坂田優希、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
22	ピロールジエステルの選択的還元反応	2017年3月	日本化学会第97春季年会	安井英子、 <u>南雲紳史</u>
#23	エポキシジエノエステルの還元的SN2'反応を用いた torrubiellutin 誘導体の合成研究	2017年3月	日本化学会第97春季年会	室川俊介、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
#24	Sekothrixide の第二世代合成	2016年9月	第58回天然物有機化合物討論会	勝見大介、中曾根和樹、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
25	1,2-ジブロモ化合物のβ-脱離反応～位置選択性に対する水酸基の隣接効果～	2016年5月	第71回有機合成化学協会関東支部シンポジウム	田口彩、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
26	アルキンコバルト錯体を利用した新規含窒素中員環合成	2016年3月	日本薬学会第136年会	高岸 帆奈美、水上 徳美、 <u>南雲紳史</u>
#27	Synthetic studies of Venturicidins based on the newly developed method of a construction Z-alkene by SN2' type reduction with borane THF complex	2016年3月	日本化学会第96春季年会	鈴木裕司、佐藤大地、水上徳美、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
#28	14員環マクロライド Sekothrixide の改良合成	2016年3月	日本化学会第96春季年会	勝見大介、小澤暢熙、中曾根和樹、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
29	Pipestelide B の全合成研究	2016年3月	日本化学会第96春季年会	木村直城、安井英子、 <u>南雲紳史</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

30	新規 7 員環合成法の開発	2016 年 3 月	日本化学会第 96 春季年会	大月理央、樋口すみ香、高山敢、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
#31	多剤耐性克服活性を有する Sekothrixide の改良合成	2015 年 11 月	第 70 回有機合成化学協会 関東支部シンポジウム	勝見大介、中曽根和樹、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
32	ピロール-2,5-ジカルボン酸エステルからのカリックスピロール合成研究	2015 年 11 月	第 45 回複素環化学討論会 実行委員会	安井英子、大貫智史、嶋田佑太、津田隼平、近藤匠、 <u>南雲紳史</u>
#33	Arenicolide 類の合成研究	2015 年 9 月	第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会	砂川晶、内藤美菜子、勝見大介、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
34	新規7員環合成法の開発	2015 年 9 月	第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会	安井英子、大月理央、高山敢、樋口すみ香、 <u>南雲紳史</u>
35	Prins/Friedel-Crafts タンデム環化反応を用いた種々の検討	2015 年 5 月	第 69 回有機合成化学協会 関東支部シンポジウム	坂田優希、安井英子、高取和彦、 <u>南雲紳史</u>
36	Prins/Friedel-Crafts タンデム環化反応(3)	2015 年 3 月	日本薬学会第 135 年会	坂田 優希、安井 英子、高取 和彦、 <u>南雲紳史</u>
#37	ボラン・THF 錯体による Z-アルケン構築法を機軸とした Venturicidin 類の全合成研究	2015 年 3 月	日本薬学会第 135 年会	鈴木裕治、古川晃規、中野妙子、島貫陽平、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
38	ピロール 2, 5-ジカルボン酸エステルからのカリックスピロール合成研究	2015 年 3 月	日本化学会第 95 春季年会	安井英子、大貫智史、嶋田佑太、近藤匠、 <u>南雲紳史</u>
39	エポキシ不飽和エステルの還元的 SN2' 反応	2015 年 3 月	日本薬学会第 135 年会	木村直城、古川晃規、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
#40	Sekothrixide の第二世代合成研究	2015 年 3 月	日本薬学会第 135 年会	中曽根和樹、寺山直樹、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
#41	Arenicolide 類の合成研究(3)	2015 年 3 月	日本化学会第 95 春季年会	砂川晶、内藤美菜子、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
#42	Sekothrixide の全合成	2014 年 10 月	第 56 回天然有機化合物討論会	寺山直樹、中曽根和樹、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
#43	ユニークな構造と興味ある生理活性を有するマクロライド系天然物の全合成研究	2014 年 9 月	第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会	<u>南雲紳史</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

44	BH3 を用いたエポキシ不飽和エステル(Z)-アルケン選択的 SN2' 反応	2014 年 9 月	第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会	古川晃規、中野妙子、鈴木裕治、安井英子、宮下正昭、 <u>南雲紳史</u>
45	5 員環選択的 Prins 反応と Friedel-Crafts 反応からなるタンDEM環化反応	2014 年 9 月	第 44 回複素環化学討論会	坂田 優希、丹羽 孝徳、鈴木 裕治、安井 英子、 <u>南雲紳史</u>
46	2級アルコールに隣接したエポキシドと有機銅錯体との反応	2014 年 5 月	第 67 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム	寺山直樹、牛嶋将大、安井英子、 <u>南雲紳史</u>
1-6 & 4-3				
#1	ニトロベンゾオキサジアゾールを用いる蛍光 turn-ON 型アフィニティーラベル化法の開発	2014 年 5 月	第 12 回次世代を担う有機化学シンポジウム	山口卓男、浅沼三和子、中西修一、斎藤洋平、岡崎正晃、 <u>圃圃孝介</u> 、袖岡幹子
2	酸化ストレス誘導性ネクローシスを制御する化合物の開発とその作用機序	2014 年 5 月	第 23 回日本 Cell Death 学会学術集会	<u>圃圃孝介</u>
#3	ラマンタグを用いた低分子化合物の生細胞イメージング	2014 年 11 月	第 37 回日本分子生物学会年会	<u>圃圃孝介</u>
4	Development of Cell Death Control Molecules: Chemical Biology for Cell Death Research	2015 年 3 月	日本化学会第 95 春季年会アジア国際シンポジウム	<u>Kosuke Dodo</u>
#5	ネクローシス制御機構解明を目指したケミカルバイオロジー研究: 蛍光 turn-ON 型アフィニティーラベル化法の開発	2015 年 6 月	第 15 回日本蛋白質科学会年会	<u>圃圃孝介</u>
#6	アルキンタグラマンイメージング: ありのままの薬物を捉える技術を目指して	2017 年 3 月	日本薬学会第 137 年会	<u>圃圃孝介</u>
#7	アルキン標識分子の直接的濃縮精製法の開発	2017 年 3 月	日本薬学会第 137 年会	大金賢司、浅沼三和子、 <u>圃圃孝介</u> 、袖岡 幹子
#8	Turn-ON 蛍光アフィニティー標識法を用いた生物活性化合物の標的タンパク質解析	2017 年 3 月	日本薬学会第 137 年会	浅沼三和子、 <u>圃圃孝介</u> 、大金賢司、袖岡 幹子
#9	Alkyne-tag Raman Imaging & Screening	2017 年 7 月	JSPS 日中韓フォーサイト事業「アジア化学プローブ研究拠点」A3 若手ミーティング	<u>Kosuke Dodo</u>
#10	O-NBD: small bifunctional unit for turn-ON fluorescent affinity labeling	2017 年 11 月	The Second A3 Roundtable Meeting on Chemical Probe Research Hub	<u>Kosuke Dodo</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

11	酸化ストレスにより誘導されるネクロシスの抑制剤開発と虚血性疾患への応用	2018年3月	日本薬学会第138年会	<u>圃圃孝介</u>
#12	Turn-ON 蛍光アフィニティー標識法を用いた生物活性化化合物標的タンパク質の網羅的解析への取り組み	2018年3月	日本薬学会第138年会	浅沼三和子、 <u>圃圃孝介</u> 、田中美帆、大金賢司、江越脩祐、袖岡幹子
13	Development and Therapeutic Application of Indolylmaleimide Derivatives: Unique Inhibitors for Oxidative Stress-Induced Necrosis	2018年7月	The 2nd International Conference on Food Nutrition & Safety and Medicinal Chemistry	<u>Kosuke Dodo</u>
14	ネクロシス抑制化合物の開発と虚血性心疾患モデルへの適用	2018年7月	第27回日本 Cell Death 学会学術集会	<u>圃圃孝介</u>
#15	Turn-ON 型蛍光アフィニティーラベル化法の開発と応用	2018年9月	第91回日本生化学会大会	<u>圃圃孝介</u>
#16	Turn-ON 蛍光アフィニティーラベル化法により NBD 標識される生物活性化化合物標的タンパク質の網羅的解析への取り組み	2018年9月	第91回日本生化学会大会	浅沼三和子、 <u>どど孝介</u> 、田中美帆、大金賢司、江越脩祐、袖岡幹子
17	A novel scenario of bacterial infection in plant: Coronatine induces stomatal opening through two different target proteins in guard cells.	2018年9月	International Chemical Biology Society (ICBS) 7th Annual Conferenc	Syusuke Egoshi, <u>Kosuke Dodo</u> , Hiroyuki Yamakoshi, Yasuhiro Ishimaru, Yousuke Takaoka, Kengo Hayashi, Mikiko Sodeoka, Minoru Ueda
18	インドリルマレイミド誘導體 IM-17 の開発と虚血再灌流障害モデルにおける効果	2018年11月	第36回メディシナルケミストリーシンポジウム	中尾周平, 寺山直樹, <u>圃圃孝介</u> , 清水忠, 井内勝哉, 高橋昌弘, 袖岡幹子
1-8				
#1	Indoleamine 2,3-dioxygenase 阻害剤の合成および結合様式の解明	2018年11月	第36回メディシナルケミストリーシンポジウム(京都) 1P-36)	手嶋真武、熊澤美幸、武田翔太、鈴木健二、水本友紀子、橋本知子、浅井章良、滝川修、大野修、 <u>松野研司</u>
#2	がん免疫寛容解除を指向した indoleamine 2,3-dioxygenase 阻害剤の合成	2018年10月	第7回医薬工三大学包括連携推進シンポジウム(東京)	手嶋真武、熊澤美幸、武田翔太、鈴木健司、水本友紀子、橋本知子、大野修、 <u>松野研司</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#3	海洋生物由来新規キヌレニン産生抑制物質の探索	2018年7月	第65回トキシシンポジウム(金沢)	大野修、佐々木智未、浅井章良、滝川修、 <u>松野研司</u>
#4	Indoleamine 2,3-dioxygenase 阻害剤の合成および結合様式の解明	2018年10月	第62回日本薬学会関東支部大会(東京)	手嶋真武、熊澤美幸、武田翔太、鈴木健司、水本友紀子、橋本知子、浅井章良、滝川修、大野修、 <u>松野研司</u>
5	KID-001, a novel TDO/IDO inhibitor, suppresses the AHR-TIPARP pathway to reduce HBV replication in human hepatocytes.	2018年4月	Japan-Taiwan-Korea HBV Research Symposium 2018, Academia Sinica (Taipei, Taiwan)	Sato, S., Yamada, T., <u>Matsuno K.</u> , Li, K., Watashi, K., Wakita, T., Tanaka, Y., Tanaka, Y., Takaoka, A.
#6	海洋シアノバクテリア由来キヌレニン産生阻害剤 KNP-1 の同定および作用機序の解明	2018年3月	日本薬学会第138年会(金沢)	佐々木智未、大野修、浅井章良、滝川修、 <u>松野研司</u>
#7	Identification of kynurenine-production inhibitor from a marine cyanobacterium	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (Hachi-oji)	Sasaki, T., Ohno, O., Asai, A., Takikawa, O., <u>Matsuno K.</u>
#8	海洋シアノバクテリア由来キヌレニン産生阻害剤 KNP-1 の同定	2017年10月	第35回メディシナルケミストリーシンポジウム(名古屋)	佐々木智未、大野修、浅井章良、滝川修、 <u>松野研司</u>
#9	IDO 阻害剤の合成研究	2017年9月	第61回日本薬学会関東支部大会(東京)	熊澤美幸、鈴木健司、水本友紀子、橋本知子、浅井章良、滝川修、大野修、 <u>松野研司</u>
#10	海洋生物からのキヌレニン産生抑制剤の探索	2017年9月	第61回日本薬学会関東支部大会(東京)	佐々木智未、大野修、浅井章良、滝川修、 <u>松野研司</u>
#11	Benzimidazole analogues as kynurenine production inhibitor by hopping from indoleamine 2,3-dioxygenase inhibitor.	2017年8月	EFMC-ASMC'17 7th EFMC International Symposium on Advances in Synthetic and Medicinal Chemistry (Wien, Österreich)	Fukuda, M., Sasaki, T., Suzuki, K., Miyachi, H., Waki, M., Asai, A., Hashimoto, T., Ohno, O., Takikawa, O., <u>Matsuno K.</u>
#12	海洋生物由来キヌレニン産生抑制物質の探索	2017年6月	新規素材探索研究会第16回セミナー(横浜)	佐々木智未、大野修、浅井章良、滝川修、 <u>松野研司</u>
#13	海洋生物からのキヌレニン産生抑制剤の探索	2017年3月	日本化学会第97春季年会(慶応義塾大学 日吉キャンパス)	佐々木智未、大野修、浅井章良、滝川修、 <u>松野研司</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#14	Benzimidazole analogues as kynurenine production inhibitor without indoleamine 2,3-dioxygenase inhibition.	2016年8月	XXIV EFMC International Symposium on Medicinal Chemistry (Manchester, UK)	Fukuda M., Suzuki, K., Sasaki, T., Miyachi, H., Waki, M., Asai, A., Hashimoto, T., Ohno, O., Takikawa, O., <u>Matsuno K.</u>
#15	Cyclisation of benzylisothiourea provided kynurenine production inhibitor without indoleamine 2,3-dioxygenase inhibition.	2015年11月	EFMC-ASMC'15 6th EFMC International Symposium on Advances in Synthetic and Medicinal Chemistry (Rehovot, Israel)	Fukuda, M., Miyachi, H., Waki, M., Asai, A., Takikawa, O., <u>Matsuno K.</u>
2-1				
#1	気生微細藻類 <i>Coccomyxa</i> sp. KGU-D001 の壁面培養の確立に向けた気相条件の検討	2019年3月	第7回日本生物工学会東日本支部コロキウム	川島成貴、長久保響、 <u>油井信弘</u> 、菅原康里、今村保忠、阿部克也
#2	気相条件における気生微細藻類 <i>Coelastrella</i> sp. KGU-Y002 のキサントフィルのエステル化	2019年3月	第7回日本生物工学会東日本支部コロキウム	恩田岳英、 <u>油井信弘</u> 、菅原康里、今村保忠、阿部克也
#3	気生微細藻類が産生する抗菌活性を有する新規クロロフィル類の単離	2018年11月	日本防菌防黴学会第45回年次大会	三田一至、福田裕介、 <u>油井信弘</u> 、菅原康里、今村保忠、阿部克也
4	気生微細藻類と窒素固定菌による栄養源の相互供給が可能な共培養系の開発	2018年10月	第8回CSJ化学フェスタ2018	塚越崇之、 <u>油井信弘</u> 、菅原康里、今村保忠、阿部克也
#5	気生微細藻類由来の抗菌活性を有する新規クロロフィル類の単離と構造推定	2018年10月	第8回CSJ化学フェスタ2018	三田一至、福田裕介、 <u>油井信弘</u> 、菅原康里、今村保忠、阿部克也
6	壁面で生活している光合成微生物を用いたバイオ燃料生産-効率的な炭素源供給法の開発-	2018年10月	第7回 医薬工3大学包括連携推進シンポジウム	<u>油井信弘</u> 、川島成貴、宮内啓喜(東京薬科大学)、都筑幹夫(東京薬科大学)、藤原祥子(東京薬科大学)、菅原康里
#7	気相培養による気生微細藻類 <i>Coelastrella</i> sp. KGU-Y002 のカロテノイドのエステル化	2018年9月	第70回日本生物工学会大会	恩田岳英、 <u>油井信弘</u> 、菅原康里、今村保忠、阿部克也
#8	気生微細藻類由来の抗菌活性を有する新規クロロフィル類の単離とその産生株の探索	2018年9月	第70回日本生物工学会大会	三田一至、 <u>油井信弘</u> 、菅原康里、今村保忠、阿部克也
#9	気相培養における気生微細藻類 <i>Coccomyxa</i> sp. KGU-D001 の脂質蓄積と細胞内 CN 比	2018年9月	第70回日本生物工学会大会	川島成貴、 <u>油井信弘</u> 、菅原康里、今村保忠、阿部克也

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

10	気生微細藻類と窒素固定菌の共生系を利用した壁面培養法	2018年9月	第70回日本生物工学会大会	塚越崇之、 <u>油井信弘</u> 、菅原康里、今村保忠、阿部克也
11	気生微細藻類と窒素固定菌の共生系における産生粒状多糖の役割	2018年5月	第20回マリンバイオテクノロジー学会大会	塚越崇之、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#12	気生微細藻類由来の抗菌活性を示す新規クロロフィルの単離	2018年5月	第20回マリンバイオテクノロジー学会大会	三田一至、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#13	気生微細藻類由来新規クロロフィル類の抗菌活性	2018年3月	第6回日本生物工学会東日本支部コロキウム	三田一至、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
14	気生微細藻類と窒素固定菌の共生系における光合成活性と窒素固定能の関係	2018年3月	第6回日本生物工学会東日本支部コロキウム	塚越崇之、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
15	Synthesis and characterization of novel enzyme-CdS nanoparticles for photooxidation of NADH to NAD ⁺	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology	N. Yasuda, <u>N. Aburai</u> , K. Abe
16	Discovery of new antibacterial chlorophylls in colony of aerial microalgae	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology	K. Mita, <u>N. Aburai</u> , K. Abe
#17	Toward metabolic switching: directly-modulated biosyntheses of polyene metabolites in photosynthetic microorganisms	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology	<u>N. Aburai</u> , H. Kazama, K. Abe
18	光触媒活性に及ぼす酸化還元酵素内包半導体ナノ粒子の分散性の影響	2017年9月	第69回日本生物工学会大会	安田信幸、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#19	気生微細藻類単離株における低温条件下オレイン酸の高蓄積	2017年9月	第69回日本生物工学会大会	西田章弘、 <u>油井信弘</u> 、藤原祥子(東京薬科大学)、都筑幹夫(東京薬科大学)、阿部克也
20	気生微細藻類を用いた壁面緑化法の開発: 窒素固定菌が産生する産生粒状多糖の特徴づけ	2017年9月	第69回日本生物工学会大会	塚越崇之、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#21	気生微細藻類から単離された抗菌活性を有する新規クロロフィルの構造	2017年9月	第69回日本生物工学会大会	三田一至、福田裕介、 <u>油井信弘</u> 、伊世井湧太(筑波大学)、真弓智仁(筑波大学)、小林正美(筑波大学)、阿部克也
22	光合成微生物におけるカロテノイドの蛍光イメージング: 金属イオンによる蛍光増幅	2017年9月	第69回日本生物工学会大会	<u>油井信弘</u> 、阿部克也

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#23	Lipid production by biofilms of aerial microalgae through photosynthetic CO ₂ fixation	2017年6月	The 7th International Conference on Algal Biomass, Biofuels and Bioproducts	K. Abe, K. Ohkubo, A. Nishida, <u>N. Aburai</u>
#24	Carotenogenesis activators: Development of a whole-cell-based screening method using aerial microalga <i>Coelastrrella</i> sp. KGU-Y002 and identification of the activators isolated from higher plants	2017年6月	The 7th International Conference on Algal Biomass, Biofuels and Bioproducts	<u>N. Aburai</u> , H. Kazama, T. Owada, A. Sasaki, M. Goto, A. Tsuruoka, K. Abe
25	気生微細藻類と窒素固定菌の共生系における産生粒状多糖の役割	2017年6月	第19回マリンバイオテクノロジー学会大会	塚越崇之、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#26	気生微細藻類由来の抗菌活性を示す新規クロロフィルの単離	2017年6月	第19回マリンバイオテクノロジー学会大会	三田一至、福田裕介、 <u>油井信弘</u> 、伊世井湧太(筑波大学)、小林正美(筑波大学)、阿部克也
27	脂質蓄積能が高い気生微細藻類を用いた細胞フィルムの特徴づけ	2017年6月	第19回マリンバイオテクノロジー学会大会	西田章弘、 <u>油井信弘</u> 、藤原祥子(東京薬科大学)、都筑幹夫(東京薬科大学)、阿部克也
28	気生微細藻類の細胞フィルムにおける脂質代謝および CO ₂ 固定	2017年6月	第19回マリンバイオテクノロジー学会大会	大久保亨、 <u>油井信弘</u> 、藤原祥子(東京薬科大学)、都筑幹夫(東京薬科大学)、阿部克也
#29	気生微細藻類 <i>Coelastrrella</i> sp. のカロテノイド生合成を制御する高等植物由来活性物質の探索・単離・機能評価	2017年6月	第19回マリンバイオテクノロジー学会大会	<u>油井信弘</u> 、風間洋明、阿部克也
30	酸化還元酵素を内包した半導体ナノ粒子のアフィニティ精製と光触媒活性	2017年5月	ナノ学会第15回大会	安田信幸、立道祥平、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
31	壁面緑化を目指した気生微細藻類と窒素固定菌の共培養条件の検討	2017年3月	第5回日本生物工学会東日本支部コロキウム	塚越崇之、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#32	気生微細藻類がもつ抗菌活性物質の単離と特徴づけ	2017年3月	第5回日本生物工学会東日本支部コロキウム	三田一至、福田裕介、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#33	Is abscisic acid responsible for selective reactions of esterified xanthophylls in aerial microalga <i>Coelastrrella</i> sp. KGU-Y002 under stress conditions?	2016年10月	1st International Conference on Bioresource Technology for Bioenergy, Bioproducts & Environmental Sustainability	K. Saeki, <u>N. Aburai</u> , K. Abe

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#34	Lipid accumulation of the immobilized aerial microalga <i>Coccomyxa</i> sp. KGU-D001 (Trebouxiophyceae) in biofilms with CO ₂ gas fixation	2016 年 10 月	1st International Conference on Bioresource Technology for Bioenergy, Bioproducts & Environmental Sustainability	K. Ohkubo, <u>N. Aburaj</u> , H. Miyauchi, M. Tsuzuki, K. Abe
35	気生微細藻類 <i>Vischeria helvetica</i> の脂質生合成を制御するストレス応答シグナル伝達	2016 年 9 月	第 68 回日本生物工学会大会	<u>油井信弘</u> 、阿部克也
36	ジアホラーゼ内包硫化カドミウムナノ粒子の作製と水系/非水系における特性評価	2016 年 9 月	第 68 回日本生物工学会大会	安田信幸、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#37	低温・弱光において生育可能な気生微細藻類の探索と特徴づけ	2016 年 9 月	第 68 回日本生物工学会大会	西田章弘、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
38	気生微細藻類 <i>Vischeria helvetica</i> 由来プロテアーゼによって生成した カゼインオリゴペプチドの ACE 阻害活性	2016 年 9 月	第 68 回日本生物工学会大会	井上悠希、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
39	<i>Coccomyxa</i> sp.細胞フィルムの CO ₂ 固定と脂質蓄積	2016 年 5 月	第 18 回マリンバイオテクノロジー学会大会	大久保亨、 <u>油井信弘</u> 、宮内啓喜(東京薬科大学)、都筑幹夫(東京薬科大学)、阿部克也
#40	気生微細藻類の抗菌活性物質の単離と特徴づけ	2016 年 5 月	第 18 回マリンバイオテクノロジー学会大会	福田裕介、松村千麻、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#41	天然物由来生理活性物質の気生微細藻類への導入とカロテノイド生合成の制御	2016 年 5 月	第 18 回マリンバイオテクノロジー学会大会	風間洋明、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#42	気生微細藻類 <i>Coelastrrella</i> sp.KGU-Y002 のストレス応答システム –カロテノイド生合成に及ぼすアブシシン酸の影響–	2016 年 5 月	第 18 回マリンバイオテクノロジー学会大会	佐伯風朗、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#43	基物表面で生活している気生微細藻類の脂質成分の抗菌活性	2016 年 3 月	第 4 回日本生物工学会東日本支部コロキウム	福田裕介、松村千麻、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#44	気生微細藻類 <i>Coelastrrella</i> sp. KGU-Y002 におけるエステル型カロテノイドの選択合成	2016 年 3 月	第 4 回日本生物工学会東日本支部コロキウム	佐伯風朗、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#45	植物サワラ由来生理活性物質による光合成微生物のカロテノイド生合成の活性化	2016 年 3 月	第 4 回日本生物工学会東日本支部コロキウム	風間洋明、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#46	気生微細藻類 <i>Coccomyxa</i> sp.の細胞フィルムにおける脂質蓄積能評価	2016 年 3 月	第 4 回日本生物工学会東日本支部コロキウム	大久保亨、 <u>油井信弘</u> 、宮内啓喜、都筑幹夫、阿部克也

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#47	Production of Fatty Acids by the Aerial Microalga <i>Coccomyxa</i> sp. on Filter Membrane	2015 年 11 月	The 14th International Symposium on Advanced Technology	K. Ohkubo, <u>N. Aburai</u> , K. Abe
48	Development of Cocultivation Systems with Cell Clusters Formed by Cells of Aerial Microalga and Nitrogen-fixing Bacterium	2015 年 11 月	The 14th International Symposium on Advanced Technology	S. Sekiguchi, <u>N. Aburai</u> , K. Abe
#49	対数増殖期における気生微細藻類 <i>Vischeria helvetica</i> のカロテノイド生合成の活性化への試み	2015 年 10 月	第 67 回日本生物工学会大会	<u>油井信弘</u> 、阿部克也
50	明暗所下で培養した気生微細藻類 <i>Vischeria helvetica</i> の細胞外プロテアーゼを利用したカゼインオリゴペプチドの生理活性	2015 年 10 月	第 67 回日本生物工学会大会	丸山紗世、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
51	気生微細藻類と窒素固定菌の共生系を用いた気生培養法の開発：共生系と細胞塊との関係	2015 年 10 月	第 67 回日本生物工学会大会	関口聡太、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#52	窒素枯渇における気生微細藻類 <i>Vischeria helvetica</i> のカロテノイド生合成の活性化とクロロフィル代謝物との関係	2015 年 9 月	第 29 回カロテノイド研究談話会	<u>油井信弘</u> 、小宮山大騎、阿部克也
#53	塩添加培養における気生微細藻類 <i>Scenedesmus</i> sp. のエステル型カロテノイド生合成の活性化	2015 年 9 月	第 29 回カロテノイド研究談話会	佐伯風朗、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#54	気生微細藻類のカロテノイド生合成を制御する天然由来活性物質のアッセイ系の確立	2015 年 9 月	第 29 回カロテノイド研究談話会	風間洋明、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
55	気生微細藻類由来生理活性物質の探索、機能解析、および効率的生産	2015 年 7 月	生体分子システム研究センター 2015 年度前期報告会	阿部克也、 <u>油井信弘</u>
#56	基物表面で生活している光合成微生物の機能開発ー有用カロテノイドの選択合成ー	2015 年 6 月	第 4 回医薬工 3 大学包括連携推進シンポジウム	阿部克也、 <u>油井信弘</u>
57	Discovery of protease photoinduced from the aerial microalga <i>Vischeria helvetica</i> (Eustigmatophyceae) in culture medium with casein	2015 年 6 月	The 5th International Conference on Algal Biomass, Biofuels and Bioproducts	S. Maruyama, <u>N. Aburai</u> , K. Abe
#58	Regulation of carotenogenesis in microalgae by metabolic switching compounds	2015 年 6 月	The 5th International Conference on Algal Biomass, Biofuels and Bioproducts	<u>N. Aburai</u> , D. Komiyama, H. Kazama, K. Abe

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#59	Carotenoid content and profile of aerial microalgae isolated from dry environments: Selective synthesis of free and ester-type carotenoids by stress culture	2015 年 6 月	The 5th International Conference on Algal Biomass, Biofuels and Bioproducts	K. Abe, K. Saeki, D. Inaba, <u>N. Aburai</u>
60	カゼイン添加培地において気生微細藻類 <i>Vischeria helvetica</i> が明暗所下で産生する細胞外プロテアーゼの活性評価	2015 年 5 月	第 17 回マリンバイオテクノロジー学会大会	丸山紗世、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#61	乾燥培養による気生微細藻類 <i>Coccomyxa</i> sp.を用いたオイル生産の検討	2015 年 5 月	第 17 回マリンバイオテクノロジー学会大会	大久保亨、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#62	気生微細藻類のカロテノイド生合成に促す植物由来活性物質の探索	2015 年 5 月	第 17 回マリンバイオテクノロジー学会大会	風間洋明、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#63	塩ストレス培養における気生微細藻類 <i>Scenedesmus</i> sp.の遊離・エステル型カロテノイド組成	2015 年 5 月	第 17 回マリンバイオテクノロジー学会大会	佐伯風朗、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#64	生物活性物質による気生微細藻類 <i>Vischeria helvetica</i> の脂質代謝制御およびカロテノイド生産	2015 年 5 月	第 17 回マリンバイオテクノロジー学会大会	<u>油井信弘</u> 、小宮山大騎、阿部克也
65	気生微細藻類と窒素固定菌の共生系を用いた気生培養法の開発: 前培養条件の検討	2015 年 5 月	第 17 回マリンバイオテクノロジー学会大会	関口聡太、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
66	Cocultivation of aerial microalgae and nitrogen-fixing bacteria on solid surface	2014 年 11 月	The Joint Symposia of the 1st International Innovation Forum of Advanced Engineering and Education and the 21st International SPACC Symposium	S. Sekiguchi, <u>N. Aburai</u> , K. Abe
67	Characterization of extracellular protease and amino acid oxidase produced by the aerial microalga <i>Vischeria helvetica</i> (Eustigmatophyceae) cultured under various light conditions	2014 年 11 月	The Joint Symposia of the 1st International Innovation Forum of Advanced Engineering and Education and the 21st International SPACC Symposium	S. Maruyama, <u>N. Aburai</u> , K. Abe
#68	Study of stress response signaling of carotenogenesis using inhibitors of fatty acids synthesis in aerial microalgae	2014 年 11 月	The Joint Symposia of the 1st International Innovation Forum of Advanced Engineering and Education and the 21st International SPACC Symposium	<u>N. Aburai</u> , K. Abe

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#69	気生微細藻類のカロテノイド蓄積を促す脂肪酸生合成阻害剤の作用解析および植物由来生理活性物質の探索	2014年9月	第28回カロテノイド研究談話会	油井信弘、鶴岡厚志、後藤瑞紀、阿部克也
#70	気生微細藻類 <i>Scenedesmus</i> sp. の遊離型・エステル型カロテノイドの蓄積に及ぼす光・塩ストレス培養の影響	2014年9月	第66回日本生物工学会大会	隅田大地、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
71	脂肪酸生合成阻害剤が及ぼす微細藻類のカロテノイド生合成の促進とストレス応答シグナル伝達の活性化との関係	2014年9月	第66回日本生物工学会大会	<u>油井信弘</u> 、阿部克也
72	気生微細藻類が着生している基物表面からの窒素固定菌の単離と培養	2014年5月	第16回マリンバイオテクノロジー学会大会	関口聡太、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
73	光培養条件に依存した気生微細藻類 <i>Vischeria helvetica</i> KGU-Y001 産生プロテアーゼおよびアミノ酸オキシターゼの活性評価	2014年5月	第16回マリンバイオテクノロジー学会大会	丸山沙世、 <u>油井信弘</u> 、阿部克也
#74	強光下培養における微細藻類のカロテノイド生合成に及ぼす脂肪酸生合成阻害剤の添加効果	2014年5月	第16回マリンバイオテクノロジー学会大会	<u>油井信弘</u> 、阿部克也
2-2				
1	うどん製造工程における呈味成分の変化	2018年8月	日本食品科学工学会第65回大会	成澤朋之、仲島日出男、杉山健二郎、 <u>山田昌治</u> 、朝倉富子
2	Enzyme Activity Affecting Volatile Components of Wheat Flour Mill Streams	2018年3月	日本農芸化学会2018年度大会	成澤 朋之、海野 まりえ、仲島 日出男、小島 登貴子、乙部 千雅子、金子成延、杉山 健二郎、朝倉富子、 <u>山田昌治</u>
3	米粉の保管に伴う品質特性の変化	2018年3月	日本農芸化学会2018年度大会	<u>山田昌治</u> 、本間隆広、藤理沙子、飯高 和、杉山健二郎
#4	麺類におけるグルテン組織構造観察技術の開発	2017年8月	日本食品科学工学会第64回大会	中村純一、杉山健二郎、 <u>山田昌治</u>
5	米粉の保管に伴う品質特性の変化	2017年5月	粉体工学会春期研究発表会	本間隆広、杉山健二郎、 <u>山田昌治</u>
6	コーヒー粉の保管に伴う品質変化挙動について	2017年3月	化学工学会第81年会	村重達哉、杉山健二郎、 <u>山田昌治</u>
7	食品分野のイノベーション	2017年2月	社会技術革新学会	<u>山田昌治</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

8	揮発性成分を指標としたストリー ム粉置換による小麦「さとのそら」 の風味補強効果	2016年8月	日本食品科学工学会第63 回大会	成澤朋之, 仲島日出男, 小島登貴子, 杉山健二 郎, 朝倉富子, <u>山田昌治</u>
9	米粉の保管に伴う香り特性の変 化	2016年5月	粉体工学会春期研究発表 会	本間隆広, 杉山健二郎, <u>山田昌治</u>
10	Analysis of Changes in the Volatile Compounds on Producing Japanese Noodle Doughs from Domestic Wheat Flour	2016年3月	日本農芸化学会 2016年度 大会	成澤朋之, 仲島日出男, 小島登貴子, 杉山健二 郎, <u>山田昌治</u>
11	コーヒー粉の保管に伴う品質変 化挙動について	2016年3月	化学工学会第80年会	<u>山田昌治</u> , 村重達也, 杉 山健二郎
2-3				
#1	ブタ酸性キチナーゼは, 消化器 系プロテアーゼに耐性で, キチン 分解酵素として機能する	2019年3月	日本農芸化学会 2019年度 (H31年度)大会[東京]	<u>小山文隆</u> , 櫻村昭徳, 脇 田悟誌, 菅原康里, 田畑 絵理
#2	マウスキチナーゼの相互作用に 関する研究	2019年3月	日本農芸化学会 2019年度 (H31年度)大会[東京]	木村将大, 梅山隆敏, 脇 田悟誌, 大川一明, 坂口 政吉, <u>小山文隆</u>
#3	Evaluations of enzymatic properties for human and mouse chitotriosidase	2018年10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Watanabe, T., Kimura, M., Wakita, S., ; Sekine, K., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#4	Quantification of chitinases mRNA levels by qPCR in crab- eating monkey tissues: Comparison with mouse and human.	2018年10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Uehara, M., Tabata, E., Ohno, M., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#5	Gene expression analysis of mammalian chitinases in common marmoset (<i>Callithrix jacchus</i>) tissue	2018年10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Tabata, E., Kashimura, A., Uehara, M., Wakita, S., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Yurimoto, T., Sasaki, E., <u>Oyama, F.</u>
#6	Chitinase 3-like-1 with amino acid substitutions at the active site remains inactive.	2018年10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Kishigami, N., Okawa, K., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#7	Comparison of chitinolytic properties of mouse Chit1 and AMCase with <i>Serratia</i> <i>marcescens</i> chitinase B	2018年10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Kimura, M., Umeyama, T., Wakita, S., Okawa, K., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#8	Feeding behaviors determine acidic chitinase mRNA levels in mammalian and poultry stomachs	2018 年 10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	<u>Oyama, F.</u> , Kashimura, A., Kikuchi, A., Masuda, H., Miyahara, R., Hiruma, Y., Wakita, S., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Tabata, E.
#9	Acidic chitinase mRNA levels and their chitinolytic activity are affected by the feeding behavior, which may determine chitin digestibility in animals	2018 年 8 月	14th International Chitin and Chitosan Conference (14th ICC)	Tabata, E., Kashimura, A., Wakita, S., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#10	Functional differences between human and mouse chitotriosidase	2018 年 8 月	14th International Chitin and Chitosan Conference (14th ICC)	Watanabe, T., Kimura, M., Sekine, K., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#11	Amino acid substitutions at the active site of Chitinase 3-like-1	2018 年 8 月	14th International Chitin and Chitosan Conference (14th ICC)	Kishigami, N., Okawa, K., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#12	Gene expression analysis of chitinases in crab-eating monkey: species-specific expression of acidic mammalian chitinase and chitotriosidase	2018 年 8 月	14th International Chitin and Chitosan Conference (14th ICC)	Uehara, M., Tabata, E., Ohno, M., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#13	Comparison of chitinolytic activities among mouse mammalian chitinases and <i>Serratia marcescens</i> chitinase B	2018 年 8 月	14th International Chitin and Chitosan Conference (14th ICC)	Kimura, M., Umeyama, T., Wakita, S., Okawa, K., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#14	Acidic mammalian chitinase is a major chitinase in stomach resistant to pepsin and trypsin/chymotrypsin digestion	2018 年 8 月	14th International Chitin and Chitosan Conference (14th ICC)	<u>Oyama, F.</u> , Kimura, M., Okawa, K., Onuki, R., Nemoto, C., Tabata, E., Wakita, S., Kashimura, A., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Ohno, M.
#15	ニワトリ酸性キチナーゼの消化酵素としての機能解析	2018 年 3 月	日本農芸化学会 2018 年度大会[名古屋]	田畑絵理, 樫村昭徳, 脇田悟誌, 大野美紗, 坂口政吉, 菅原康里, <u>小山文隆</u>
#16	ヒト酸性ほ乳類キチナーゼの nonsynonymous SNPs による活性の調節	2018 年 3 月	日本農芸化学会 2018 年度大会[名古屋]	<u>小山文隆</u> , 大野美紗, 樫村昭徳, 木村将大, 坂口政吉, 菅原康里, 大川一明
#17	2 種類のマウスほ乳類キチナーゼのキチナーゼ活性比較	2018 年 3 月	日本農芸化学会 2018 年度大会[名古屋]	木村将大, 梅山隆敏, 脇田悟誌, 大川一明, 坂口政吉, <u>小山文隆</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#19	ブタ酸性ほ乳類キチナーゼは、消化器系条件下でプロテアーゼ耐性を示す: キチン含有生物はブタの持続的な飼料資源となり得る	2017年12月	第9回大学コンソーシアム八王子学生発表会	田畑絵理, 檜村昭徳, 脇田悟誌, 大野美紗, 坂口政吉, 菅原康里, <u>小山文隆</u>
#20	Gene expression analysis of chitinases by qPCR in crab-eating monkey tissues	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Uehara, M., Tabata, E., Ohno, M., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#21	Enzymatic properties of acidic mammalian chitinase under somatic tissue pH conditions	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Wakita, S., Kimura, M., Kashimura, A., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#22	Characterization of Escherichia coli-produced mouse chitotriosidase and human chitotriosidase	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Watanabe, T., Kimura, M., Sekine, K., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#23	Comparative analysis of mouse mammalian chitinases and <i>Serratia marcescens</i> chitinase B	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Kimura, M., Umeyama, T., Wakita, S., Okawa, K., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#24	Chicken acidic chitinase can function as digestive enzyme which degrades chitin-containing organisms under its gastrointestinal tract	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Tabata, E., Kashimura, A., Wakita, S., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#25	Gene expression analysis and enzyme function of pig mammalian chitinase	2017年10月	The 67th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (ASHG) (Orlando)	Tabata, E., Kashimura, A., Wakita, S., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#26	Mechanistic insight of inactivation of mouse chitinase-like protein Ym1	2017年10月	The 67th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (ASHG) (Orlando)	<u>Oyama, F.</u> , Sakaguchi, M., Sugahara, Y., Okawa, K.
#27	Comparison of chitinolytic activities among mammalian chitinases and bacterial chitinase	2017年10月	The 67th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (ASHG) (Orlando)	Kimura, M., Umeyama, T., Wakita, S., Okawa, K., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#28	Chitinases mRNA levels quantified by qPCR in crab-eating monkey tissues.	2017年10月	The 67th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (ASHG) (Orlando)	Uehara, M., Tabata, E., Ohno, M., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#31	ヒト酸性ほ乳類キチナーゼの進化的解析	2017年8月	第31回日本キチン・キトサン学会大会	<u>小山文隆</u> , 大野美紗, 檜村昭徳, 木村将大, 坂口

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

				政吉, 菅原康里, 大川一明
#32	マウスほ乳類キチナーゼの比較解析	2017年8月	第31回日本キチン・キトサン学会大会	木村将大, 梅山隆敏, 脇田悟誌, 大川一明, 坂口政吉, <u>小山文隆</u>
#33	ニワトリ酸性キチナーゼの遺伝子発現解析とその酵素機能	2017年8月	第31回日本キチン・キトサン学会大会	田畑絵理, 榎村昭徳, 脇田悟志, 大野美紗, 菅原康里, 坂口政吉, <u>小山文隆</u>
#34	カニクイザルにおけるキチナーゼ遺伝子の発現解析	2017年8月	第31回日本キチン・キトサン学会大会	上原麻衣子, 田畑絵里, 大野美紗, 坂口政吉, <u>小山文隆</u>
#35	キチンオリゴ糖蛍光標識法を用いた酸性ほ乳類キチナーゼの特性解析	2017年8月	第31回日本キチン・キトサン学会大会	脇田悟誌, 木村将大, 榎村明徳, 坂口政吉, 菅原康里, <u>小山文隆</u>
#36	ヒト酸性ほ乳類キチナーゼの活性喪失とその活性化	2017年6月	第6回 医薬工3大学 包括連携推進シンポジウム 特別講演(東京薬科大学)	<u>小山文隆</u>
#37	ニワトリ組織におけるキチナーゼ遺伝子発現レベルとその酵素学的機能の解析	2017年3月	日本農芸化学会 2017 年度大会(京都)	田畑絵理, 榎村昭徳, 大野美紗, 坂口政吉, <u>小山文隆</u>
#38	Functional analysis of acidic mammalian chitinase under physiological conditions.	2016年10月	The 66th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (ASHG) (Vancouver)	Wakita, S., Kimura, M., Kashimura, A., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#40	Gene expression analysis of mammalian chitinase transcripts in pig tissues.	2016年10月	The 66th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (ASHG) (Vancouver)	Tabata, E., Ohno, M., Sakaguchi, M., <u>Oyama, F.</u>
#41	Inactivation of mouse AMCase by introducing amino acid substitutions encoded by single-nucleotide polymorphisms in human AMCase gene.	2016年10月	The 66th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (ASHG) (Vancouver)	<u>Oyama, F.</u> , Okawa, K., Ohno, M., Kashimura, A., Kobayashi, Y. Sakaguchi, M., Sugahara, Y.
#43	ヒトとマウスの酸性哺乳類キチナーゼの機能解析と比較	2016年8月	第30回 日本キチン・キトサン学会大会[川越市]	大川 一明, 大野 美紗, 榎村 昭徳, 坂口 政吉, 菅原 康里, <u>小山 文隆</u>
#44	マウス胃における酸性ほ乳類キチナーゼの発現と生産細胞の同定	2016年8月	第30回 日本キチン・キトサン学会大会[川越市]	<u>小山文隆</u> , 大野美紗, 木村将大, 大川一明, 田畑絵理, 脇田悟誌, 榎村昭徳, 坂口政吉, 菅原康里

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#45	AMCase による酸性～中性条件 キチン分解産物の解析	2016 年 8 月	第 30 回 日本キチン・キトサ ン学会大会[川越市]	脇田悟誌, 木村将大, 榎 村明德, 坂口政吉, 菅原 康里, <u>小山文隆</u>
#46	ブタ組織におけるキチナーゼ遺 伝子発現レベルの解析	2016 年 8 月	第 30 回 日本キチン・キトサ ン学会大会[川越市]	田畑絵理, 大野美紗, 坂 口政吉, <u>小山文隆</u>
#48	マウスキトトリオンダーゼは生理 的条件下でキチン基質を分解す る	2016 年 8 月	第 30 回 日本キチン・キトサ ン学会大会[川越市]	木村将大, 脇田悟誌, 石 川晃太郎, 関根一孝, 吉 川聡, 佐藤章, 榎村昭徳, 坂口政吉, 菅原康里, <u>小 山文隆</u>
#49	キメラ体を利用したヒトとマウス AMCase の機能比較	2016 年 3 月	日本農芸化学会 2016 年 度(平成 28 年度)大会[札 幌]	大川一明, 榎村昭徳, 大 野美紗, 坂口政吉, 菅原 康里, <u>小山文隆</u>
#50	マウスの胃における酸性ほ乳類 キチナーゼの発現と活性	2016 年 3 月	日本農芸化学会 2016 年 度(平成 28 年度)大会[札 幌]	大野美紗, 大貫理穂, 根 本千雪, 大川一明, 榎村 昭徳, 坂口政吉, 菅原康 里, <u>小山文隆</u>
#52	マウスキトトリオンダーゼの大腸 菌のペリプラズムでの発現	2016 年 3 月	日本農芸化学会 2016 年 度(平成 28 年度)大会[札 幌]	木村将大, 脇田悟誌, 石 川晃太郎, 関根一孝, 吉 川聡, 佐藤章, 榎村昭 徳, 坂口政吉, 菅原康里, <u>小山文隆</u>
#54	Characterization of <i>Escherichia</i> <i>coli</i> -produced mouse chitotriosidase	2015 年 11 月	The 14th International Symposium on Advanced Technology(ISAT-14)	Kimura, M., Ishikawa, K., Sekine, K., Yoshikawa, S. Wakita, S., Sato, A. Kashimura, A., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#55	Gene expression analysis of chitinase-like protein, YKL-40, with mammalian chitinases using qPCR in normal human tissues.	2015 年 10 月	The 65th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics	Kimura, M., Ishikawa, K., Sekine, K., Yoshikawa, S. Wakita, S., Sato, A. Kashimura, A., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#56	Expression and characterization of catalytic domain of mouse AMCase in <i>Escherichia coli</i> .	2015 年 10 月	The 65th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics	<u>Oyama, F.</u> , Kashimura, A., Kimura, M., Okawa, K., Suzuki, H., Ukita, A., Wakita, S., Okazaki, K., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y.
#57	Biochemical analysis of chimeric human and mouse AMCase	2015 年 10 月	The 65th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics	Okawa, K., Ohno, M., Kashimura, A., Kobayashi,

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

	proteins expressed in <i>Escherichia coli</i> .			Y., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#58	Enzymatic properties of mouse chitotriosidase expressed in <i>Escherichia coli</i> .	2015 年 10 月	The 65th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics	Kimura, M., Ishikawa, K., Sekine, K., Yoshikawa, S. Wakita, S., Sato, A. Kashimura, A., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#59	哺乳類キチナーゼとキチナーゼ 様タンパク質の遺伝子発現解析	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学 会大会	大野美紗, 貴田雄太, 坂 口政吉, 菅原康里, <u>小山 文隆</u>
#60	大腸菌で発現したマウス酸性哺 乳類キチナーゼの触媒ドメインの 性質	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学 会大会	<u>小山文隆</u> , 榎村昭徳, 木 村将大, 大川一明, 鈴木 博隆, 浮田淳史, 脇田悟 誌, 岡崎香奈, 大野美紗, 坂口政吉, 菅原康里
#62	Fluorophore を用いたキチンオリ ゴ糖蛍光標識法の改良	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学 会大会	脇田悟誌, 木村将大, 榎 村昭徳, 坂口政吉, 菅原 康里, <u>小山文隆</u>
#63	ヒトとマウス酸性哺乳類キチナー ゼのキメラ体の作製とその解析	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学 会大会	大川一明, 榎村昭徳, 大 野美紗, 坂口政吉, 菅原 康里, <u>小山文隆</u>
#64	マウスキトトリオンダセーゼの大 腸菌での発現とその性質	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学 会大会	木村将大, 石川晃太郎, 関根一孝, 吉川 聡, 脇田 悟誌, 佐藤 章, 榎村昭 徳, 坂口政吉, 菅原康里, <u>小山文隆</u>
#66	ヒトとマウス組織における哺乳類 キチナーゼとキチナーゼ様タン パク質の発現レベルの解析	2015 年 6 月	第4回医薬工 3 大学包括連 携推進シンポジウム(工学 院大学新宿校舎)	大野美紗, 貴田雄太, 坂 口政吉, 菅原康里, <u>小山 文隆</u>
#68	マウス酸性哺乳類キチナーゼの 触媒ドメインの大腸菌での発現と その性質	2015 年 3 月	日本農芸化学会 2015 年 度(平成 27 年度)大会(岡 山)	<u>小山 文隆</u> , 榎村 明徳, 木村 将大, 大川 一明, 鈴木 博隆, 浮田 敦史, 脇田 悟誌, 岡崎 香奈, 大野 美紗, 坂口 政吉, 菅原 康里
#69	マウス組織におけるキチナーゼ 様タンパク質の遺伝子発現解析	2015 年 3 月	日本農芸化学会 2015 年 度(平成 27 年度)大会(岡 山)	大野 美紗, 貴田 雄太, 坂口 政吉, 菅原 康里, <u>小山 文隆</u>
#71	Expression of mouse acidic mammalian chitinase in	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering and Education (IFAEE)	Kashimura, A., Okawa, K., Ishikawa, K., Kida, Y., Iwabuchi, K., Matsushima,

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

	periplasmic space of <i>Escherichia coli</i>			Y., Sakaguchi, M. Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#72	Characterization of <i>Escherichia coli</i> -produced human acidic mammalian chitinase	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering and Education (IFAEE)	Okawa, K., Kashimura, A., Kobayashi, Y., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#73	Comparison of mRNA levels among Chit1, AMCcase and reference genes in mouse tissues	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering and Education (IFAEE)	Ohno, M., Tsuda, K., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#74	Expression of mouse chitotriosidase in <i>Escherichia coli</i>	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering and Education (IFAEE)	Kimura, M., Ishikawa, K., Sekine, Yoshikawa, K., Sato, A., Okawa, K., Kashimura, A., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#76	Biochemical Analysis of Mammalian Chitinases	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering and Education (IFAEE)	<u>Oyama, F.</u> , Ohno, M., Kashimura, A., Okawa, K., Ishikawa, K., Sakaguchi, M., Sugahara, Y.
#77	Enzymatic properties of the catalytic domain of mouse acidic mammalian chitinase expressed in <i>Escherichia coli</i> .	2014 年 10 月	The 64th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics	Kashimura, A., Okawa, K., Kimura, M., Okazaki, K., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#78	Expression of human acidic mammalian chitinase in <i>Escherichia coli</i> and analysis of its properties.	2014 年 10 月	The 64th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics	Okawa, K., Kashimura, A., Kobayashi, Y., Ohno, M., Sakaguchi, M., Sugahara, Y., <u>Oyama, F.</u>
#79	Cross-species gene expression analysis of chitinase-like proteins with mammalian chitinases using qPCR in mouse and human tissues.	2014 年 10 月	The 64th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics	<u>Oyama, F.</u> , Ohno, M., Kida, Y., Sakaguchi, M., Sugahara, Y.
#80	マウス組織でのキチナーゼとキチナーゼ様タンパク質の発現レベルの解析	2014 年 8 月	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム	大野美紗, 貴田雄太, 坂口政吉, 菅原康里, <u>小山文隆</u>
#81	Acidic Mammalian Chitinase の触媒ドメインの大腸菌での発現	2014 年 8 月	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム	檜村昭徳, 大川一明, 岡崎香奈, 木村将大, 坂口政吉, 菅原康里, <u>小山文隆</u>
#82	酸性哺乳類キチナーゼの pH 依存的キチン分解産物の検討	2014 年 8 月	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム	脇田悟誌, 金山直人, 檜村昭徳, 大川一明, 坂口

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#83	哺乳類キチナーゼの遺伝子発現解析と大腸菌での発現	2014年8月	第28回キチン・キトサンシンポジウム	政吉, 菅原康里, <u>小山文隆</u> <u>小山文隆</u> , 大野美紗, 樫村昭徳, 大川一明, 石川晃太郎, 坂口政吉, 菅原康里
2-4				
1	マウスキチナーゼの相互作用に関する研究	2019年3月	日本農芸化学会 2019年度 (H31年度)大会[東京]	木村将大, 梅山隆敏, 脇田悟誌, 大川一明, <u>坂口政吉</u> , 小山文隆
#2	リステリアキチナーゼの機能未知領域の機能	2019年3月	日本農芸化学会 2019年度 (H31年度)大会[東京]	<u>坂口政吉</u> , 本田翔太郎, 木村将大, 脇田悟誌, 岡侑司, 川喜田正夫
3	Evaluations of enzymatic properties for human and mouse chitotriosidase	2018年11月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018, 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Watanabe, T., Kimura, M., Wakita, S., Sekine, K., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
4	Quantification of chitinases mRNA levels by qPCR in crab-eating monkey tissues: Comparison with mouse and human.	2018年11月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018, 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Uehara, M., Tabata, E., Ohno, M., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
5	Gene expression analysis of mammalian chitinases in common marmoset (<i>Callithrix jacchus</i>) tissue	2018年11月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018, 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Tabata, E., Kashimura, A., Uehara, M., Wakita, S., <u>Sakaguchi M.</u> , Sugahara, Y., Yurimoto, T., Sasaki, E., Oyama, F.
6	Chitinase 3-like-1 with amino acid substitutions at the active site remains inactive.	2018年11月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018, 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Kishigami, N., Okawa, K., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
7	Comparison of chitinolytic properties of mouse Chit1 and AMCase with <i>Serratia marcescens</i> chitinase B	2018年11月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018, 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Kimura, M., Umeyama, T., Wakita, S., Okawa, K., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
8	Feeding behaviors determine acidic chitinase mRNA levels in mammalian and poultry stomachs	2018年11月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 2018 68th Annual Meeting of ASHG (San Diego)	Oyama, F., Kashimura, A., Kikuchi, A., Masuda, H., Miyahara, R., Hiruma, Y., Wakita, S., Ohno, M., <u>Sakaguchi M.</u> , Sugahara, Y., Tabata, T.

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

9	Acidic chitinase mRNA levels and their chitinolytic activity are affected by the feeding behavior, which may determine chitin digestibility in animals	2018 年 8 月	第 14 回キチン・キトサン国際学会	Tabata, E., Kashimura, A., Wakita, S., Ohno, M., <u>Sakaguchi M.</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
10	Functional differences between human and mouse chitotriosidase	2018 年 8 月	第 14 回キチン・キトサン国際学会	Watanabe, T., Kimura, M., Sekine, K., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
11	Amino acid substitutions at the active site of Chitinase 3-like-1	2018 年 8 月	第 14 回キチン・キトサン国際学会	Kishigami, N., Okawa, K., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
12	Gene expression analysis of chitinases in crab-eating monkey: species-specific expression of acidic mammalian chitinase and chitotriosidase	2018 年 8 月	第 14 回キチン・キトサン国際学会	Uehara, M., Tabata, E., Ohno, M., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
13	Comparison of chitinolytic activities among mouse mammalian chitinases and <i>Serratia marcescens</i> chitinase B	2018 年 8 月	第 14 回キチン・キトサン国際学会	Kimura, M., Umeyama, T., Wakita, S., Okawa, K., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
14	Acidic mammalian chitinase is a major chitinase in stomach resistant to pepsin and trypsin/chymotrypsin digestion	2018 年 8 月	第 14 回キチン・キトサン国際学会	Oyama, F., Kimura, M., Okawa, K., Onuki, R., Nemoto, C., Tabata, E., Wakita, S., Kashimura, A., <u>Sakaguchi M.</u> , Sugahara, Y., Ohno, M.
15	ニワトリ酸性キチナーゼの消化酵素としての機能解析	2018 年 3 月	日本農芸化学会 2018 年度大会[名古屋]	田畑絵理, 櫻村昭徳, 脇田悟誌, 大野美紗, <u>坂口政吉</u> , 菅原康里, 小山文隆
16	ヒト酸性ほ乳類キチナーゼの nonsynonymous SNPs による活性の調節	2018 年 3 月	日本農芸化学会 2018 年度大会[名古屋]	小山文隆, 大野美紗, 櫻村昭徳, 木村将大, <u>坂口政吉</u> , 菅原康里, 大川一明
17	2 種類のマウスほ乳類キチナーゼのキチナーゼ活性比較	2018 年 3 月	日本農芸化学会 2018 年度大会[名古屋]	木村将大, 梅山隆敏, 脇田悟誌, 大川一明, <u>坂口政吉</u> , 小山文隆
#18	古細菌トレハラーゼの N 末端領域の機能	2018 年 3 月	日本農芸化学会 2018 年度大会[名古屋]	<u>坂口政吉</u> , 久米杏奈, 湯浅充洋, 本田翔太郎, 小山文隆, 川喜田正夫
19	Gene expression analysis of chitinases by qPCR in crab-eating monkey tissues	2017 年 11 月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Uehara, M., Tabata, E., Ohno, M., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

20	Enzymatic properties of acidic mammalian chitinase under somatic tissue pH conditions	2017 年 11 月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Wakita, S., Kimura, M., Kashimura, A., <u>Sakaguchi M.</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
21	Characterization of <i>Escherichia coli</i> -produced mouse chitotriosidase and human chitotriosidase	2017 年 11 月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Watanabe, T., Kimura, M., Sekine, K., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
22	Comparative analysis of mouse mammalian chitinases and <i>Serratia marcescens</i> chitinase B	2017 年 11 月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Kimura, M., Umeyama, T., Wakita, S., Okawa, K., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
23	Chicken acidic chitinase can function as digestive enzyme which degrades chitin-containing organisms under its gastrointestinal tract	2017 年 11 月	The 16th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-16)	Tabata, E., Kashimura, A., Wakita, S., Ohno, M., <u>Sakaguchi M.</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
24	Gene expression analysis and enzyme function of pig mammalian chitinase	2017 年 10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 67th Annual Meeting (Orlando)	Tabata, E., Kashimura, A., Wakita, S., Ohno, M., <u>Sakaguchi M.</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
25	Mechanistic insight of inactivation of mouse chitinase-like protein Ym1	2017 年 10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 67th Annual Meeting (Orlando)	Oyama, F., <u>Sakaguchi M.</u> , Sugahara, Y., Okawa, K.
26	Comparison of chitinolytic activities among mammalian chitinases and bacterial chitinase	2017 年 10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 67th Annual Meeting (Orlando)	Kimura, M., Umeyama, T., Wakita, S., Okawa, K., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
27	Chitinases mRNA levels quantified by qPCR in crab-eating monkey tissues.	2017 年 10 月	The American Society of Human Genetics (ASHG) 67th Annual Meeting (Orlando)	Uehara, M., Tabata, E., Ohno, M., <u>Sakaguchi M.</u> , Oyama, F.
#28	新規古細菌トレハラーゼの大腸菌組換えタンパク質の発現及び性質解析	2017 年 9 月	日本応用糖質科学会 平成 29 年度大会(第 66 回)	湯浅充洋, 岡村武司, 本田翔太郎, 川喜田正夫, 小山文隆, <u>坂口政吉</u>
#29	古細菌トレハラーゼの N 末端領域の役割	2017 年 9 月	日本応用糖質科学会 平成 29 年度大会(第 66 回)	<u>坂口政吉</u> , 久米杏奈, 湯浅充洋, 本田翔太郎, 小山文隆, 川喜田正夫
30	ヒト酸性ほ乳類キチナーゼの進化的解析	2017 年 8 月	第 31 回日本キチン・キトサン学会大会	小山文隆, 大野美紗, 樫村昭徳, 木村将大, <u>坂口政吉</u> , 菅原康里, 大川一明

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

31	マウスほ乳類キチナーゼの比較解析	2017年8月	第31回日本キチン・キトサン学会大会	○木村将大, 梅山隆敏, 脇田悟誌, 大川一明, <u>坂口政吉</u> , 小山文隆
32	ニワトリ酸性キチナーゼの遺伝子発現解析とその酵素機能	2017年8月	第31回日本キチン・キトサン学会大会	田畑絵理, 榎村昭徳, 脇田悟志, 大野美紗, 菅原康里, <u>坂口政吉</u> , 小山文隆
33	カニクイザルにおけるキチナーゼ遺伝子の発現解析	2017年8月	第31回日本キチン・キトサン学会大会	上原麻衣子, 田畑絵里, 大野美紗, <u>坂口政吉</u> , 小山文隆
34	キチンオリゴ糖蛍光標識法を用いた酸性ほ乳類キチナーゼの特性解析	2017年8月	第31回日本キチン・キトサン学会大会	脇田悟誌, 木村将大, 榎村明徳, <u>坂口政吉</u> , 菅原康里, 小山文隆
35	ニワトリ組織におけるキチナーゼ遺伝子発現レベルとその酵素学的機能の解析	2017年3月	日本農芸化学会 2017年度大会(京都)	田畑絵理, 榎村昭徳, 大野美紗, <u>坂口政吉</u> , 小山文隆
36	Loss and recovery of chitinolytic activity by amino acid substitutions in human acidic mammalian chitinase	2016年10月	the American Society of Human Genetics (ASHG) 66th Annual Meeting (Vancouver)	Okawa, K., Ohno, M., Kashimura, A., Kobayashi, Y., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
37	Functional analysis of acidic mammalian chitinase under physiological conditions	2016年10月	the American Society of Human Genetics (ASHG) 66th Annual Meeting (Vancouver)	Wakita, S., Kimura, M., Kashimura, A., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
38	Gene expression analysis of mammalian chitinase transcripts in pig tissues	2016年10月	the American Society of Human Genetics (ASHG) 66th Annual Meeting (Vancouver)	Tabata, E., Ohno, M., <u>Sakaguchi M</u> , Oyama, F.
39	Protein A-mouse Chit1-V5-His expressed in <i>Escherichia coli</i> possesses chitinase functions comparable to CHO-expressed protein	2016年10月	the American Society of Human Genetics (ASHG) 66th Annual Meeting (Vancouver)	Kimura, M., Wakita, S., Ishikawa, K. Sekine, K. Yoshikawa, S., Sato, A. Okawa, K., Kashimura, A., Yamanaka, D., Ohno, N., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
#40	Analysis of chitinases from nonpathogenic bacterium <i>Listeria innocua</i>	2016年10月	the American Society of Human Genetics (ASHG) 66th Annual Meeting (Vancouver)	Honda, S., Wakita, S., Sugahara, Y., Oyama, F., <u>Sakaguchi M</u> .
41	Inactivation of mouse AMCcase by introducing amino acid substitutions encoded by single-	2016年10月	the American Society of Human Genetics (ASHG) 66th Annual Meeting (Vancouver)	Oyama, F., Okawa, K., Ohno, M., Kashimura, A. Kobayashi, Y. <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y.

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

	nucleotide polymorphisms in human AMCase gene			
42	ヒトとマウスの酸性哺乳類キチナーゼの機能解析と比較	2016年8月	第30回 キチン・キトサン学会大会	大川 一明, 大野 美紗, 檜村 昭徳, 坂口政吉, 菅原 康里, 小山 文隆
43	マウス胃における酸性ほ乳類キチナーゼの発現と生産細胞の同定	2016年8月	第30回 キチン・キトサン学会大会	小山文隆, 大野美紗, 木村将大, 大川一明, 田畑絵理, 脇田悟誌, 檜村昭徳, 坂口政吉, 菅原康里
44	AMCase による酸性～中性条件キチン分解産物の解析	2016年8月	第30回 キチン・キトサン学会大会	脇田悟誌, 木村将大, 檜村明徳, 坂口政吉, 菅原康里, 小山文隆
45	ブタ組織におけるキチナーゼ遺伝子発現レベルの解析	2016年8月	第30回 キチン・キトサン学会大会	田畑絵理, 大野美紗, 坂口政吉, 小山文隆
#46	C末端欠損 <I>Listeria innocua</I>キチナーゼの性質	2016年8月	第30回 キチン・キトサン学会大会	本田翔太郎, 菅原康里, 小山文隆, 坂口政吉
47	マウスキトリオンダーゼは生理的条件下でキチン基質を分解する	2016年8月	第30回 キチン・キトサン学会大会	○木村将大, 脇田悟誌, 石川晃太郎, 関根一孝, 吉川聡, 佐藤章, 檜村昭徳, 坂口政吉, 菅原康里, 小山文隆
48	キメラ体を利用したヒトとマウスAMCaseの機能比較	2016年3月	日本農芸化学会 2016年度(平成28年度)大会[札幌]	大川一明, 檜村昭徳, 大野美紗, 坂口政吉, 菅原康里, 小山文隆
49	マウスの胃における酸性ほ乳類キチナーゼの発現と活性	2016年3月	日本農芸化学会 2016年度(平成28年度)大会[札幌]	大野美紗, 大貫理穂, 根本千雪, 大川一明, 檜村昭徳, 坂口政吉, 菅原康里, 小山文隆
#50	細菌グルコアミラーゼのN末端配列の役割	2016年3月	日本農芸化学会 2016年度(平成28年度)大会[札幌]	坂口政吉, 松嶋裕大, 永峯雄介, 松橋智希, 本田翔太郎, 菅原康里, 小山文隆, 川喜田正夫
51	マウスキトリオンダーゼの大腸菌のペリプラズムでの発現	2016年3月	日本農芸化学会 2016年度(平成28年度)大会[札幌]	木村将大, 脇田悟誌, 石川晃太郎, 関根一孝, 吉川聡, 佐藤章, 檜村昭徳, 坂口政吉, 菅原康里, 小山文隆
52	Characterization of <I>Escherichia coli</I>-produced mouse chitotriosidase	2015年11月	The 14th International Symposium on Advanced Technology(ISAT-14)	Kimura, M., Wakita, S., Ishikawa, K., Sekine, K., Yoshikawa, S., Okawa, K., Kashimura, A., <u>Sakaguchi</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

				<u>M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
#53	Comparison of degradation products from various substrates by <i>Listeria</i> chitinases	2015 年 11 月	The 14th International Symposium on Advanced Technology(ISAT-14)	Honda, S., Sugahara, Y., Oyama, F., <u>Sakaguchi M</u>
54	Gene expression analysis of chitinase-like protein, YKL-40, with mammalian chitinases using qPCR in normal human tissues.	2015 年 10 月	American Society of Human Genetics 65th Annual Meeting (Baltimore)	Ohno, M., Kida, Y., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
55	Expression and characterization of catalytic domain of mouse AMCase in <i>Escherichia coli</i> .	2015 年 10 月	American Society of Human Genetics 65th Annual Meeting (Baltimore)	Oyama, F., Kashimura, A., Kimura, M., Okawa, K., Suzuki, H., Ukita, A., Wakita, S., Okazaki, K., Ohno, M., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y.
56	Biochemical analysis of chimeric human and mouse AMCase proteins expressed in <i>Escherichia coli</i> .	2015 年 10 月	American Society of Human Genetics 65th Annual Meeting (Baltimore)	Okawa, K., Ohno, M., kashimura, A., Kobayashi, Y., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Fumitaka, F.
57	Enzymatic properties of mouse chitotriosidase expressed in <i>Escherichia coli</i> .	2015 年 10 月	American Society of Human Genetics 65th Annual Meeting (Baltimore)	Kimura, M., Ishikawa, K., Sekine, K., Yoshikawa, S., Wakita, S. Sato, A., Kashimura, A., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
#58	<i>Listeria</i> 属キチナーゼの分解産物比較	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学会大会	本田翔太郎、菅原康里、小山文隆、 <u>坂口政吉</u>
59	マウスキトトリオンダーゼの大腸菌での発現とその性質	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学会大会	木村将大、石川晃太郎、関根一孝、吉川聡、脇田悟誌、佐藤章、 <u>櫻村昭徳</u> 、 <u>坂口政吉</u> 、菅原康里、小山文隆
60	ヒトとマウス酸性哺乳類キチナーゼのキメラ体の作製とその解析	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学会大会	大川一明、 <u>櫻村昭徳</u> 、大野美紗、 <u>坂口政吉</u> 、菅原康里、小山文隆
61	Fluorophore を用いたキチンオリゴ糖蛍光標識法の改良	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学会大会	脇田悟誌、木村将大、 <u>櫻村昭徳</u> 、 <u>坂口政吉</u> 、菅原康里、小山文隆
62	二成分モノマーを用いたキトサングラフト体(CS-g-PAM-PAA)の凝集特性	2015 年 8 月	第 29 回 キチン・キトサン学会大会	水谷大介、 <u>坂口政吉</u> 、小山文隆、菅原康里

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

63	大腸菌で発現したマウス酸性哺乳類キチナーゼの触媒ドメインの性質	2015年8月	第29回 キチン・キトサン学会大会	小山文隆、樫村昭徳、木村将大、大川一明、鈴木博隆、浮田敦史、脇田悟誌、岡崎香奈、大野美紗、坂口政吉、菅原康里
64	哺乳類キチナーゼとキチナーゼ様タンパク質の遺伝子発現解析	2015年8月	第29回 キチン・キトサン学会大会	大野美紗、貴田雄太、坂口政吉、菅原康里、小山文隆
#65	<I>Listeria</I>由来キチナーゼの機能解析	2015年3月	日本農芸化学会 2015年度(平成27年度)大会 [岡山]	本田 翔太郎, 菅原 康里, 小山 文隆, <u>坂口政吉</u>
66	マウス酸性哺乳類キチナーゼの触媒ドメインの大腸菌での発現とその性質	2015年3月	日本農芸化学会 2015年度(平成27年度)大会 [岡山]	小山 文隆, 樫村 明徳, 木村 将大, 大川 一明, 鈴木 博隆, 浮田 敦史, 脇田 悟誌, 岡崎 香奈, 大野 美紗, <u>坂口政吉</u> , 菅原 康里
67	マウス組織におけるキチナーゼ様タンパク質の遺伝子発現解析	2015年3月	日本農芸化学会 2015年度(平成27年度)大会 [岡山]	大野 美紗, 貴田 雄太, <u>坂口政吉</u> , 菅原 康里, 小山 文隆
#68	古細菌トレハラーゼの発現と諸性質の解析	2015年3月	日本農芸化学会 2015年度(平成27年度)大会 [岡山]	<u>坂口政吉</u> , 下平 賢, 石田 慎之介, 雨宮 美虹, 本田 翔太郎, 菅原 康里, 小山 文隆, 川喜田 正夫
69	Expression of mouse acidic mammalian chitinase in periplasmic space of <I>Escherichia coli</I>	2014年11月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education (IFAE)/The 21st International SPACC symposium (SPACC)	Kashimura, A., Okawa, K., Ishikawa, K., Kida, Y., Iwabuchi, K., Matsushima, Y., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
70	Characterization of <I>Escherichia coli</I>-produced human acidic mammalian chitinase	2014年11月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education (IFAE)/The 21st International SPACC symposium (SPACC)	Okawa, K., Kashimura, A., Kobayashi, Y., Ohno, M., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
71	Comparison of mRNA levels among Chit1, AMCcase and reference genes in mouse tissues	2014年11月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education (IFAE)/The 21st International SPACC symposium (SPACC)	Ohno, M., Tsuda, K., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

72	Expression of mouse chitotoriosidase in <I>Escherichia coli</I>	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education (IFAEE)/The 21st International SPACC symposium (SPACC)	Kimura, M., Ishikawa, K., Sekine, K., Yoshikawa, S., Sato, A., Okawa, K., Kashimura, A., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
#73	Expression of <I>Listeria innocua</I> chitinases in <I>Escherichia coli</I> and comparison of their properties	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education (IFAEE)/The 21st International SPACC symposium (SPACC)	Honda, S., Sugahara, Y., Oyama, F., <u>Sakaguchi M</u>
74	Biochemical analysis of mammalian chitinases	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education (IFAEE)/The 21st International SPACC symposium (SPACC)	Oyama, F., Ohno, M., Kashimura, A., Okawa, K., Ishikawa, K., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y.
75	Enzymatic properties of the catalytic domain of mouse acidic mammalian chitinase expressed in <I>Escherichia coli</I>.	2014 年 10 月	64th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (San Diego)	Kashimura, A., Okawa, K., Kimura, M., Okazaki, K., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
76	Expression of human acidic mammalian chitinase in <I>Escherichia coli</I> and analysis of its properties.	2014 年 10 月	64th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (San Diego)	Okawa, K., Kashimura, A., Kobayashi, Y., Ohno, M., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
77	Cross-species gene expression analysis of chitinase-like proteins with mammalian chitinases using qPCR in mouse and human tissues.	2014 年 10 月	64th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (San Diego)	Oyama, F., Ohno, M., Kida, Y., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y.
78	Analysis of the expression levels of chitinase-like proteins, Ym1, Ym2 and breast regression protein-39, in mouse tissues.	2014 年 10 月	64th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (San Diego)	Ohno, M., Kida, Y., <u>Sakaguchi M</u> , Sugahara, Y., Oyama, F.
#79	細菌グルコアミラーゼのドメインの役割	2014 年 9 月	日本応用糖質科学会平成 26 年度大会(第 63 回)	坂口政吉, 松嶋裕大, 本田翔太郎, 菅原康里, 小山文隆, 川喜田正夫
80	キトサンへの二成分モノマーのグラフト重合	2014 年 8 月	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム	水谷大介, <u>坂口政吉</u> , 小山文隆, 菅原康里
81	マウス組織でのキチナーゼとキチナーゼ様タンパク質の発現レベルの解析	2014 年 8 月	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム	大野美紗, 貴田雄太, <u>坂口政吉</u> , 菅原康里, 小山文隆
82	Acidic Mammalian Chitinase の触媒ドメインの大腸菌での発現	2014 年 8 月	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム	檜村昭徳, 大川一明, 岡崎香奈, 木村将大, <u>坂口</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

				政吉, 菅原康里, 小山文隆
83	酸性哺乳類キチナーゼの pH 依存的キチン分解産物の検討	2014 年 8 月	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム	脇田悟誌, 金山直人, 樫村昭徳, 大川一明, <u>坂口政吉</u> , 菅原康里, 小山文隆
84	哺乳類キチナーゼの遺伝子発現解析と大腸菌での発現	2014 年 8 月	第 28 回キチン・キトサンシンポジウム	小山文隆, 大野美紗, 樫村昭徳, 大川一明, 石川晃太郎, <u>坂口政吉</u> , 菅原康里
85	<i>Listeria</i> 属由来キチナーゼの発現と性質の解析	2014 年 3 月	日本農芸化学会 2014 年度(平成 26 年度)大会	本田 翔太郎, 菅原 康里, 小山 文隆, <u>坂口政吉</u>
86	大腸菌ペリプラズム空間に発現したマウス酸性哺乳類キチナーゼの性質	2014 年 3 月	日本農芸化学会 2014 年度(平成 26 年度)大会	大川 一明, 樫村 明徳, 石川 晃太郎, 貴田 雄太, 岩渕 志, 松嶋 裕大, <u>坂口政吉</u> , 菅原 康里, 小山 文隆
87	マウスとヒト組織における哺乳類キチナーゼ mRNA レベルの解析	2014 年 3 月	日本農芸化学会 2014 年度(平成 26 年度)大会	大野 美紗, 富樫 勇斗, 津田 京子, 大川 一明, 釜谷 美則, <u>坂口政吉</u> , 菅原 康里, 小山 文隆
#88	<i>Caulobacter</i> グルコアミラーゼの発現と諸性質の解析	2014 年 3 月	日本農芸化学会 2014 年度(平成 26 年度)大会	<u>坂口政吉</u> , 松嶋 裕大, 南雲 利之, 清野 淳一, 宮川 聡, 本田 翔太郎, 菅原 康里, 小山 文隆, 川喜田 正夫
2-5				
#1	LSD1 阻害剤の合成研究	2019 年 3 月	日本薬学会第 139 年会	深澤隼介, 田房峻, 山崎麻衣, 橋本知子, 丹羽英明, 佐藤心, 梅原崇史, <u>大野修</u> , 松野研司
2	種差の解消を指向した GPR35 アゴニストの合成研究	2019 年 3 月	日本薬学会第 139 年会	永沼美弥子, 渡邊智博, 橋本知子, 小出拓人, 手塚一燈, 橋本直季, 赤木 荘太, 吉田和幸, 山本雄大, 長島颯太, 常盤広明, 田中智之, <u>大野修</u> , 松野研司
#3	海洋生物由来小胞体ストレス誘導性アポトーシス阻害剤の探索	2019 年 3 月	日本化学会第 99 春季年会	佐藤慶吾, 本間椋, 松野研司, <u>大野修</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#4	海洋生物からの栄養飢餓選択的な細胞死誘導物質の探索	2019年3月	日本化学会第99春季年会	長屋裕貴、向畑壺成、松野研司、 <u>大野修</u>
5	種差の解消を指向したGPR35アゴニストの合成研究	2018年11月	第36回メデイシナルケミストリーシンポジウム	小出拓人、渡邊智博、橋本知子、橋本直季、永沼美弥子、手塚一燈、赤木莊太、吉田和幸、山本雄大、長島颯太、常盤広明、田中智之、 <u>大野修</u> 、松野研司
#6	Indileamine 2,3-dioxygenase 阻害剤の合成および結合様式の解明	2018年11月	第36回メデイシナルケミストリーシンポジウム	手嶋真武、熊澤美幸、武田翔太、鈴木健二、水本友紀子、橋本知子、浅井章良、滝川修、 <u>大野修</u> 、松野研司
7	ポリADPリボース集積活性を有する抗がん剤候補MO2455の同定と構造活性相関	2018年11月	第36回メデイシナルケミストリーシンポジウム	松野研司、橋本知子、小林寛幸、 <u>大野修</u> 、イスラムラフィクル、大川原正、高村岳樹、佐々木由香、小野寺貴恵、藤森浩彰、小泉史朗、下山達、澤田武志、秋元茉莉、石川吉伸、入江徹美、井上謙吾、益谷美都子
#8	Isolation and Functional Analysis of Novel Compounds with Selective Cytotoxicity under Glucose-restricted Conditions	2018年10月	ICPAC Langkawi 2018	<u>Osamu Ohno</u> , Yuki Nagaya, Ami Ito, Arihiro Iwasaki, Kiyotake Suenaga, Kenji Matsuno
#9	海洋生物由来細胞応答制御物質の探索と機能解析	2018年10月	第五回天然物化学研究会シンポジウム	<u>大野修</u>
#10	がん免疫寛容解除を指向したindoleamine 2,3-dioxygenase 阻害剤の合成	2018年10月	第7回医薬工三大学包括連携推進シンポジウム	手嶋真武、熊澤美幸、武田翔太、鈴木健司、水本友紀子、橋本知子、 <u>大野修</u> 、松野研司
11	Computational analysis of potential compounds bound to GPR35 by using fragmentmolecular orbital calculations	2018年10月	CBI学会2018年大会	Yuta Yamamoto, Sota Nagashima, Sundaram Arulmozhiraja, Takuto Koide, Miyako Naganuma, Tomohiro Watanabe, Kazuyuki Furuta, Tomoko Hashimoto, <u>Osamu Ohno</u> , Satoshi Tanaka, Kenji Matsuno, Hiroaki Tokiwa

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#12	海洋生物由来の小胞体ストレス誘導性細胞死阻害剤の探索	2018年10月	第62回日本薬学会関東支部大会	佐藤慶吾、本間椋、松野研司、 <u>大野修</u>
#13	Indoleamine 2,3-dioxygenase 阻害剤の合成および結合様式の解明	2018年10月	第62回日本薬学会関東支部大会	手嶋真武、熊澤美幸、武田翔太、鈴木健司、水本友紀子、橋本知子、浅井章良、滝川修、 <u>大野修</u> 、松野研司
#14	海洋生物由来 LPS 誘導性 NO 産生阻害物質の探索	2018年10月	第62回日本薬学会関東支部大会	佐野拓哉、寺崎拓郎、岩崎有紘、末永聖武、松野研司、 <u>大野修</u>
15	種差の解消を指向した GPR35 アゴニストの合成研究	2018年10月	第62回日本薬学会関東支部大会	小出拓人、渡邊智博、赤木壮太、橋本知子、 <u>大野修</u> 、吉田和幸、田中智之、松野研司
#16	海洋生物由来新規キヌレニン産生抑制物質の探索	2018年7月	第65回トキシシンポジウム	<u>大野修</u> 、佐々木智未、浅井章良、滝川修、松野研司
#17	海洋生物由来小胞体ストレス誘導性細胞死阻害剤の探索	2018年6月	新規素材探索研究会第17回セミナー	佐藤慶吾、本間椋、松野研司、 <u>大野修</u>
#18	海洋生物由来リポポリサッカライド(LPS)機能調節物質の探索	2018年6月	新規素材探索研究会第17回セミナー	人見悠毅、寺崎拓郎、岩崎有紘、末永聖武、松野研司、 <u>大野修</u>
19	種差の解消を指向した GPR35 アゴニストの合成研究	2018年3月	日本薬学会第138年会	渡邊智博、古田和幸、橋本知子、 <u>大野修</u> 、田中智之、松野研司
#20	海洋シアノバクテリア由来キヌレニン産生阻害剤 KNP-1 の同定および作用機序の解明	2018年3月	日本薬学会第138年会	佐々木智未、 <u>大野修</u> 、浅井章良、滝川修、松野研司
#21	海洋生物由来のリポポリサッカライド(LPS)の機能を阻害する化合物の探索	2018年3月	日本化学会第98春季年会	寺崎拓郎、岩崎有紘、末永聖武、松野研司、 <u>大野修</u>
#22	海洋生物由来小胞体ストレス誘導性細胞死阻害剤の探索	2018年3月	日本化学会第98春季年会	佐藤慶吾、本間椋、松野研司、 <u>大野修</u>
#23	海洋生物からの栄養飢餓選択的な細胞死誘導物質の探索	2018年3月	日本化学会第98春季年会	長屋裕貴、伊藤明美、向畑壺成、松野研司、 <u>大野修</u>
#24	Identification of kynurenine-production inhibitor from a marine cyanobacterium.	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology	Sasaki, T.; <u>Ohno, O.</u> ; Asai, A.; Takikawa, O.; Matsuno, K.
25	Synthetic studies on GPR35 agonist without specific difference.	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology	Watanabe, T.; Hashimoto, T.; <u>Ohno, O.</u> ; Furuta, K.; Tanaka, S.; Matsuno, K.

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

26	クロモン環を有する GPR35 アゴニストの合成研究	2017 年 10 月	第 47 回複素環化学討論会	渡邊智博、橋本知子、 <u>大野修</u> 、古田和幸、田中智之、松野研司
#27	海洋シアノバクテリア由来キヌレニン産生阻害剤 KNP-1 の同定	2017 年 10 月	第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム	佐々木智未、 <u>大野修</u> 、浅井章良、滝川修、松野研司
28	種差のない GPR35 アゴニストの合成研究	2017 年 10 月	第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム	渡邊智博、古田和幸、橋本知子、 <u>大野修</u> 、田中智之、松野研司
#29	Benzimidazole Analogues as Kynurenine Production Inhibitor by hopping from Indoleamine 2,3-Dioxygenase Inhibitor.	2017 年 8 月	EFMC-ASMC'17 9th EFM	Fukuda, M.; Sasaki, T.; Suzuki, K.; Miyachi, H.; Waki, M.; Asai, A.; Hashimoto, T.; <u>Ohno, O.</u> ; Takikawa, O.; Matsuno, K.
30	種差のない GPR35 アゴニストの合成研究	2017 年 9 月	第 61 回日本薬学会関東支部大会	渡邊智博、橋本知子、 <u>大野修</u> 、古田和幸、田中智幸、松野研司
#31	海洋生物からの栄養飢餓選択的な細胞死誘導物質の探索	2017 年 9 月	第 61 回日本薬学会関東支部大会	長屋裕貴、伊藤明美、向畑壺成、岩崎有紘、末永聖武、松野研司、 <u>大野修</u>
#32	海洋生物からのキヌレニン産生抑制剤の探索	2017 年 9 月	第 61 回日本薬学会関東支部大会	佐々木智未、 <u>大野修</u> 、浅井章良、滝川修、松野研司
#33	リポポリサッカライド (LPS) による NO 産生を阻害する物質の探索	2017 年 9 月	第 61 回日本薬学会関東支部大会	寺崎拓郎、松野研司、 <u>大野修</u>
#34	IDO 阻害剤の合成研究	2017 年 9 月	第 61 回日本薬学会関東支部大会	熊澤美幸、鈴木健司、水本友紀子、橋本知子、浅井章良、滝川修、 <u>大野修</u> 、松野研司
#35	小胞体ストレス誘導性細胞死を阻害する天然物の探索	2017 年 9 月	第 61 回日本薬学会関東支部大会	佐藤慶吾、本間椋、松野研司、 <u>大野修</u>
#36	海洋シアノバクテリア由来栄養飢餓選択的な細胞死誘導物質の単離と機能解析	2017 年 7 月	第 64 回トキシシンポジウム	<u>大野修</u> 、長屋裕貴、伊藤明美、岩崎有紘、末永聖武、松野研司
#37	海洋生物由来キヌレニン産生抑制物質の探索	2017 年 6 月	新規素材探索研究会第 16 回セミナー	佐々木智未、 <u>大野修</u> 、浅井章良、滝川修、松野研司
#38	海洋生物由来栄養飢餓選択的な細胞死誘導物質の探索	2017 年 6 月	新規素材探索研究会第 16 回セミナー	長屋裕貴、伊藤明美、向畑壺成、岩崎有紘、末永聖武、松野研司、 <u>大野修</u>
#39	海洋生物由来キヌレニン産生抑制物質の探索	2017 年 3 月	日本化学会第 97 春季年会	佐々木智未、 <u>大野修</u> 、松野研司、浅井章良、滝川修

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#40	海洋生物由来のリポポリサッカライド(LPS)の機能を阻害する化合物の探索	2017年3月	日本化学会第97春季年会	寺崎拓郎、松野研司、 <u>大野修</u>
#41	kalkipyronneによる栄養飢餓選択的な細胞死誘導機構の解明	2017年3月	日本化学会第97春季年会	長屋裕貴、伊藤明美、岩崎有鋳、末永聖武、松野研司、 <u>大野修</u>
#42	天然由来細胞応答制御物質の探索研究	2016年6月	上村大輔神奈川大学教授を囲む講演会	<u>大野修</u>
#43	海洋生物由来ポリケチド化合物による栄養飢餓選択的な細胞死誘導機構の解析	2016年3月	日本化学会第96春季年会	<u>大野修</u> 、伊藤明美、岩崎有紘、末永聖武、松野研司
#44	Isolation of tomuruline, a novel thiazole containing polyketide with selective cytotoxicity under glucose-restricted conditions	2015年12月	Pacificchem 2015 conference, Hawaii, USA	<u>Osamu Ohno</u> , Kyouhei Same, Chihiro Kudo, Shinpei Sumimoto, Toshiaki Teruya, Etsu Tashiro, Siro Simizu, Masaya Imoto, Kiyotake Suenaga
#45	Isolation and Functional Analysis of Novel Compounds with Selective Cytotoxicity under Glucose-restricted Conditions	2015年11月	The 14th International Symposium on Advanced Technology, Hachioji	<u>Osamu Ohno</u> , Ami Ito, Shuntaro Obata, Arihiro Iwasaki, Kiyotake Suenaga, Kenji Matsuno,
#46	海洋シアノバクテリア由来新規細胞応答制御物質の単離と機能解析	2015年8月	微生物化学研究所講演会	<u>大野修</u>
#47	新規チアゾール含有ポリケチド tomuruline による栄養飢餓選択的な細胞死誘導機構の解析	2015年6月	第19回日本がん分子標的治療学会学術集会	<u>大野修</u> 、田代悦、清水史郎、井本正哉、末永聖武
#48	海洋生物からの新物質探索研究—構造解明と機能解明の2種類の謎解きへの取り組み—	2015年4月	第一回 工学院大学生命化学科シンポジウム	<u>大野修</u>
1-2&3-1				
1	Plasmin による血漿および血栓中の von Willebrand factor multimers の切断:止血及び線溶への影響	2018年6月	第40回日本血栓止血学会学術集会	富樫兼史、辛 英哲、鈴木賢、 <u>今村保忠</u>
2	ELISA を用いた尿中 3-Hydroxyproline 含有ペプチド測定法の開発と大腸癌マーカーとしての有用性の検討 ELISA を用いた尿中 3-Hydroxyproline 含有	2018年6月	第50回日本結合組織学会学術大会	鈴木達也、佐藤来未、加藤茂谷智実、森谷俊介、平松恭子、川喜田正夫、高橋慶一、川村眞智子、辛英哲、 <u>今村保忠</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

ペプチド測定法の開発と大腸癌
マーカーとしての有用性の検討

#3	血管内皮細胞と線維芽細胞による共培養系スフェロイドを用いた血管新生系モデルにおける基底膜構築	2017年12月	第90回日本生化学会大会	守矢あかね、辛英哲、遠西祐太、 <u>今村保忠</u>
4	Extracellular matrix in planarians	2017年11月	The 16th International Symposium on Advanced Technology	Kazuto Nakano, Yongchol Shin, <u>Yasutada Imamura</u>
5	3次元再構築による腱のプロテオグリカングリコサミノグリカン鎖のリングメッシュ構造について	2017年6月	第49回日本結合組織学会学術大会	渡邊敬文、亀谷清和、小山洋一、鈴木大輔、 <u>今村保忠</u> 、竹花一成、平松浩二
#6	ウシ角膜由来VI型コラーゲン会合体コート上での細胞培養	2017年6月	第49回日本結合組織学会学術大会	鷹野 椋、佐藤 亜美、辛英哲、藤崎 ひとみ、服部俊治、 <u>今村保忠</u>
#7	血管内皮細胞と線維芽細胞による共培養スフェロイドを用いた血管新生モデルにおけるIV型コラーゲンの局在	2017年6月	第49回日本結合組織学会学術大会	守矢あかね、辛英哲、遠西祐太、 <u>今村保忠</u>
#8	3本らせん構造をもたないIV型コラーゲンポリペプチド鎖(NTH α 1(IV))の産生	2017年6月	第49回日本結合組織学会学術大会	西條 湧紀、秋山 五郎、飯塚 奏瑛、辛 英哲、 <u>今村保忠</u>
9	コラーゲンの歴史:コラーゲン概説	2017年2月	平成28年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会	<u>今村保忠</u>
10	血管内皮細胞と線維芽細胞による共培養スフェロイドを用いた新規血管新生モデル	2016年11月	第39回日本分子生物学会	守矢あかね、辛英哲、遠西祐太、 <u>今村保忠</u>
11	ヒメハブ粗毒由来 metalloproteinase MP09 による Fibronectin の切断部位の特定と細胞遊走の促進	2016年11月	第39回日本分子生物学会	中島昂也、辛英哲、吉江宏崇、 <u>今村保忠</u>
12	Fibrin clot に取込まれた von Willebrand factor multimers は Plamin による fibrin の切断を促進する	2016年9月	第89回日本生化学会大会	富樫兼史、辛 英哲、土門香奈江、松田一沙、三宅晴軌、 <u>今村保忠</u>
13	血漿または fibrin clot での plasmin による von Willebrand factor multimer の切断	2016年9月	第17回 Pharmacology Hematology シンポジウム	富樫兼史、辛 英哲、土門香奈江、松田一沙、三宅晴軌、 <u>今村保忠</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

14	Fibronectin への細胞接着を特異的に阻害するヒメハブ粗毒由来 P-III metalloproteinase MP09 の機能解析と阻害メカニズムの解明	2016 年 7 月	第 63 回トキシシンポジウム	辛 英哲, 吉江宏崇, 岡野有里子, 高橋俊宏, 遠山武志, <u>今村保忠</u>
#15	ウシ角膜由来VI型コラーゲン会合体を用いた細胞培養法	2016 年 6 月	第 48 回日本結合組織学会学術大会	佐藤亜美、鷹野 椋、佐藤 誉紘、辛 英哲、 <u>今村保忠</u>
16	血漿中または Fibrin clot 中での Pm による VWFM の切断	2016 年 6 月	第 38 回 日本血栓止血学会学術大会	富樫兼史, 辛英哲, 土門 香奈江, 三宅晴軌, <u>今村保忠</u>
17	血漿中の plasmin による ADAMTS13 の切断とその VWF 切断活性の低下	2015 年 12 月	第 38 回日本分子生物学会年会/第 88 回日本生化学会大会 合同大会	三宅 晴軌, 辛 英哲, 梅津 文進, 平塚 竜一, 遠藤 佳菜, 副島 見事, <u>今村保忠</u>
#18	フィブロネクチンへの細胞接着を特異的に阻害するヒメハブ粗毒由来 P-3 Metalloproteinase (MP09) の精製と 阻害メカニズムの解明	2015 年 12 月	第 38 回日本分子生物学会年会/第 88 回日本生化学会大会 合同大会	吉江 宏崇, 辛 英哲, 岡野 有里子, 高橋 俊宏, 遠山 武志, <u>今村保忠</u>
19	ヒト血漿中での Plasmin による構造変化した VWF マルチマーの切断	2015 年 12 月	第 38 回日本分子生物学会年会/第 88 回日本生化学会大会 合同大会	富樫 兼史, 辛 英哲, 三宅晴軌, <u>今村保忠</u>
20	Isolation of a venom protein derived from the Ovophis okinavensis (Himehabu) which specifically inhibits cell adhesion to fibronectin and elucidation of the inhibition mechanism	2015 年 8 月	9th International Conference on Proteoglycans and 10th Pan Pacific Connective Tissue Societies Symposium	Hirotaoka Yoshie, Yongchol Shin, Yuriko Okano, Toshihiro Takahashi, Takeshi Tohyama, <u>Yasutada Imamura</u>
21	Incorporation of a peptide nucleic acid into a normal human fibroblast cell reduced type I collagen production	2015 年 8 月	9th International Conference on Proteoglycans and 10th Pan Pacific Connective Tissue Societies Symposium	<u>Yasutada Imamura</u> , Suzuka Tsuboi, Toru Sugiyama, Atsushi Kittaka, Yonchol Shin
22	Plasmin が及ぼすヒト血漿中の ADAMTS13 活性への影響	2015 年 5 月	第 37 回日本血栓止血学会学術集会	三宅晴軌, 辛 英哲, 富樫兼史, 梅津文進, 平塚竜一, 遠藤 佳菜, 副島 見事, <u>今村保忠</u>
#23	3重らせん構造をとらない1本鎖I V型コラーゲンの血管基底膜特異的存在	2015 年 5 月	第 47 回日本結合組織学会学術大会	杉山洋章, 林利彦, <u>今村保忠</u> , 佐藤千尋, 森田誠, 徳中一寛, 大和雅之

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

24	フィブロネクチンへの細胞接着を特異的に阻害するヒメハブ粗毒由来タンパク質の同定と阻害メカニズムの解明 ～ヘビ毒を用いた細胞シート様構造体の作成～	2015 年 5 月	第 47 回日本結合組織学会 学術大会	吉江宏崇, 辛英哲, 岡野有里子, 高橋俊宏, 遠山武志, <u>今村保忠</u>
#25	3本らせん構造を持たないIV型コラーゲンポリペプチド鎖の産生: 培養条件と細胞局在の検討	2015 年 5 月	第 47 回日本結合組織学会 学術大会	佐藤千尋, 鈴木雄太郎, 竹村美希, 鈴木修平, 辛英哲, <u>今村保忠</u>
#26	ナマココラーゲン線維間相互作用	2015 年 5 月	第 47 回日本結合組織学会 学術大会	五十嵐淳, 伊藤駿, 八島晶, 野田和哉, 辛英哲, 今村保忠
27	デアザグアニン誘導体を持つ PNA モノマーの合成	2015 年 3 月	日本薬学会第135年会	杉山 亨, 桑田 啓子, <u>今村保忠</u> , 出水 庸介, 栗原 正明, 高野 真史, 橋高 敦史
28	Isolation and characterization of venom protein derived from the <i>Ovophis okinavensis</i> (Himehabu) which specifically inhibit cell adhesion to fibronectin	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education	Hiroataka Yoshie, Yongchol Shin, Tishihiro Takahashi, Masaki Mizumi, Takeshi Touyama, <u>Yasutada Imamura</u>
29	Elucidation of the mechanism of ADAMTS13 cleavage by plasmin in blood plasma	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education	Haruki Miyake, Yongchol Shin, Yoshinobu Umetsu, Ryuichi Hiratsuka, Akifumi Takahashi, Kana Endo, Kenji Soejima, <u>Yasutada Imamura</u>
#30	Factors on the sea cucumber collagen fibrils which affect interactions between fibrils	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education	Jun Igarashi, Shun Ito, Kazuya Noda, Yongchol Shin, Koji Muakami, Chihiro Mochizuki, Mitsunobu Sato, <u>Yasutada Imamura</u>
31	Modified Deazaguanines for the Synthesis of PNA	2014 年 10 月	第 51 回ペプチド討論会	Toru Sugiyama, Keiko Kuwata, <u>Yasutada Imamura</u> , Yosuke Demizu, Masaaki Kurihara, Masashi Takano, Atsushi Kittaka
32	フィブロネクチンへの細胞接着を特異的に阻害するヒメハブ粗毒由来タンパク質の単離と解析	2014 年 10 月	第 87 回日本生化学会大会	吉江宏崇, 辛英哲, 高橋俊宏, 三隅 柁, 遠山武志, <u>今村保忠</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

33	血漿 ADAMTS13 の plasmin による切断の分子機構の解明	2014 年 10 月	第 87 回日本生化学会大会	三宅晴軌, 辛英哲, 梅津文進, 平塚竜一, 高橋旺史, 遠藤佳菜, 副島見事, 今村保忠
#34	IV型コラーゲンの 3 本らせん形成に及ぼす細胞培養条件の影響	2014 年 6 月	第 46 回日本結合組織学会学術大会・第 61 回マトリックス研究会大会	佐藤 千尋、武村 美希、鈴木 修平、辛 英哲、 <u>今村保忠</u>
#35	MC3T3-E1 細胞によるアパタイト沈着はナマココラーゲン線維により促進される	2014 年 6 月	第 46 回日本結合組織学会学術大会・第 61 回マトリックス研究会大会	五十嵐淳, 原田悠, 辛英哲, 村上拓治, 望月千尋, 佐藤光史, <u>今村保忠</u>
36	血漿中での plasmin による ADAMTS13 の切断にクリングルドメインが関与する	2014 年 5 月	第 36 回日本血栓止血学会学術集会	辛 英哲, 高橋 旺史, 平塚 竜一, 遠藤 佳菜, 副島 見事, <u>今村保忠</u>
1-3&3-2				
1	Plasmin による血漿および血栓中の von Willebrand factor multimers の切断: 止血及び線溶への影響	2018 年 6 月	第 40 回日本血栓止血学会学術集会	富樫兼史、 <u>辛 英哲</u> 、鈴木賢、今村保忠
#2	血管内皮細胞と線維芽細胞による共培養スフェロイドを用いた血管新生モデルに置ける基底膜構築	2017 年 12 月	第90回日本生化学会大会	守矢あかね、 <u>辛 英哲</u> 、遠西祐太、今村保忠
3	Extracellular matrix in planarians	2017 年 11 月	The 16th International Symposium on Advanced Technology	Kazuto Nakano, <u>Yogchol Shin</u> , and Yasutada Imamura
#4	血管内皮細胞と線維芽細胞による共培養スフェロイドを用いた血管新生モデルにおける細胞外マトリックスタンパク質の局在	2017 年 6 月	第 49 回日本結合組織学会学術大会	守矢あかね、 <u>辛英哲</u> 、遠西祐太、今村保忠
5	3 本らせん構造をもたないIV型コラーゲンポリペプチド鎖 (NTH α 1(IV))の産生	2017 年 6 月	第 49 回日本結合組織学会学術大会	西條 湧紀、秋山 五郎、飯塚 奏瑛、 <u>辛 英哲</u> 、今村 保忠
6	ウシ角膜由来VI型コラーゲン会合体コート上での細胞培養	2017 年 6 月	第 49 回日本結合組織学会学術大会	鷹野椋、佐藤亜美、 <u>辛英哲</u> 、藤崎ひとみ、服部俊治、今村保忠
#7	血管内皮細胞と線維芽細胞による共培養スフェロイドを用いた新規血管新生モデル	2016 年 11 月	第 39 回日本分子生物学会年会	守矢あかね、 <u>辛英哲</u> 、遠西祐太、今村保忠
8	ヒメハブ粗毒由来 metalloproteinase MP09 による Fibronectin 切断部位の特定と細胞遊走の促進	2016 年 11 月	第 39 回日本分子生物学会年会	中島昂也、 <u>辛英哲</u> 、吉江宏崇、今村保忠

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

9	血漿または fibrin clot での plasmin による von Willebrand factor multimer の切断	2016 年 9 月	第 17 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム	富樫 兼史、 <u>辛 英哲</u> 、土門 香奈江、松田 一沙、三宅 晴軌、今村 保忠
10	Fibrin clot に取込まれた von Willebrand factor multimers は Plamin による fibrin の切断を促進する	2016 年 9 月	第 89 回 日本生化学会大会	富樫兼史、 <u>辛英哲</u> 、土門 香奈江、三宅晴軌、今村 保忠
11	Fibronectin への細胞接着を特異的に阻害するヒメハブ粗毒由来 P-III metalloproteinase MP09 の機能解析と阻害メカニズムの解明	2016 年 7 月	第 63 回トキシシンポジウム	<u>辛 英哲</u> 、吉江宏崇、岡野 有里子、高橋俊宏、遠山 武志、今村保忠
12	血漿中または Fibrin clot 中での Pm による VWFM の切断	2016 年 6 月	第 38 回 日本血栓止血学会学術大会	富樫兼史、 <u>辛英哲</u> 、土門 香奈江、三宅晴軌、今村 保忠
13	ヒト血漿中での plasmin による構造変化した VWF マルチマーの切断	2015 年 12 月	第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会合同大会	富樫兼史、 <u>辛 英哲</u> 、三宅 晴軌、今村保忠
14	血漿中の plasmin による ADAMTS13 の切断とその VWF 切断活性の低下	2015 年 12 月	第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会合同大会	三宅晴軌、 <u>辛 英哲</u> 、梅津 文進、平塚 竜一、遠藤 佳菜、副島見事、今村保忠
15	フィブロネクチンへの細胞接着を特異的に阻害するヒメハブ粗毒由来 P-3 Metalloproteinase(MP09)の精製と阻害メカニズムの解明	2015 年 12 月	第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会合同大会	吉江宏崇、 <u>辛 英哲</u> 、岡野 有里子、高橋俊宏、遠山 武志、今村保忠
16	Incorporation of a peptide nucleic acid into a normal human fibroblast cell reduced type I collagen production	2015 年 8 月	10th Pan-Pacific Connective Tissue Societies Symposium	Yasutada Imamura, Suzuka Tsuboi, Toru Sugiyama, Atsushi Kittaka, <u>Yongchol Shin</u>
17	Isolation of a venom protein derived from the Ovophis okinavensis (Himehabu) which specifically inhibits cell adhesion to fibronectin and elucidation of the inhibition mechanism.	2015 年 8 月	10th Pan-Pacific Connective Tissue Societies Symposium	Hirotaoka Yoshie, <u>Yongchol Shin</u> , Yuriko Okano, Toshihiro Takahashi, Takeshi Tohyama, Yasutada Imamura
18	フィブロネクチンへの細胞接着を特異的に阻害するヒメハブ粗毒由来タンパク質の精製と阻害メカニズムの解明	2015 年 5 月	第 47 回 日本結合組織学会学術大会	吉江宏崇、 <u>辛英哲</u> 、岡野 有里子、高橋俊宏、遠山 武志、今村保忠

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

19	ナマココラーゲン線維間相互作用	2015年5月	第47回日本結合組織学会学術大会	五十嵐淳、伊藤駿、八島晶、野田和哉、 <u>辛英哲</u> 、今村保忠
20	3本らせん構造をもたないIV型コラーゲンポリペプチド鎖の産生条件と細胞局在の検討	2015年5月	第47回日本結合組織学会学術大会	佐藤千尋、鈴木雄太郎、武村美希、鈴木修平、 <u>辛英哲</u> 、今村保忠
21	Plasminが及ぼすヒト血漿中のADAMTS13活性への影響	2015年5月	第37回日本血栓止血学会学術大会	三宅晴軌、 <u>辛英哲</u> 、富樫兼史、梅津文進、平塚竜一、遠藤佳菜、副島見事、今村保忠
22	Factors on the sea cucumber collagen fibrils which affect interactions between fibrils	2014年11月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education	Jun Igarashi, Syun Ito, Kazuya Noda, Yu Harada, <u>Yongchol Shin</u> , Kouji Murakami, Chihiro Mochizuki, Mitsunobu Sato, Yasutada Imamura
23	Elucidation of the mechanism of ADAMTS13 cleavage by plasmin in blood plasma	2014年11月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education	Haruki Miyake, <u>Yongchol Shin</u> , Yoshinobu Umetsu, Ryuichi Hiratsuka, Akifumi Takahashi, Kana Endo, Kenji Soejima, Yasutada Imamura
24	Isolation and characterization of venom protein derived from the <i>Ovophis okinavensis</i> (Himehabu) which specifically inhibit cell adhesion to fibronectin	2014年11月	The 1st Innovation Forum of Advanced Engineering Education	Hiroataka Yoshie, <u>Yongchol Shin</u> , Toshihiro Takahashi, Misumi Masaki, Takeshi Tohyama, Yasutada Imamura
25	血漿ADAMTS13のplasminによる切断の分子機構の解明	2014年10月	第87回日本生化学会大会	三宅晴軌、 <u>辛英哲</u> 、梅津文進、平塚竜一、高橋旺史、遠藤佳菜、副島見事、今村保忠
26	フィブロネクチンへの細胞接着を特異的に阻害するヒメハブ粗毒由来タンパク質の単離と解析	2014年10月	第87回日本生化学会大会	吉江宏崇、 <u>辛英哲</u> 、高橋俊宏、三隅 柁、遠山武志、今村保忠
27	IV型コラーゲンの3本らせん形成に及ぼす細胞培養条件の影響	2014年6月	第46回日本結合組織学会学術大会 第61回マトリックス研究会大会合同学術集会	佐藤千尋、武村美希、鈴木修平、 <u>辛英哲</u> 、今村保忠
28	MC3T3-E1細胞によるアパタイト沈着はナマココラーゲン線維により促進される	2014年6月	第46回日本結合組織学会学術大会 第61回マトリックス研究会大会合同学術集会	五十嵐淳、原田 悠、 <u>辛英哲</u> 、村上拓治、望月千尋、佐藤光史、今村保忠

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

29	血漿中での plasmin による ADAMTS13 の切断にクリングルドメインが関与する	2014 年 5 月	第 36 回日本血栓止血学会 学術集会	辛 英哲、高橋旺史、平塚 竜一、遠藤 佳菜、副島見事、今村保忠
1-4&3-3				
1	ArenicolideA の合成研究	2019 年 3 月	日本化学会第99春季年会	○川野嘉矩、南雲紳史、 <u>安井英子</u>
#2	チオフェン環の特性を利用した複素環合成法の検討	2019 年 3 月	日本化学会第99春季年会	○大竹薫、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
#3	ヒドラゾノエステル酸化による α -ジアゾエステルの合成	2019 年 3 月	日本化学会第99春季年会	○ <u>安井英子</u> 、似内蒼太、南雲紳史
#4	新規 7 員環合成法の検討	2018 年 9 月	第62回日本薬学会関東支部大会	○二瓶丘、大月理央、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
5	Sekothrixide 及びその類縁体の合成研究	2018 年 9 月	第62回日本薬学会関東支部大会	○辻本和生、勝見大介、中曾根和樹、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
#6	DHMEQ 類縁体の合成とその活性評価	2018 年 3 月	日本薬学会第138年会	○ <u>安井英子</u> 、大月理央、今西善政、寺崎拓郎、大野修、松野研司、南雲紳史
7	環状アセチレンコバルト錯体の脱コバルトを伴う Friedel-Crafts 反応	2018 年 3 月	日本化学会第98春季年会	○山中奎哉、坂田優希、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
8	venturicidinC の C15-27segment の合成	2018 年 3 月	日本化学会第98春季年会	○小澤暢熙、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
9	アレニコライド A の C19-C36 セグメントの合成	2018 年 3 月	日本化学会第98春季年会	○上條陽平、岩田大昌、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
#10	ベンゾジアゼピン誘導体の合成研究	2018 年 3 月	日本化学会第98春季年会	○ <u>安井英子</u> 、津田隼平、南雲紳史
#11	1,2-ベンゾジアゼピン誘導体の合成	2017 年 11 月	第74回有機合成化学協会 関東支部シンポジウム	○津田隼平、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
#12	1,2-ベンゾジアゼピン誘導体の合成研究	2017 年 10 月	第35回メディシナルケミストリーシンポジウム	○ <u>安井英子</u> 、津田隼平、南雲紳史
13	アセチレンコバルト錯体を利用した新規タンデム環化反応における立体制御機構	2017 年 9 月	第61回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会	○坂田優希、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
14	ArenicolideA の中に存在する 26 員環ラクトン構造の合成	2017 年 5 月	第73回有機合成化学協会 関東支部シンポジウム	○岩田大昌、内藤美菜子、砂川晶、 <u>安井英子</u> 、宮下正昭、南雲紳史
15	ArenicolideA の中に存在する 26 員環ラクトン構造の合成	2017 年 3 月	日本薬学会第137年会	○岩田大昌、内藤美菜子、砂川晶、 <u>安井英子</u> 、宮下正昭、南雲紳史

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

16	アセチレンコバルト錯体を利用した新規タンデム環化反応における立体化学的考察	2017年3月	日本化学会第97春季年会	○坂田優希、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
#17	ピロールジエステルの選択的還元反応	2017年3月	日本化学会第97春季年会	○津田隼平、大貫智史、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
18	エポキシジエノエステルの還元的SN2'反応を用いた torrubiellutin 誘導体の合成研究	2017年3月	日本化学会第97春季年会	○室川俊介、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
#19	ジアゾエステルの新規付加反応を利用した種々の複素環合成	2016年11月	第42回反応と合成の進歩シンポジウム	○ <u>安井英子</u> 、津田隼平、南雲紳史、高取和彦
20	14員環マクロライド Sekithrixide の改良合成	2016年3月	日本化学会 第96春季年会	○木村直城、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
21	Pipestelide B の全合成研究	2016年3月	日本化学会 第96春季年会	○勝見大介、小澤暢熙、中曽根和樹、 <u>安井英子</u> 、宮下正昭、南雲紳史
#22	新規7員環合成法の開発	2016年3月	日本化学会 第96春季年会	○大月理央、樋口すみ香、高山敢、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
#23	ピロール-2,5-ジカルボン酸エステルからのカリックスピロール合成研究	2015年11月	複素環化学討論会	○ <u>安井英子</u> 、大貫智史、嶋田佑太、津田隼平、近藤匠、南雲紳史
24	Arenicolide 類の合成研究	2015年9月	第59回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会	○砂川晶、内藤美菜子、勝見大介、 <u>安井英子</u> 、宮下正昭、南雲紳史
#25	新規7員環合成法の開発	2015年9月	第59回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会	○ <u>安井英子</u> 、大月理央、高山敢、樋口すみ香、南雲紳史
26	Prins/Friedel-Crafts タンデム環化反応(3)	2015年3月	日本薬学会第135年会	○坂田 優希、 <u>安井英子</u> 、高取和彦、南雲紳史
27	エポキシ不飽和エステルの還元的SN2'反応	2015年3月	日本薬学会第135年会	○木村 直城、古川晃規、 <u>安井英子</u> 、宮下正昭、南雲紳史
#28	ピロール 2,5-ジカルボン酸エステルからのカリックスピロール合成研究	2015年3月	日本化学会第95春季年会	○ <u>安井英子</u> 、大貫智史、嶋田佑太、近藤匠、南雲紳史
29	Arenicolide 類の合成研究(3)	2015年3月	日本化学会第95春季年会	○砂川晶、内藤美菜子、 <u>安井英子</u> 、宮下正昭、南雲紳史
30	Sekothrixide の第二世代合成研究	2015年3月	日本薬学会第135年会	○中曽根和樹、寺山直樹、 <u>安井英子</u> 、宮下 正昭、南雲紳史

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

31	5 員環選択的 Prins 反応と Friedel-Crafts 反応からなるタンDEM環化反応	2014 年 9 月	第44回複素環化学討論会	○坂田 優希、丹羽孝徳、鈴木裕治、 <u>安井英子</u> 、南雲紳史
4-1				
#1	走査プローブ顕微鏡を用いたキプリス幼生の一時的付着行動における凝着力測定	2019 年 3 月	2019 年度日本付着生物学会研究集会	山口由佳, 塩本昌平, <u>小林元康</u> , 野方靖行
#2	Evaluation of Adhesive Interaction of Polymer Brushes Containing Phosphorylcholine and Choline Phosphate Groups	2018 年 12 月	International Polymer Conference 2018	<u>Motoyasu Kobayashi</u> , Saori Mihara, Kazuo Yamaguchi
#3	Adhesion Force Measurement of Tentacles of Live Cypris by Scanning Force Microscopy	2018 年 12 月	International Polymer Conference 2018	Y. Yamaguchi, S. Shiomoto, K. Yamaguchi, Y. Nogata, <u>M. Kobayashi</u>
4	Dynamics of Water Spreading on Micro-Patterned Polyelectrolyte Brushes Surface	2018 年 12 月	International Polymer Conference 2018	Shohei Shiomoto, Kazuo Yamaguchi, <u>Motoyasu Kobayashi</u>
5	インバースホスホリルコリン型双性イオンポリマーの合成と分子間相互作用	2018 年 10 月	CSJ 化学フェスタ	駒田拓哉, 山口和男, <u>小林元康</u>
6	Adhesion Behavior of Polymer Brushes by Proton Donor-Acceptor Interaction	2018 年 9 月	EURADH2018	Hayato Yoshioka, <u>Motoyasu Kobayashi</u>
7	Interaction Between Polymer Brushes Bearing Phosphorylcholine and Inverse-Phosphorylcholine Groups	2018 年 8 月	5th International Conference and Exhibition on Polymer Chemistry	<u>Motoyasu Kobayashi</u>
8	インバースホスホリルコリン型双性イオン高分子電解質の合成と表面特性解析	2018 年 5 月	第 67 回高分子学会年次大会(名古屋)	<u>小林元康</u> , 三原沙織, 山口和男
9	電子供与性基を有するスチレン誘導体の制御ラジカル重合におけるプロトン性溶媒の添加効果	2018 年 5 月	第 67 回高分子学会年次大会(名古屋)	義岡勇人, 山口和男, <u>小林元康</u>
#10	走査フォース顕微鏡による生体キプリス幼生触角の海水中凝着力測定	2018 年 5 月	第 67 回高分子学会年次大会(名古屋)	山口由佳, 塩本昌平, 山口和男, 野方靖行, <u>小林元康</u>
11	ラインパターン化高分子電解質ブラシ表面における先行薄膜発展の液滴体積依存性	2018 年 5 月	第 67 回高分子学会年次大会(名古屋)	塩本昌平, 山口和男, <u>小林元康</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#12	ポリマーブラシ表面における生体キプリス幼生付着器官の凝着力評価	2018年3月	2018年度日本付着生物学会研究集会	山口由佳, 塩本昌平, <u>小林元康</u> , 野方靖行
13	Intermolecular interaction of polymer brushes containing phosphorylcholine (PC) and inverse-PC」	2018年3月	255th ACS National Meeting	Saori Mihara, <u>Motoyasu Kobayashi</u>
14	Effect of fluoroalcohol on atom transfer radical polymerization of styrene bearing electron-donating group	2018年3月	255th ACS National Meeting	Hayato Yoshioka, <u>Motoyasu Kobayashi</u>
15	Water Transport on Polyelectrolyte Brush Surface Inspired by a Wharf Roach	2017年10月	6th Nagoya Biomimetics International Symposium (NaBIS)	Shohei Shiimoto, <u>Motoyasu Kobayashi</u>
#16	走査フォース顕微鏡を用いたキプリス幼生付着器官の水中凝着力測定	2017年10月	2017年度日本付着生物学会シンポジウム	<u>Motoyasu Kobayashi</u>
17	Adhesive Interaction of Polyzwitterion Brushes Containing Sulfo- and Phosphobetaine Groups in Water	2017年10月	3rd International Conference on Bioinspired and Zwitterionic Materials	<u>Motoyasu Kobayashi</u>
18	高分子電解質表面における水の先行薄膜の可視化と伸長速度の時間依存性	2017年10月	第66回レオロジー討論会	<u>小林元康</u> , 塩本昌平
#19	親水性ポリマーグラフト表面と生体キプリス幼生触角との相互作用	2017年9月	第66回高分子討論会	<u>小林元康</u> , 利光祐太, 塩本昌平, 野方靖行
#20	Adhesive Interaction between Cypris Larva and Marine Biofouling Brush Surface	2017年6月	10th International Symposium on Nature-Inspired Technology (ISNIT2017)(Cebu, Philippine)	<u>Motoyasu Kobayashi</u> , Yasuyuki Nogata
21	スルホベタイン型ポリマーブラシの水中における凝着力の温度依存性	2017年6月	第55回日本接着学会年次大会(関西大学)	<u>小林元康</u> , 山崎絢乃, 利光祐太
#22	走査フォース顕微鏡による双性イオン型高分子電解質表面の凝着力の比較	2017年6月	平成29年度繊維学会年次大会(船堀)	<u>小林元康</u> , 三原沙織, 山崎絢乃, 山口和男
#23	生体キプリス幼生触角とスルホベタイン高分子表面との水中接着力測定	2017年5月	第66回高分子学会年次大会(幕張)	<u>小林元康</u> , 利光祐太, 野方靖行

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

#24	インバースホスホリルコリン型ポリマーブラシの水中フォースカーブ測定	2017年5月	第66回高分子学会年次大会(幕張)	三原沙織, 山口和男, 小林元康
#25	キブリス幼生固定化カンチレバーを用いた触角の水中凝着力評価	2017年3月	日本付着生物学会研究集会	小林元康, 利光祐太, 野方靖行
26	Adhesion of Poly(vinyl pyridine) Brushes by Means of Hydrogen Bonding Interaction	2016年12月	The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC 2016)(Fukuoka, Japan)	Hayato Yoshioka, Chiharu Izumi, <u>Motoyasu Kobayashi</u>
#27	Force Curve Measurement of Polyzwitterion Brushes Containing Inverse Phosphorylcholine Group in Water	2016年12月	The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC 2016)(Fukuoka, Japan)	<u>Motoyasu Kobayashi</u> , Saori Mihara, Ayano Yamazaki, Yusuke Imamura
28	Adhesive Interaction of Polyzwitterion Brushes Containing Inverse Phosphorylcholine Group	2016年11月	Material Research Society 2016 Fall meeting (Boston, USA)	<u>Motoyasu Kobayashi</u>
29	Molecular Interaction Forces of Poly(sulfobetaine) Brushes with Various Methylene Chain Length in Betaine Unit	2016年11月	International Symposium on Biomedical Engineering (Tokyo Med. Den. Univ., Japan)	Ayano Yamazaki, <u>Motoyasu Kobayashi</u>
30	Repeatable Adhesion Using a Hydrogen-bonding Interaction of Poly(2-vinylpyridine) Brushes	2016年6月	The 6th Asian Conference on Adhesion (ACA2016) (Tokyo Tech. Japan)	Chiharu IZUMI, Hayato YOSHIOKA, <u>Motoyasu Kobayashi</u>
31	メチレン鎖数が異なるスルホベタイン型ポリマーブラシの水中凝着力測定	2016年6月	平成28年度繊維学会年次大会@タワーホール船堀	山崎絢乃, 山口和男, 小林元康
32	インバースホスホリルコリン基を有するポリマーブラシの表面特性解析	2016年6月	平成28年度繊維学会年次大会@タワーホール船堀	小林元康, 今村祐介, 山口和男
33	ラインパターン化高分子電解質ブラシ表面の異方性濡れ	2016年5月	第65回高分子学会年次大会@神戸国際会議場	塩本昌平, 山口和男, 小林元康
34	Repeatable Adhesion System Using Proton-acceptable and Donative Polymer Brushes	2015年12月	2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu, USA)	Hayato Yoshioka, Miki Shida, Kazuo Yamaguchi, <u>Motoyasu Kobayashi</u>
35	スルホベタイン型ポリメタクリレートブラシ表面の相互作用の評価	2015年11月	日本バイオマテリアル学会	山崎絢乃, 山口和男, 小林元康

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

36	ポリマーブラシ間の水素結合性相互作用を利用した繰り返し接着	2015年6月	第53回日本接着学会年次大会	<u>小林元康</u> , 渡邊駿, 志田光紀, 山口和男
37	セリン含有ポリカルボキシベタインブラシの表面濡れ性におけるpH依存性	2015年5月	第64回高分子学会年次大会	池田誠, 山口和男, <u>小林元康</u>
38	側鎖にセリンを結合した双性イオン高分子ブラシの合成と その表面特性解析	2015年5月	第69回有機合成化学協会関東支部シンポジウム	池田誠, 山口和男, <u>小林元康</u>
1-5&4-2				
#1	Spectroscopic Study of Intermolecular Interactions between Collagen and Heparin	2017年11月	MRS Fall Meeting	T. Kawai, S. Hamamura, Y. Imamura, <u>Y. Itoh</u>
2	液晶性高熱伝導高分子の高熱伝導メカニズム	2016年11月	武蔵野地区高分子懇話会	<u>伊藤雄三</u>
3	Analysis of high thermal conductivity mechanism of side chain type liquid crystalline methacryl polymers with odd number of spacer carbons	2016年11月	Material Research Society, Fall Meeting	<u>Yuzo Itoh</u> , Kengo Ando, and Tadatomo Kawai
4	Synthesis of methacrylate polymers that have spacer carbon number 2 or 6 and alkyl chain length 6 of mesogen, phenyl benzoate end group and analysis of their high thermal conductivity mechanism	2016年11月	Material Research Society, Fall Meeting	<u>Yuzo Itoh</u> , Norihisa Abe, and Tadatomo Kawai
5	HPLCによるRAFTコポリマーの組成不均一性の解析	2016年10月	第21回 高分子分析討論会	川井忠智, 駒崎早妃子, 佐々木貴広, <u>伊藤雄三</u>
6	フェニルベンゾエート型メソゲンの先端アルキル鎖長6を持ちスペーサー長2、6のメタクリルポリマーの合成及び熱伝導メカニズムの解析	2016年9月	第65回高分子討論会	阿部哲久, 川井忠智, <u>伊藤雄三</u>
7	側鎖にフェニルベンゾエート型メソゲンを有しスペーサーとしてアルキル鎖長が 奇数のメタクリルポリマーの熱伝導メカニズムの解析	2016年9月	第65回高分子討論会	安藤健吾, 川井忠智, <u>伊藤雄三</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

8	スチレン-アクリレート系 RAFT 共重合体の HPLC による組成不均一性の解析	2016 年 9 月	第65回高分子討論会	川井忠智, 駒崎早妃子, 佐々木貴広, <u>伊藤雄三</u>
9	熱伝導の基礎と高分子の高熱伝導性メカニズム	2016 年 1 月	高熱伝導性樹脂の開発と高熱伝導性メカニズム講演会	
10	Study on the effect of high pressure hydrogen on the higher order structures of NBR rubber materials cross-linked by sulfur and peroxide by using FT-IR spectroscopy	2015 年 12 月	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacific Chem 2015)	<u>Yuzo Itoh</u> , Kazuki Okano, Tadatomo Kawai, Hirotada Fujiwara, and Shin Nishimura
11	Study on higher order structure change of NBR rubber with different acrylonitrile contents at high-pressure hydrogen exposure by FTIR spectroscopy	2015 年 12 月	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacific Chem 2015)	<u>Yuzo Itoh</u> , Ryosuke Naganuma, Sayuki Niimura, Tadatomo Kawai, Hirotada Fujiwara, and Shin Nishimura
12	Study on high thermal conductivity mechanism of Biphenyl benzoate twin-mesogen epoxy polymer	2015 年 12 月	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacific Chem 2015)	<u>Yuzo Itoh</u> , Takuto Suzuki, Tadatomo Kawai
13	Structural chemical study on high thermal conductivity mechanism of the phenylbenzoate twin-mesogen epoxy polymer	2015 年 12 月	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacific Chem 2015)	<u>Yuzo Itoh</u> , Naoto Nishimura, Tadatomo Kawai
14	Characterization of the chemical composition heterogeneity in poly(styrene-co-butyl acrylate) by RAFT copolymerization	2015 年 12 月	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacific Chem 2015)	Tadatomo Kawai, <u>Yuzo Itoh</u> , Kouki Sudo, Ryou Sato
15	硫黄架橋及び過酸化物架橋ゴム材料に対する 高圧水素曝露後の高次構造変化の FT-IR による解析	2015 年 12 月	第 27 回エラストマー討論会	<u>伊藤雄三</u> ・○長沼瞭介・川井忠智、藤原広匡・西村伸
16	ビフェニルベンゾエートツインメソゲン型エポキシポリマーの高熱伝導メカニズムの構造化学的研究	2015 年 9 月	第 64 回高分子討論会	<u>伊藤雄三</u> , 鈴木拓斗, 川井忠智
17	液晶性高熱伝導高分子の高熱伝導メカニズム	2015 年 3 月	高分子基礎物性研究会	

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

18	高圧水素曝露によるゴム材料及び添加剤の高次構造変化のFT-IR を用いた振動分光学的検討	2014 年 12 月	第 26 回エラストマー討論会	伊藤雄三・○長沼瞭介・新村彩幸・川井忠智、藤原広匡・西村伸
19	Study on the chemical composition heterogeneity in copolymers prepared by Reversible Addition-Fragmentation Chain Transfer polymerization (RAFT) by using Adsorption High-Performance Liquid Chromatography	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Education (IFAEE)	Yohei Koyama, Tadatomo Kawai*, and <u>Yuzo Itoh</u>
20	Study on high thermal conductivity mechanism of 2,7-Naphthalene benzoate twin-mesogen epoxy polymer	2014 年 11 月	The 1st Innovation Forum of Advanced Education (IFAEE)	Meguru Furukawa , Tadatomo Kawai and Yuzo Itoh* Meguru Furukawa , Tadatomo Kawai and Yuzo Itoh* Meguru Furukawa , Tadatomo Kawai and <u>Yuzo Itoh*</u>
21	液晶性ポリメタクリレート熱伝導性	2014 年 10 月	第19回高分子分析討論会	友野文彰、川井忠智、 <u>伊藤雄三</u>
22	ツインメソゲン型エポキシポリマーの熱伝導性とメソゲン間のスペーサー長の関係	2014 年 10 月	第19回高分子分析討論会	長谷川祐大、川井忠智、 <u>伊藤雄三</u>
23	Development of Novel Nano-structure high Thermal Conductivity Polymers and Study on Their Thermal Conductivity Mechanism	2014 年 9 月	Polysolvat 10	<u>Yuzo Itoh</u> , Chikako Nakajima, Shuji Kawamot and Tadatomo Kawai
24	Study on high thermal conductivity mechanism of 2,7-Naphthalene benzoate twin-mesogen epoxy polymer	2014 年 9 月	Polysolvat 10	Meguru Furukawa , Tadatomo Kawai and Yuzo Itoh* Meguru Furukawa , Tadatomo Kawai and Yuzo Itoh* Meguru Furukawa , Tadatomo Kawai and <u>Yuzo Itoh*</u>
25	Study on the chemical composition heterogeneity in copolymers prepared by Reversible Addition-Fragmentation Chain Transfer polymerization (RAFT) by using	2014 年 9 月	Polysolvat 10	Yohei Koyama, Tadatomo Kawai*, and Yuzo Itoh Meguru Furukawa , Tadatomo Kawai and Yuzo Itoh* Meguru Furukawa , Tadatomo Kawai and <u>Yuzo Itoh*</u>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

Adsorption High-Performance
Liquid Chromatography

26	HPLC による RAFT 共重合体の組成不均一性の解析	2014 年 9 月	第 63 回高分子討論会	川井忠智、 <u>伊藤雄三</u>
27	スチレン-アクリレート系 RAFT 共重合体の組成不均一性の解析	2014 年 9 月	第 63 回高分子討論会	小山陽平、川井忠智、 <u>伊藤雄三</u>
28	ビフェニルベンゾエートエポキシポリマーの熱伝導率と秩序構造	2014 年 5 月	第 63 回高分子学会年会	川本秀士、名取洸、川井忠智、 <u>伊藤雄三</u> 、藤原広匡、西村伸
29	HPLC による RAFT 共重合体の組成不均一性の解析	2014 年 5 月	第 63 回高分子学会年会	川井忠智、 <u>伊藤雄三</u>
30	スチレン-アクリレート系 RAFT 共重合体の組成不均一性の解析	2014 年 5 月	第 63 回高分子学会年会	小山陽平、川井忠智、 <u>伊藤雄三</u>

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

・生体分子システムセンター報告会開催

BMSC 最終報告会 工学院大学八王子キャンパス 1N-338 教室 2019 年 4 月 20 日

BMSC 中間報告会 工学院大学八王子キャンパス 04-201 講義室 2018 年 3 月 15 日

BMSC 中間報告会 工学院大学新宿キャンパス A0815 教室 2017 年 3 月 15 日

<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwb1062/recruit.html>

2015 年度後期報告会 工学院大学新宿キャンパス A0815 教室 2016 年 3 月 8 日

<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwb1062/contact.html>

2015 年度前期報告会 工学院大学八王子キャンパス 15 号館 208 室 2015 年 7 月 18 日

<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwb1062/contact.html>

・生体分子システム(研究会)講演会開催状況

第8回 北海道大学名誉教授 小林淳一先生講演会

講演タイトル:「生物活性天然分子のケミカルバイオロジー」

2017 年 1 月 11 日

第7回 ハワイ大学 M. A. Tius 教授講演会

講演タイトル:「Catalyzed Nazarov and Nazarov-type Cyclization」

2016 年 10 月 29 日

第6回 University of Gothenburg 山崎泰男博士講演会

講演タイトル:「エントソームーリサイクリング経路を制御する膜型ユビキチンリガーゼに関する研究」

2015 年 5 月 20 日

第5回 工学院大学准教授 菅原康里准教授講演会

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

講演タイトル:「グルカンの化学」

2015年3月5日

第4回 関西学院大学名誉教授 勝村成雄先生講演会

講演タイトル:「天然物合成の醍醐味ー海洋光合成を担う多官能性カロテノイドの合成と機能解明の物語」

2014年12月5日

第3回 東京農工大学大学院生命工学科 長澤和夫教授講演会

講演タイトル:「DNA グアニン4重鎖構造をガン分子標的とする創薬研究と生命科学への展開」

2013年11月1日

第2回 大阪市立大学大学院理学研究科 品田哲郎教授講演会

講演タイトル:「カイトセファリンのケミカルバイオロジー研究」

2013年10月4日

第1回 理化学研究所, ERATO-JST 闔闔孝介先生講演会

講演タイトル:「細胞死制御分子の開発とケミカルバイオロジー研究への展開」

2013年8月9日

・シンポジウム

有機合成化学協会関東支部「ミニシンポジウム八王子」共催 2016年10月29日

<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwb1062/recruit.html>

<これから実施する予定のもの>

・創薬人育成サマースクール 2019(関東地区) ~くすりを創る研究の醍醐味を知る! ~
日時 2019年6月29日(土)会場 工学院大学 新宿キャンパス アーバンテックホール
協賛 工学院大学総合研究所 生体分子システム研究センター
開催担当者 松野 研司(工学院大・先進工)

<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwa1068/松野研写真/創薬人2019.pdf>

<インターネットでの公開状況>

- 1) 生体分子システムセンター (BMSC) <http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwb1062/>
- 2) 生体機能化学研究室 <http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwb1040/>
(テーマ 3, 1 今村, 辛)
- 3) 生物医化学研究室 <http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwa1074/>
(テーマ 2 小山, 坂口)
- 4) 医薬化学研究室 <http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwa1068/>
(テーマ 2 松野, 大野)
- 5) 有機合成化学研究室 <http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwb1016/>
(テーマ 1, 3 南雲, 安井)
- 6) 生物資源化学研究室 <http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwb1039/>
(テーマ 2 阿部)
- 7) 有機高分子化学研究室 <http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwa1069/>
(テーマ 4 小林)
- 8) 機能性高分子研究室 <http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwb1032/>
(テーマ 4, 1 伊藤)

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

14 その他の研究成果等

<市民・子供への演示>

第 25 回わくわくサイエンス祭科学教室 2018 年 8 月 24,25 日

工学院大学八王子キャンパス

演示テーマ「くすりの「く」」でポスターにてプロジェクトの紹介

(別紙参照)

<報道>

テレビ

- 1) 山田, NHK 総合, 「あさイチ」「スゴ技 Q」
2017 年 4 月 21 日
- 2) 山田, 日本テレビ, 「所さんの目がテン」「打ちたてそばはなぜ美味しい? 香りを計測!」
2017 年 4 月 16 日
- 3) 山田, 日本テレビ, 「所さんの目がテン!」「毎朝の食卓に欠かせない色パン! 実は近年食感やトースターなど驚きの進化を遂げていた!」
2017 年 4 月 2 日
- 4) 山田, NHK E テレ, 「すイエんサー」「極上メロンパンをたった 30 分で作りた〜い!」
2017 年 3 月 21 日
- 5) 小林, NHK 総合, 「超絶・凄ワザ!」「汚れがすぐ落ちる! 究極のまな板編」
2017 年 1 月 14 日

ラジオ

- 6) 山田, NHK FM, 「トーキング ウィズ 松尾堂」「美味しい粉の秘密を探る」
2017 年 4 月 16 日
- 7) 山田, テレビ朝日, 「林修の今デショ! 講座」, 赤パプリカ, トマトの切れ味, 2017 年 5 月 16 日
- 8) 山田, NHK 総合, 「あさイチ」, 即席麺, 2017 年 4 月 25 日
- 9) 山田, NHK 総合, 「あさイチ」, ごま油, 2017 年 5 月 23 日
- 10) 山田, 日本テレビ, 「所さんの目がテン!」麺類, 2017 年 9 月 17 日
- 11) 山田, NHK-E テレ, 「すイエんサー」, 佐野ラーメン, 2017 年 10 月 10 日
- 12) 山田, テレビ朝日, 「林修の今デショ! 講座」, オリーブ油, ゴマ油, アマニ油, 2017 年 11 月 21 日
- 13) 山田, NHK 総合, 「ガッテン!」, ジャムトースト, バタートースト, 2017 年 11 月 29 日
- 14) 山田, NHK 総合, 「ごごナマ」, 即席麺, 2017 年 12 月 25 日
- 15) 山田, NHK 総合, 「あさイチ」, うどん, 2018 年 1 月 15 日
- 16) 山田, NHK-E テレ, 「すイエんサー」, カレーパン, 2018 年 2 月 1 日
- 17) 山田, NHK 総合, 「ごごナマ」, コロッケ, 2018 年 2 月 28 日
- 18) 山田, 日本テレビ, 「所さんの目がテン!」, とんかつ, 2018 年 3 月 25 日
- 19) 山田, テレビ東京, 「ソレダメ」, うどん, 2018 年 5 月 16 日
- 20) 山田, NHK 総合, 「あさイチ」, 餃子, 2018 年 6 月 5 日
- 21) 山田, テレビ東京, 「ソレダメ」, パン, 2018 年 6 月 9 日

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

- 22) 山田, 日本テレビ, 「所さんの目がテン!」, 素麺, 2018年6月24日
- 23) 山田, NHK 総合, 「ごごナマ」, 素麺, 2018年8月2日
- 24) 山田, テレビ東京, 「ソレダメ」, パン酵母, 2018年8月8日
- 25) 山田, テレビ東京, 「ソレダメ」, 麺, 2018年9月26日
- 26) 山田, NHK 総合, 「あさイチ」, 日本蕎麦, 2018年10月9日
- 27) 山田, NHK 総合, 「あさイチ」, 食パン, 2018年12月25日
- 28) 山田, MBS/TBS, 「教えてもらう前と後」, 食パン, 2019年2月5日
- 29) 山田, NHK-E テレ, 「すイエんサー」, 中華饅頭, 2019年2月19日
- 30) 山田, テレビ東京, 「ソレダメ」, 上白糖, 2019年2月27日

<産学連携事業>

- ・シロカ株式会社と「ハイブリッドオープントースター」を開発
- ・国際粉体工業展依頼講演「粉体産業説明会」, 2016.11, 日本粉体工業技術協会, 山田昌治
- ・国際粉体工業展依頼講演「粉体産業説明会」, 2017.11, 日本粉体工業技術協会, 山田昌治
- ・国際粉体工業展依頼講演「粉体産業説明会」, 2018.11, 日本粉体工業技術協会, 山田昌治
- ・依頼講演「これからの食と健康」, 2016.10, 浜松食品工業会, 山田昌治
- ・依頼講演「食品業界の常識を覆す食品加工法」, 2018.5, 食品ニューテクノロジー研究会, 山田昌治
- ・依頼講演「ESR を用いた食品品質の変化挙動解析」, 2018.11, 日本電子ユーザーズミーティング, 山田昌治

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

該当なし。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成26年度	施設	0						
	装置	53,001	26,501	26,500				
	設備	33,187	13,333	19,854				
	研究費	7,600	4,724	2,876				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	5,195	1,732	3,463				
	研究費	15,605	8,411	7,194				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	15,604	9,209	6,395				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	15,603	8,731	6,872				
平成30年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	15,603	8,576	7,027				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	53,001	26,501	26,500	0	0	0	0
	設備	38,382	15,065	23,317	0	0	0	0
	研究費	70,015	39,651	30,364	0	0	0	0
総計	161,398	81,217	80,181	0	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
<八王子校舎> 工房・化学研究棟 17号館 2階および3階		1875 m ²		6	181		
<八王子校舎> 5号館 2階		518 m ²		2			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

m²

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) FT-NMR装置	26	JNM-ECZ-400S	1	10,626 h	53,001	26,500	私学助成
(研究設備) マルチプレートリーダー	26	SynergyH1	1	1300 h	6,900	4,257	私学助成
分取用高速液体クロマトグラフ設備	26	Prominence	1	230 h	6,634	4,092	私学助成
高速液体クロマトグラフ設備	26	Chromaster	1	800 h	5,070	3,128	私学助成
バイオイメージング設備	26	FSX100,MPK5000	1	3200 h	7,136	3,816	私学助成
ラッドビスコアナライザー設備	26	RVAsuper4	1	2290 h	7,394	4,561	私学助成
細胞培養関連設備	27	倒立型リサーチ顕微鏡システム	1	800 h	5,194	3,463	私学助成
細胞培養関連設備	29	倒立型リサーチ顕微鏡一式	1	450 h	5,324		

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 26 年度	テーマ1	積算内訳	
小科目	支出額	主な用途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	687	研究・実験用	687	水素ナトリウム・真空シールセット・酢酸エチル
光熱水費				
通信運搬費				
印刷製本費				
旅費交通費				
報酬・委託料 ()	10	修理費	10	圧力調整器修理
計	697			
アルバイト関係支出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出 計	0			
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品 図書				
計	0			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費 計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 26 年度 テーマ2			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,948	研究・実験用	2,948	フルオレセイン・PDMidiTrap・酵母エキス
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費				
報 酬 ・ 委 託 料	90	修理費	90	高速液体クロマトグラフィ修理
()				
計	3,038			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

(千円)

年 度	平成 26 年度 テーマ3			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,215	研究・実験用	2,215	セルバンカー・20%塩酸・遠心チューブ
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費				
報 酬 ・ 委 託 料	9	修理費	9	クロマト管他修理
()				
計	2,224			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 26 年度 テーマ4			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	1,641	研究・実験用	1,641	重合用アンプル・アセトニトリル・TSK-GUARD
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費				
報 酬 ・ 委 託 料				
()				
計	1,641			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

(千円)

年 度	平成 27 年度 テーマ1			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	1,800	研究・実験用	1,800	アセトニトリル・イミダゾール・ヘキサン
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費				
報 酬 ・ 委 託 料				
()				
計	1,800			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 27 年度 テーマ2			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	4,110	研究・実験用	4,110	スタンダードオリゴ・アジレント・スタンダードチップ
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	6	送料	6	採集サンプル発送
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費	219	学会参加	219	ホノルル学会出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料	163	修理費	163	温度可変装置修理・恒温装置漏水修理
そ の 他	244		244	学会参加費
計	4,742			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	59	研究・実験用		クールインキュベーターFCI280
図 書				
計	59			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

(千円)

年 度	平成 27 年度 テーマ3			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,710	研究・実験用	2,710	セルカウティングキット・ドライアイス
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費	89	学会参加	89	ソウル学会出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料	998	保守費	998	ECZ400S/LIのヘリウム充填及保守
そ の 他	960		960	学会参加・研究補助者謝金
計	4,757			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	2,112	研究・実験用	2,112	バイオクリーンベンチー式・CO2インキュベーター式
図 書				
計	2,112			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 27 年度 テーマ4			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,130	研究・実験用	2,130	SECカラム・チップレスカンテレーパー・クロロホルム
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費	5	資料印刷	5	文献複写
旅 費 交 通 費				
報 酬 ・ 委 託 料				
そ の 他				
計	2,135			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

(千円)

年 度	平成 28 年度 テーマ1			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	779	研究・実験用	779	ベンゼン-d6・Anti-indol・メタノール
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費	407	学会参加	407	マンチェスター学会出張旅費・仙台学会出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料	3,211	保守費	3,211	JNM-ECZ400S/L1型保守契約(NMR)
そ の 他	156		156	学会参加費
計	4,553			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 28 年度 テーマ2			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	3,963	研究・実験用	3,963	スタンダードチップ・コスモバイオハイブリパック
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費				
報 酬 ・ 委 託 料	438	修理費	438	マイクロビベッタ修理・オートクレーブ修理KS-215
其 他				
計	4,401			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	1,804	研究・実験	1,804	学内3名
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	1,804			

(千円)

年 度	平成 28 年度 テーマ3			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,866	研究・実験用	2,866	BOC-D-TRP・DMEM・30%アクリルアミド
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費				
報 酬 ・ 委 託 料				
其 他				
計	2,866			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 28 年度 テーマ4			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	1,907	研究・実験用	1,907	薬品・シャーレ・ロート・ジプロモヘプタン
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	3	送料	3	アルミ製サンプルプレス送料
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費				
報 酬 ・ 委 託 料	70	委託費	70	論文校閲
そ の 他				
計	1,980			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

(千円)

年 度	平成 29 年度 テーマ1			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	1,102	研究・実験用	1,102	薬品・ドライアイス
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費	395	学会参加	395	ウィーン学会出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料	3,153	保守費	3,153	JNM-ECZ400S/L1型保守契約(NMR)
そ の 他	159		159	学会参加・講演謝金
計	4,809			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 29 年度 テーマ2			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	4,033	研究・実験用	4,033	薬品・減菌シャーレ
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	10	送料	10	実験材料宅配代
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費	79	フィールドワーク	79	沖縄出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料	110	修理費	110	クラリオスタット・クリーンベンチ修理
そ の 他	368	フィールドワーク	368	沖縄出張旅費
計	4,600			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	1,203	研究・実験	1,203	学内2名
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	1,203			

(千円)

年 度	平成 29 年度 テーマ3			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,821	研究・実験用	2,821	薬品・放電灯水銀ランプ
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費	67	学会参加	67	三重出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料				
そ の 他	23		23	学会参加
計	2,911			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 29 年度 テーマ4			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,071	研究・実験用	2,071	薬品・器具類
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費				
報 酬 ・ 委 託 料				
そ の 他	9		9	文献複写
計	2,080			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

(千円)

年 度	平成 30 年度 テーマ1			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	1,183	研究・実験用	1,183	薬品・ガラスプレート
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費	338	学会参加	338	リュブリャーナ出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料	3,152	保守費	3,152	JNM-ECZ400S/L1型保守契約(NMR)
そ の 他	99		99	学会参加登録費
計	4,772			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)				
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 30 年度 テーマ2			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,600	研究・実験用	2,600	薬品・器具類
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	12	送料	12	植物サンプル宅配代
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費	261	フィールドワーク	261	沖縄出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料	155	修理費	155	ピペット・クリーンベンチ修理
そ の 他	354		354	学会・シンポジウム参加費
計	3,382			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	1,086	研究・実験用	1,086	中型恒温振とう培養機
図 書				
計	1,086			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	1,203	研究・実験	1,203	学内2名
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	1,203			

(千円)

年 度	平成 30 年度 テーマ3			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,686	研究・実験用	2,686	薬品・器具類
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費				
旅 費 交 通 費	62	勉強会参加	62	札幌出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料				
そ の 他				
計	2,748			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	404	研究・実験用	404	電動長作動距離コンデンサー
図 書				
計	404			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131017
プロジェクト番号	S1411005

(千円)

年 度	平成 30 年度 テーマ4		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,008	研究・実験用	2,008
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費			
印 刷 製 本 費			
旅 費 交 通 費			
報 酬 ・ 委 託 料			
其 他			
計	2,008		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)			
教 育 研 究 経 費 支 出			
計	0		
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品			
図 書			
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		